2026年度
資金需要者等の借入意識や借入行動等に関する調査報告（概要版）

令和8年10月30日公表

日本貸金業協会
Japan Financial Services Association

目次

調査の背景・目的 3
調査概要 4
標本構成 5

【個人向け調査】
1. 金融リテラシーの現状把握について 10
・金融リテラシーの習得状況 11
・家計管理の実施状況等 13
・金融詐欺に関する知識・理解度 15
・金融経済教育の受講経験と受講意向等 16
・借入先を選ぶ際の情報収集先 18

2.資金需要者等を取り巻く環境の変化について 19
・家計の収支状況の変化と今後の見通し 20
・物価高騰などによる暮らし向きへの影響 21
・金銭債務の状況 22
・利用している決済手段 23

3.資金需要者等の借入れに対する意識と借入行動等について 25
・お金を借りることに対する意識 26
・借入意識や借入行動の変化 27
・借入れを検討した際に計画していた返済金額・期間 28
・借入れを検討した際に計画していた返済原資 29
・借入れできなかった際に取った行動・影響 30

4.借入金の返済状況とセーフティネットの認知等について 31
・借入金返済への影響と今後の見通し 32
・延滞経験の有無と延滞した理由 33
・返済が困難になった場合における手段や行動等 34
・セーフティネット等の認知度 35
・セーフティネット等の利用意向 36

5.貸金業者からの借入れに関する満足度・利用意向等ついて 37
・貸金業者から借入れに関する満足度 38
・借入れについての今後の利用意向等 39

6.社会問題となり得る可能性のある行動等について 40
・ヤミ金融等についての認知・利用に対する意識 41
・ニセ警察詐欺被害について（日本貸金業協会の対応事例） 42
・ニセ警察詐欺被害に遭う可能性等 43

【事業者向け調査】
7.資金需要者等を取り巻く環境の変化について 45
・事業環境の変化と今後の見通し 46
・物価高騰など影響時に検討する手段・方法 47
・新たな資金需要の発生と手形等の運用変更等の影響 48
・事業活動における将来の資金繰りの不安 49

8.資金需要者等の借入れに対する意識等について 50
・借入意識や借入行動の変化 51
・借入先を選定する際の情報収集先 52

9.資金需要者等の借入れ・資金調達行動等について 53
・借入れ・資金調達先として検討した先と選んだ理由 54
・借入申込を行った際の借入金使途 55
・直近3年間の貸金業者への借入申込結果等 56
・個人借入の事業性資金への転用経験等 57
・借入れできなかった際の行動・影響 58

10.借入金の返済状況とセーフティネットの認知等について 59
・借入金の返済状況とセーフティネットの認知等 60

11.貸金業者から借入れした際に満足した点・要望事項等について 61
・貸金業者から借入れした際に満足した点 62

12.社会問題となり得る可能性のある行動等について 63
・ヤミ金融等についての認知・利用に対する意識 64

13.資金調達手段の多様化と課題等について 65
・買掛金や未払金など支払い時に利用している金融サービス 66
・現金化した金額や手数料等 67
・現金化する先として選んだ理由 68
・ファクタリングサービスの認知度・利用意向 69
・現金化する際に重視するポイント・望むこと 70

Copyright © 2026 Japan Financial Services Association. All Rights Reserved

調査の背景・目的

- 昨今、中東情勢の緊迫化など海外の不確実性と地政学リスク等により、日本経済への影響が懸念され、長引くエネルギーや食料品等の価格上昇、住宅ローン金利負担の増加等に対して賃金上昇が追いついておらず、家計の負担感が拭えない状況が続いています。

- また最近の詐欺事案では、「SNS型投資詐欺」、「闇バイト」、「ニセ警察詐欺」、「インターネットバンキングの不正送金」など、スマートフォンやSNS、生成AIを悪用した非対面型の金融犯罪が急増しており、被害が後を絶たない憂慮すべき状況にあります。

こうした背景を踏まえ

- **資金需要者等の利益保護と貸金業の健全な発展を図るため、資金需要者等の借入意識や行動、そして金融リテラシー（金融に関する知識や判断力）などの現状を把握し、各種対策の検討に資することを目的としている。**

Copyright © 2026 Japan Financial Services Association. All Rights Reserved

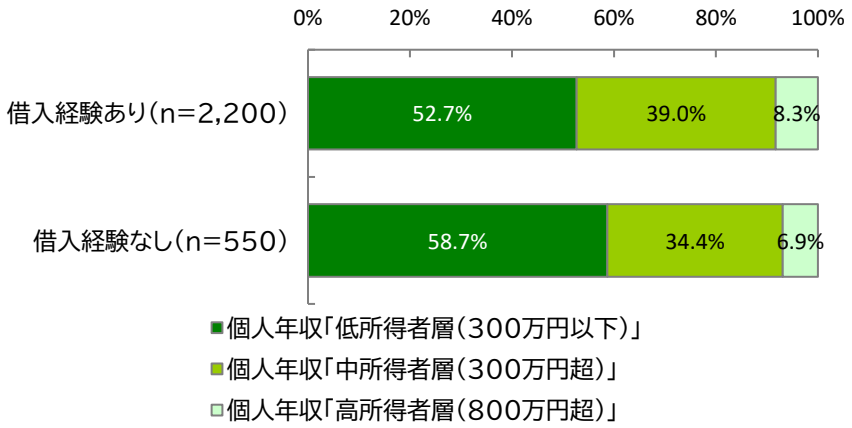
調査概要（個人向け・事業者向け調査共通）

1.調　査　名　称	資金需要者等の借入意識や借入行動等に関する調査
2.調　査　方　法	インターネット調査法（スマートフォン等を利用したモバイルリサーチ）
3.調　査　対　象	調査会社が保有する全国18歳以上のインターネットモニター会員
4.調　査　期　間	2026年7月30日から2026年8月25日
5.主な調査項目 （個人・事業者共通）	**（1）テーマ調査** ①資金需要者等の金融リテラシーや性格特性と借入行動の関係性 ②金利の上昇や物価高騰、米国による追加関税措置などによる資金需要者等への影響 ③資金調達の多様化と課題について　等 **（2）定点調査** ①資金需要者等を取り巻く環境の変化について ②資金需要者等の借入に対する意識や借入行動の変化について ③社会問題となり得る可能性のある行動について　等
6.回収サンプル数	**（1）借入経験のある個人: 2,200名**（借入残高あり 1,100名、借入残高なし 1,100名） ※現在、消費者金融会社やクレジットカード会社・信販会社、その他貸金業者から借入残高がある個人の借入利用者1,100名と借入残高のない借入経験者1,100名を抽出 ※日本信用情報機構の統計データ（2026年3月末時点）に基づき、年齢・男女別で割付を行った ※18歳から22歳までの個人200名（借入残高あり100名・なし100名）を含む **（2）借入経験のない個人：550名** ※年齢や性別で偏りが生じないように借入経験のある個人と同様に割付を行った **（3）借入経験のある事業者：1,300名** ※貸金業者から事業性資金（運転資金・設備資金等）の借入れ経験のある事業者は、本人が経営する会社、または勤め先の会社が、「中小企業基本法第2条第5項」の規定に基づく小規模企業に該当する事業規模の方（個人事業主を含む）を母集団として1,300名を抽出 ※借入経験のある事業者には、支払代行サービス（ＢＰＳＰ）やファクタリングの利用経験がある**300**名を含む

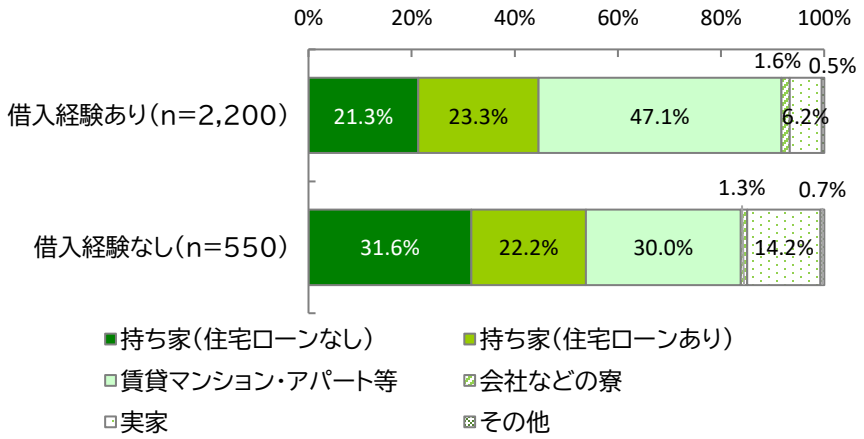
Copyright © 2026 Japan Financial Services Association. All Rights Reserved

標本構成（個人向け調査①）

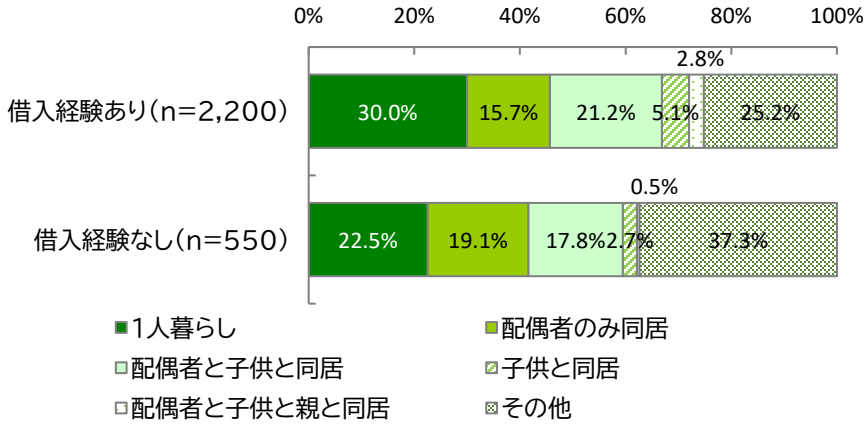
■ 所得階層別構成比



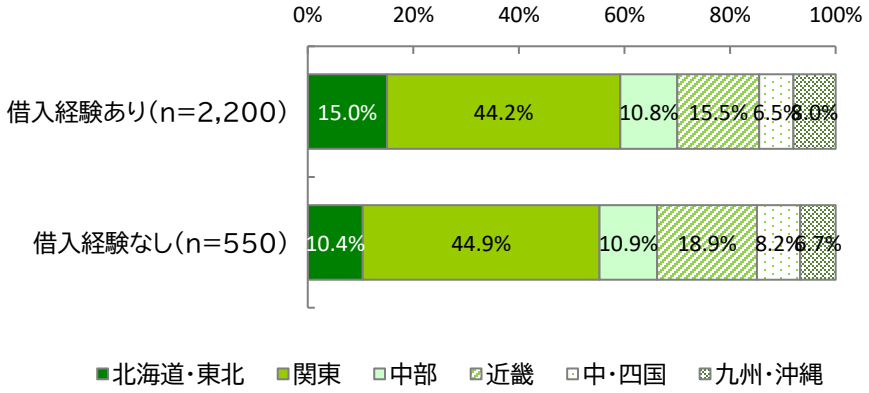
■ 住居形態別構成比



■ 家族構成別構成比



■ 所在地域別構成比

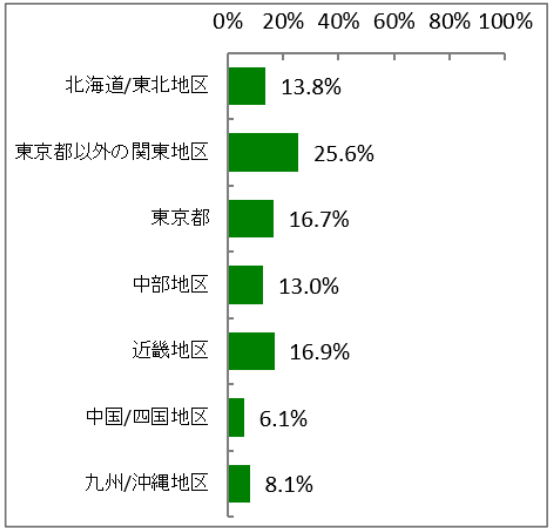


Copyright © 2026 Japan Financial Services Association. All Rights Reserved

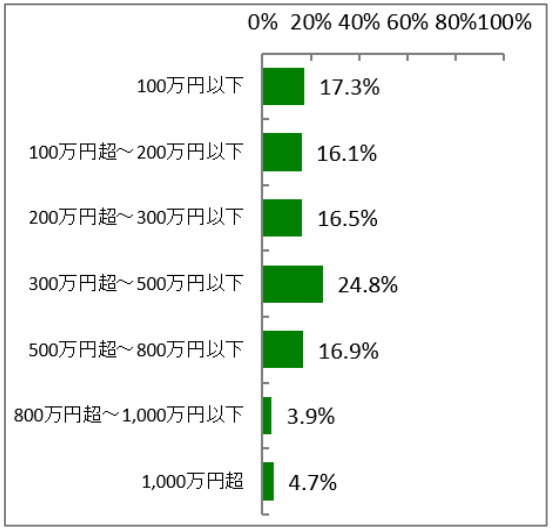
標本構成（個人向け調査②）

＜貸金業者からの借入経験のある個人　n=2,000＞

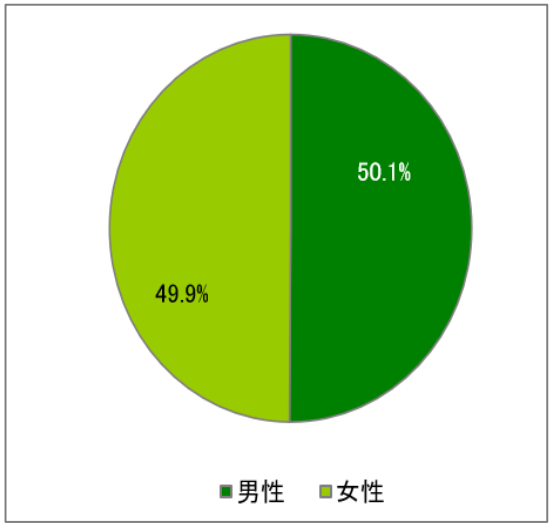
■ 地区



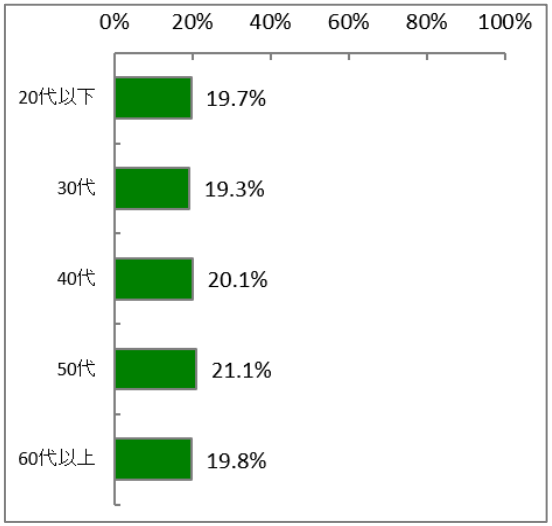
■ 個人年収



■ 男女



■ 年代

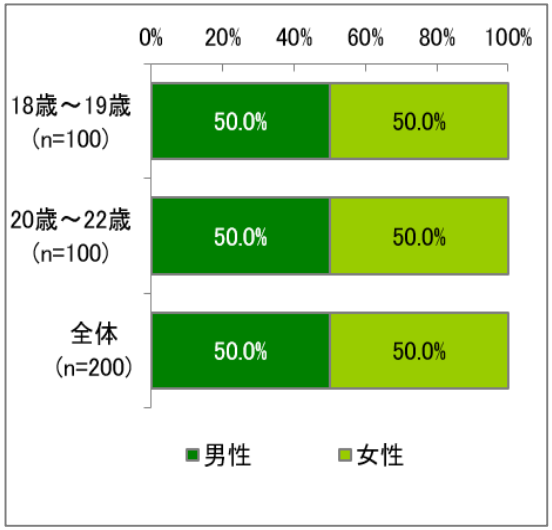


Copyright © 2026 Japan Financial Services Association. All Rights Reserved

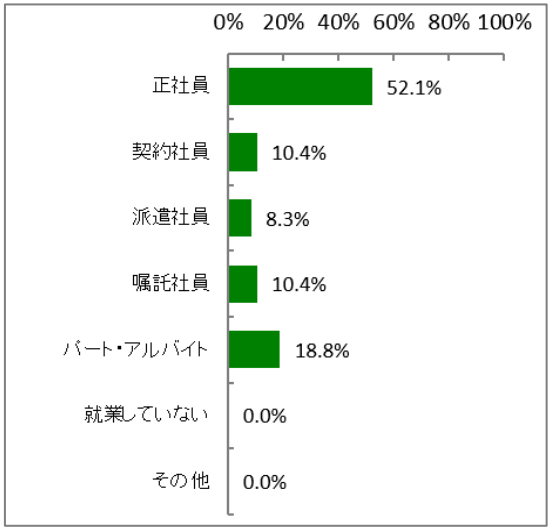
標本構成（個人向け調査③）

＜貸金業者からの借入経験のある18歳から22歳の個人　n=200＞

■ 年代

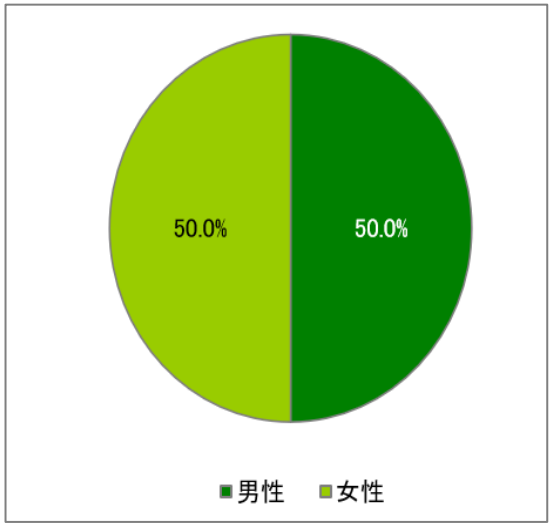


■ 雇用形態

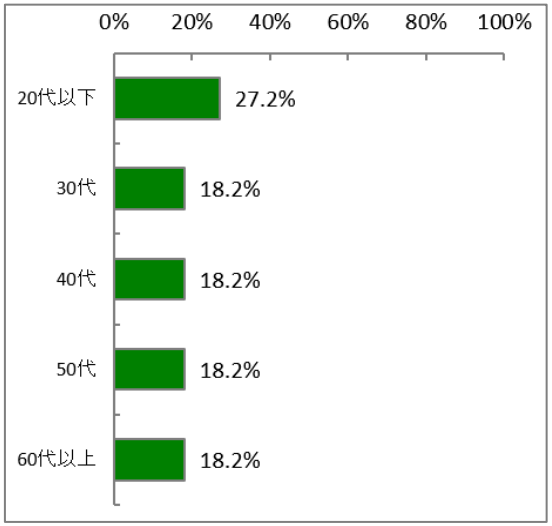


＜貸金業者からの借入経験のない個人　n=550＞

■ 男女



■ 年代

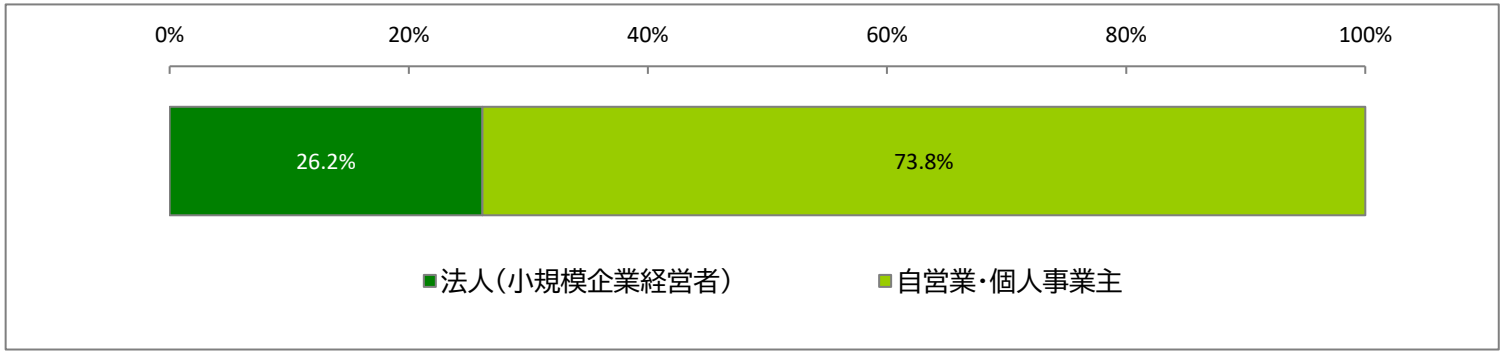


Copyright © 2026 Japan Financial Services Association. All Rights Reserved

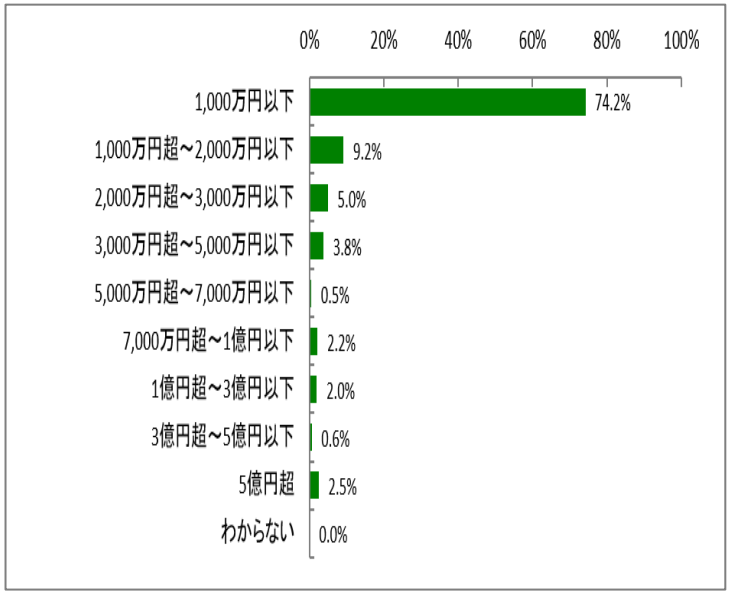
標本構成（事業者向け調査）

＜貸金業者からの借入経験のある事業者　n=1,300＞

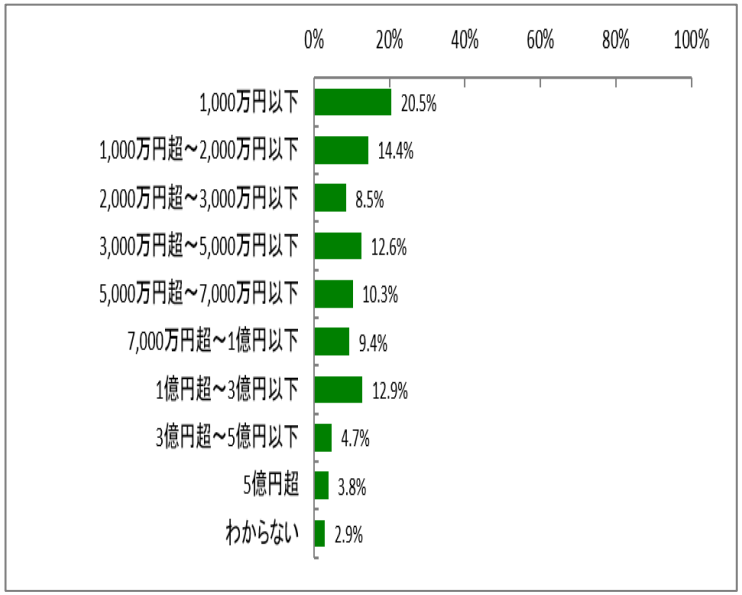
■ 職業（個人事業主・小規模企業経営者）



■ 年商　（個人事業主）



■ 年商　（会社法人）



Copyright © 2026 Japan Financial Services Association. All Rights Reserved

個人向け調査

Copyright © 2026 Japan Financial Services Association. All Rights Reserved

１・
金融リテラシーの現状把握について

Copyright © 2026 Japan Financial Services Association. All Rights Reserved

金融リテラシーの習得状況（ミニテストの結果）

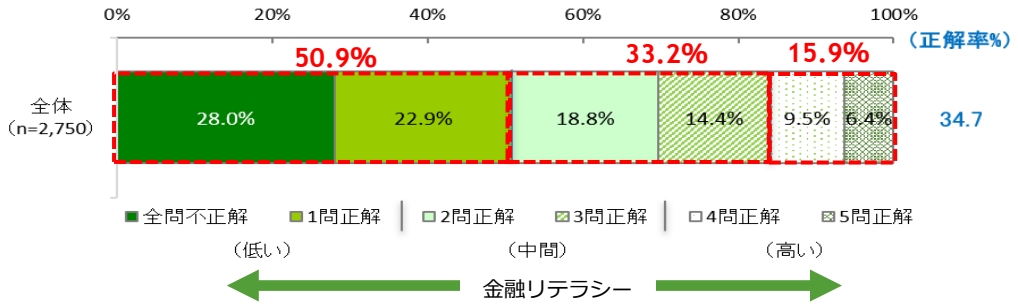
◆ 家計管理、生活設計、金融知識、外部知見の観点から金融リテラシーの理解度を測るために5つの設問からなるミニテストを実施したところ、「全問不正解～1問正解」（金融リテラシー低）が50.9%、「2～3問正解」（金融リテラシー中）が33.2%、「4～5問正解」（金融リテラシー高）が15.9%という結果となった。

ミニテストの内容

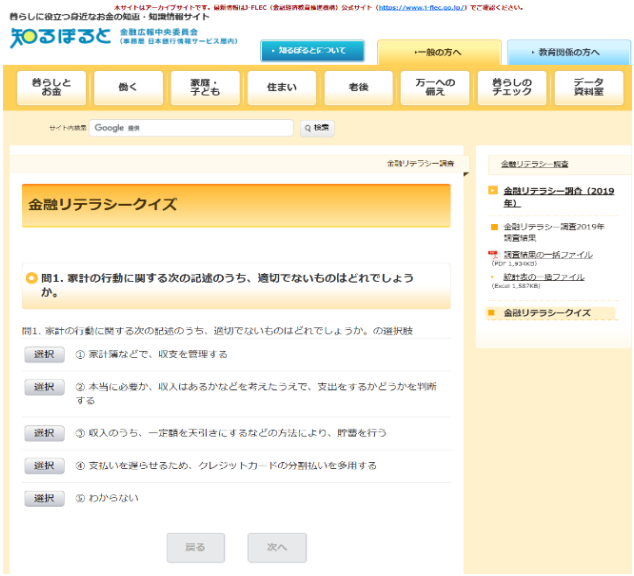
正解率%

	質問内容	協会調査
問1（家計管理）	家計の行動に関する次の記述のうち、適切でないものはどれでしょうか └正解：支払を遅らせるため、クレジットカードの分割払を多用する	37.4
問2（生活設計）	一般に「人生の3大費用」といえば、何を指すでしょうか └正解：子の教育費、住宅購入費、老後の生活費	37.3
問3（金融知識）	金利が上がっていくときに、資金の運用（預金等）、借入れについて適切な対応はどれでしょうか └正解：運用は変動金利、借入れは固定金利にする	31.9
問4（金融知識）	10万円の借入れがあり、借入金利は複利で年率20%です。返済をしないと、この金利では、何年で残高は倍になるでしょうか └正解：2年以上5年未満	32.6
問5（外部知見）	金融商品の契約についてトラブルが発生した際に利用する相談窓口や制度として、適切でないものはどれでしょうか └：正解：格付会社	34.4
	全体正解率（%）	34.7

■ ミニテストの結果



<知るぽると・金融リテラシークイズ画面（イメージ）>



※ミニテストは、金融広報中央委員会が行っていた「金融リテラシークイズ」と同じ質問を採用し、調査結果の比較ができるようにしています。

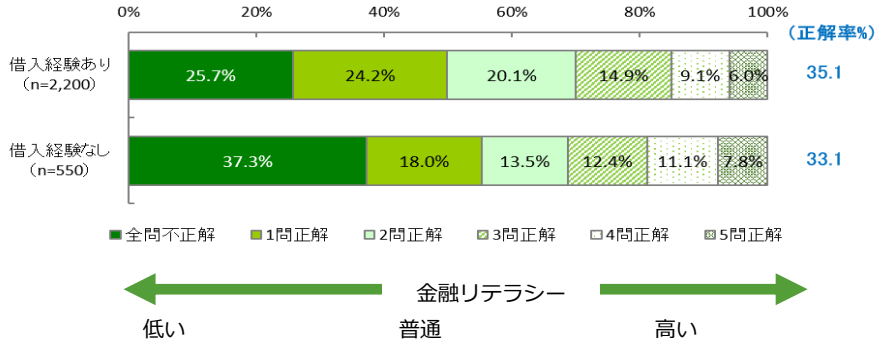
Copyright © 2026 Japan Financial Services Association. All Rights Reserved

金融リテラシーの習得状況（ミニテストの自己評価）

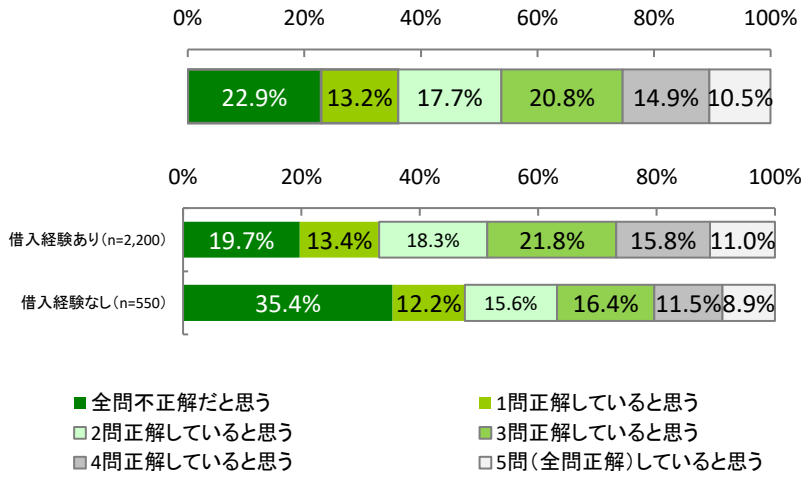
◆年代別でみると、 60代以上では44.6%、20代以下で28.8%と、概ね年代が上がるほど正答率が高まる傾向がみられた。
◆ ミニテストの自己評価と実際の結果との乖離を年代別で比べてみると、 「全問不正解～1問正解」（金融リテラシー低）の乖離は、60代以上では8.5%pt、20代以下で22.8%ptと若年層で大きな差がみられる結果となった。

ミニテストの結果と自己評価

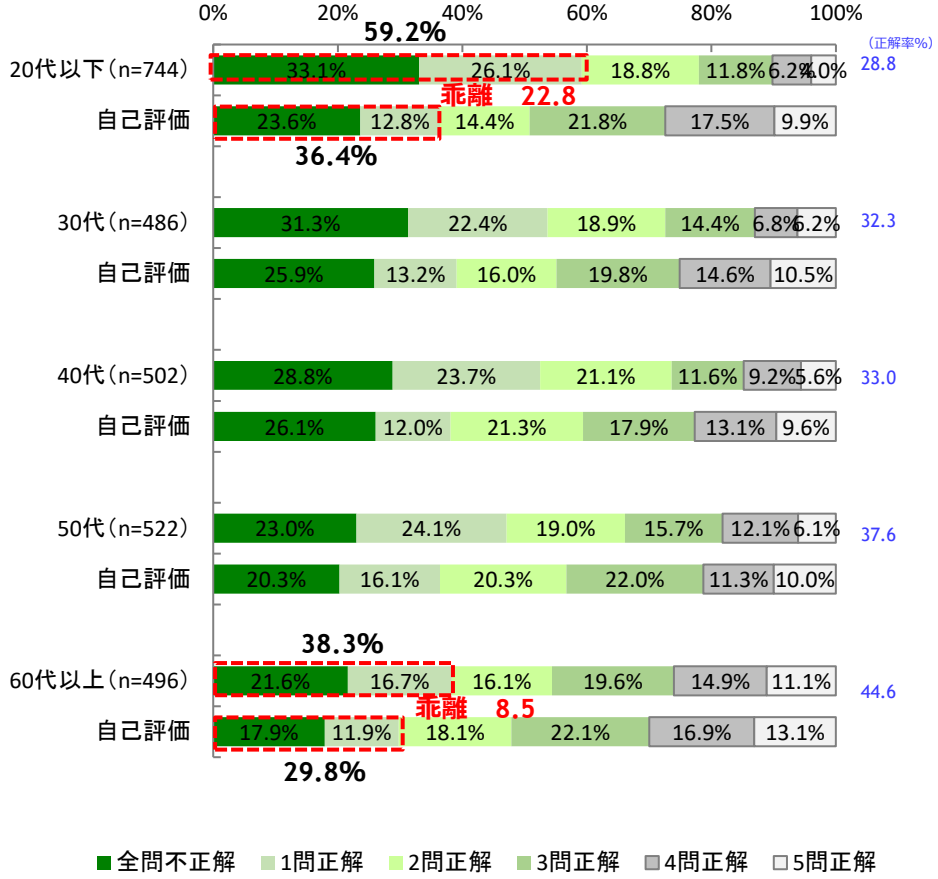
■ ミニテストの結果（借入経験の有無別（n=2,750）



■ 自己評価（借入経験の有無別　n=2,750）



■ 年代別（n=2,750）



Copyright © 2026 Japan Financial Services Association. All Rights Reserved

家計管理の実施状況等①

◆家計管理では「毎月（毎週）の収支状況（赤字／黒字）を把握している」が37.1%で最も多く、「請求書の支払い期日には注意している」35.9%、「契約書や利用明細書等は必ず保管している」29.6%が続いた。

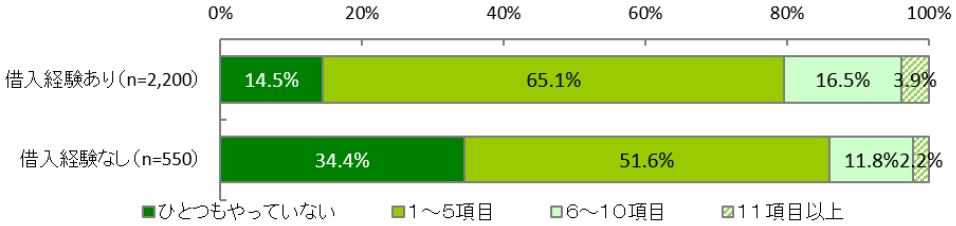
家計管理の実施状況

■ **家計管理の実施状況（n=2,750）**



家計管理項目数

■ **借入経験の有無別（n=2,750）**



<家計における適切な収支管理の習慣>

01 毎月（毎週）の収支（赤字／黒字）を把握している
02 家計簿等でお金の収支の記録をつけている
03 契約書や利用明細書等は必ず保管している
04 請求書の支払い期日には注意している
05 毎月カードの利用明細と保管している領収書の突合せをしている
06 ローンの借入残高はきちんと把握している
07 ローンの返済資金は「必要な支出」と考えていない
08 財布の中の金額や預金口座の残高は常に把握している
09 支出の優先順位を考えてお金を使っている
10 黒字の時は残ったお金を翌月以降の生活費以外の消費に回す
11 赤字の時は支出の改善プランを立ててそれを実行している
12 日用品以外の買い物をするとき、「本当に必要であるか」考えている
13 日用品以外の買い物をするとき、購入後の家計のやりくりについて考えている
14 毎月決まった金額を貯蓄している
15 将来を見据えた家計管理をしている
16 その他

Copyright © 2026 Japan Financial Services Association. All Rights Reserved

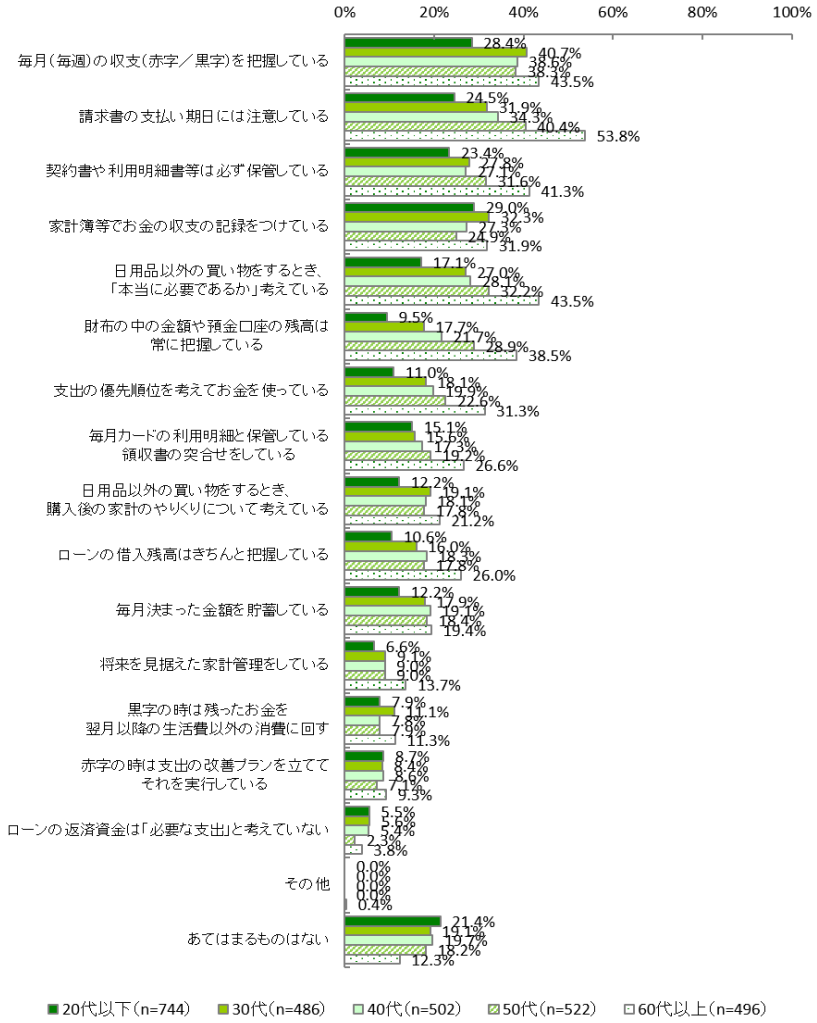
本編P29

家計管理の実施状況等②

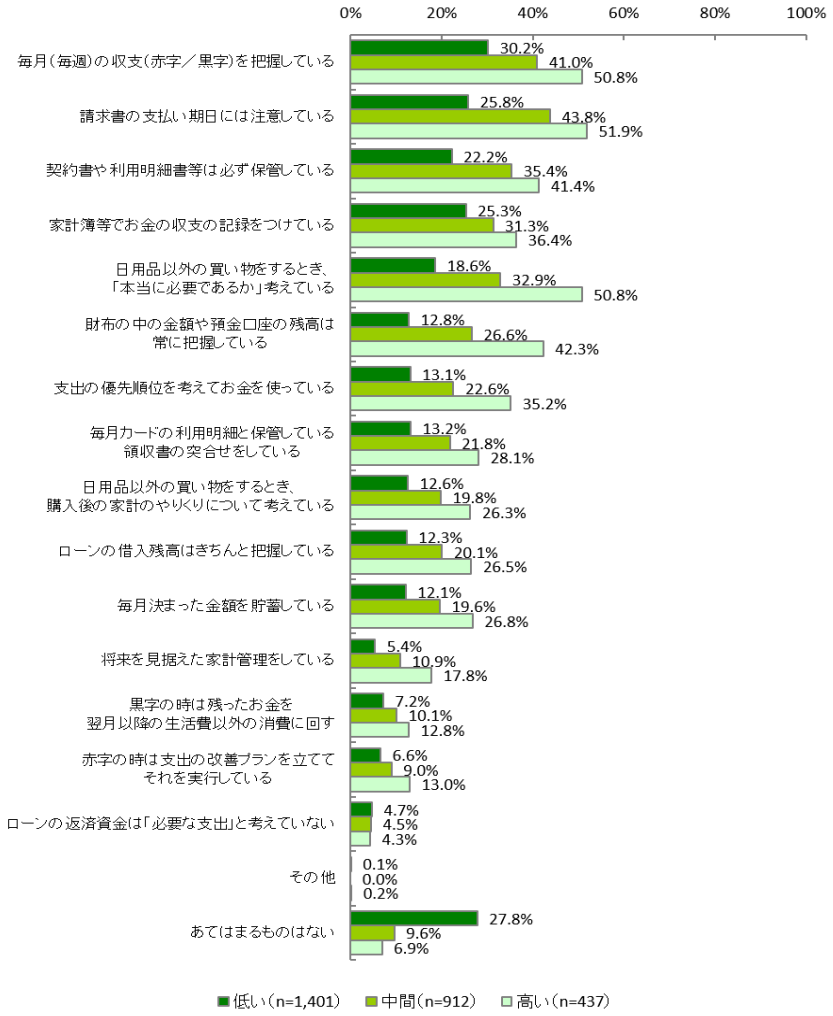
◆家計管理の実施状況を年代別、金融リテラシー別でみると、年代別では、年代が高いほど、金融リテラシー別では、金融リテラシーが高い人ほど、家計管理を実施している割合が高い傾向となった。

家計管理の実施状況

■ 年代別（n=2,750）



■ 金融リテラシー別（n=2,750）

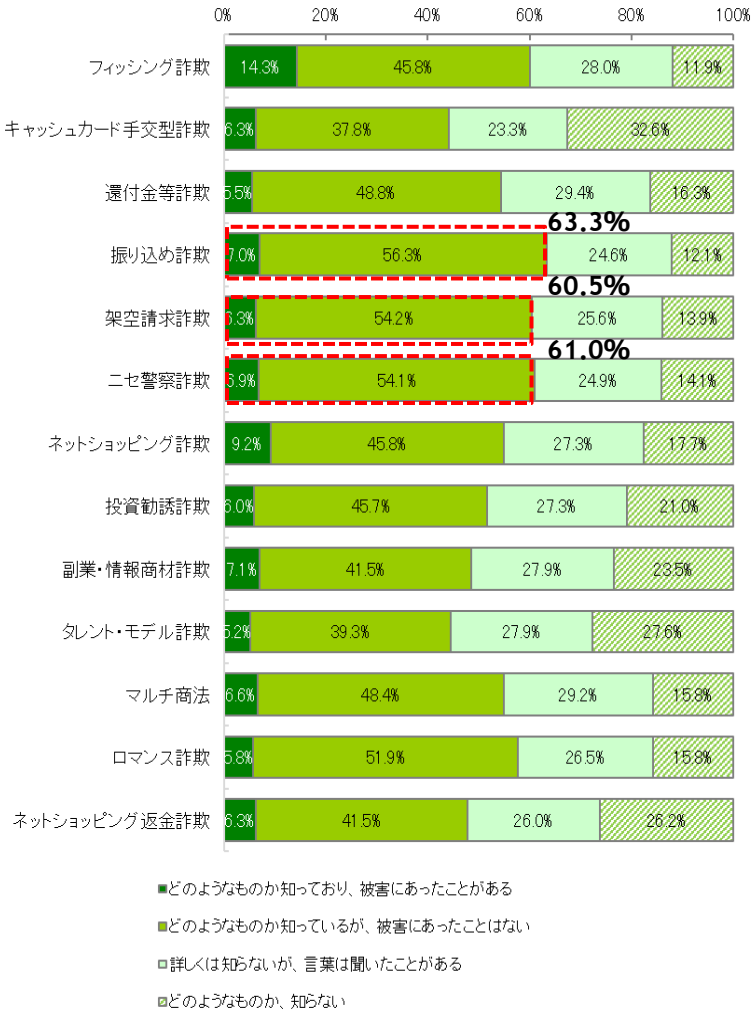


Copyright © 2026 Japan Financial Services Association. All Rights Reserved

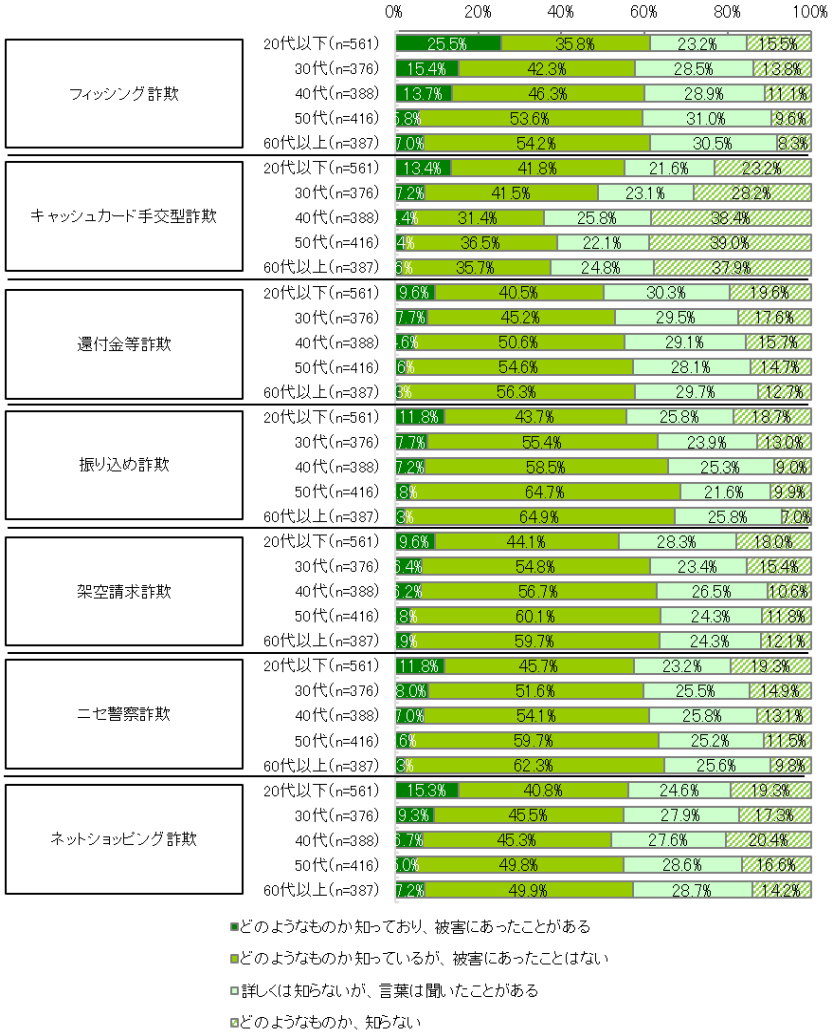
金融詐欺に関する知識・理解度

- 金融詐欺について、「どのようなものか知っている」割合は、「振り込め詐欺」63.3%が最も高く、「ニセ警察詐欺」61.0%、「架空請求詐欺」60.5%が続いた。
- 年代別でみると、若年層ほど「被害にあったことがある」との回答が多い傾向となった。

■ **金融詐欺に関する知識・理解度（n=2,128）**



■ **年代別（n=2,128）**



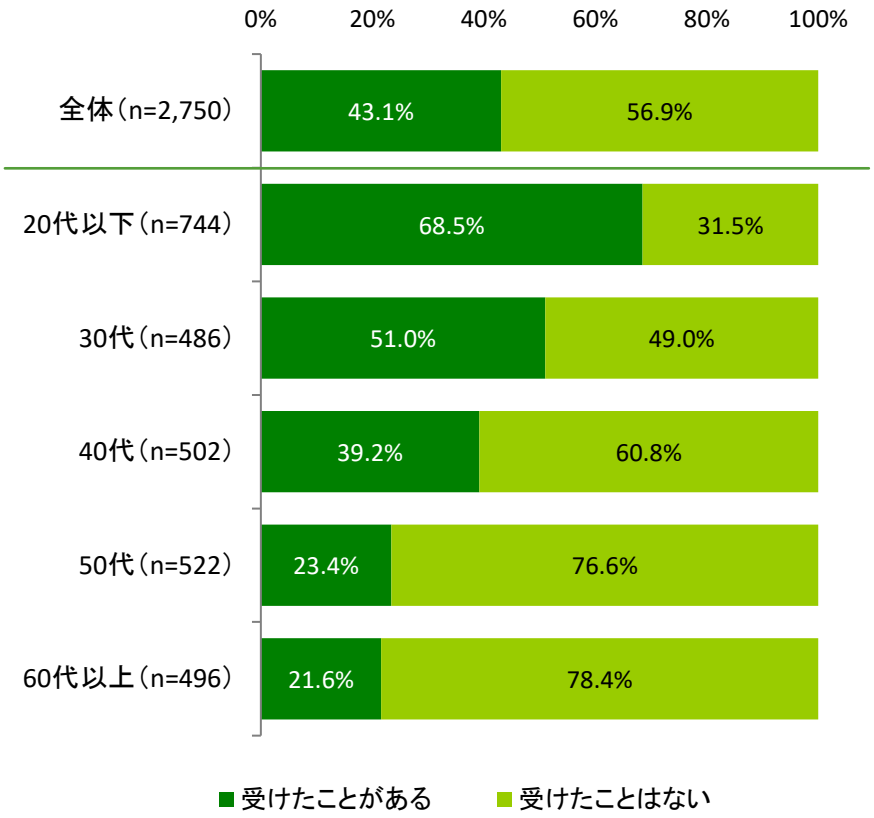
Copyright © 2026 Japan Financial Services Association. All Rights Reserved

金融経済教育の受講経験と受講意向等①

- 金融経済教育の受講経験について調査したところ、43.1%が「受けたことがある」と回答した。
- 受講形態は「学校の授業」14.4%、「動画サイト」13.5%が上位だがいずれも1割台となっている。

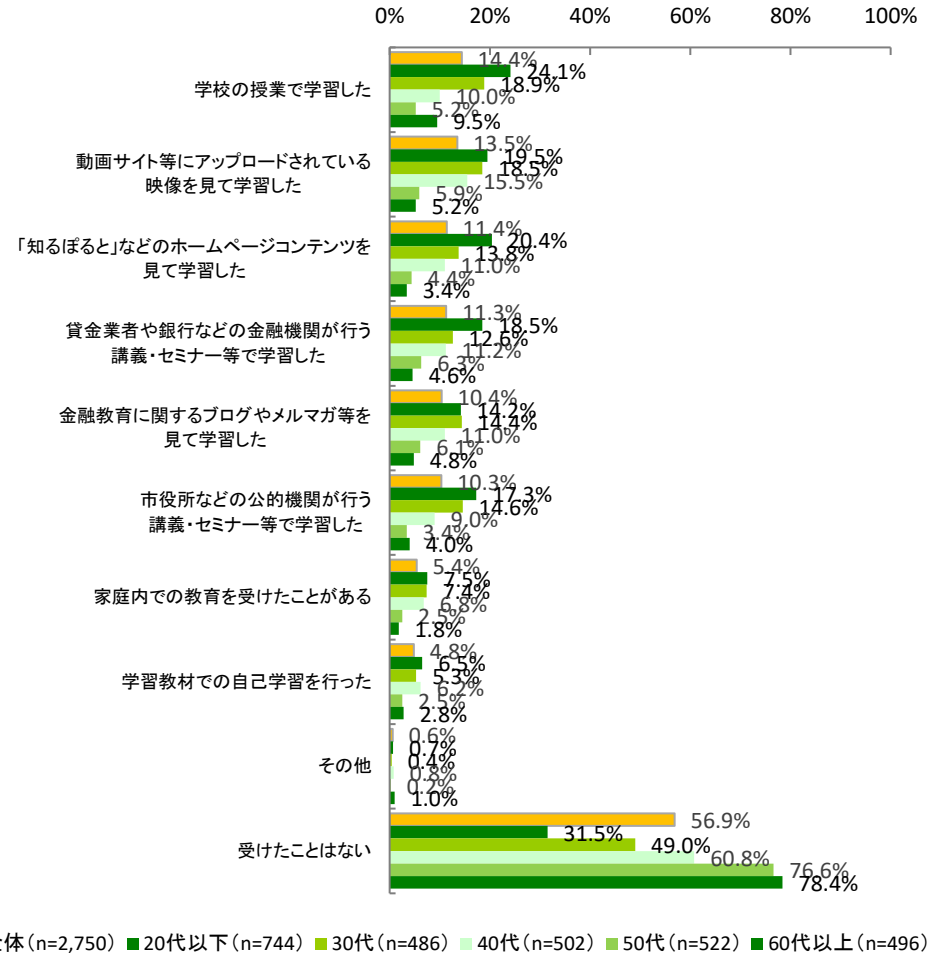
金融経済教育の受講経験

■ 年代別（n=2,750）



金融経済教育の受講形態

■ 年代別（n=2,750）



Copyright © 2026 Japan Financial Services Association. All Rights Reserved

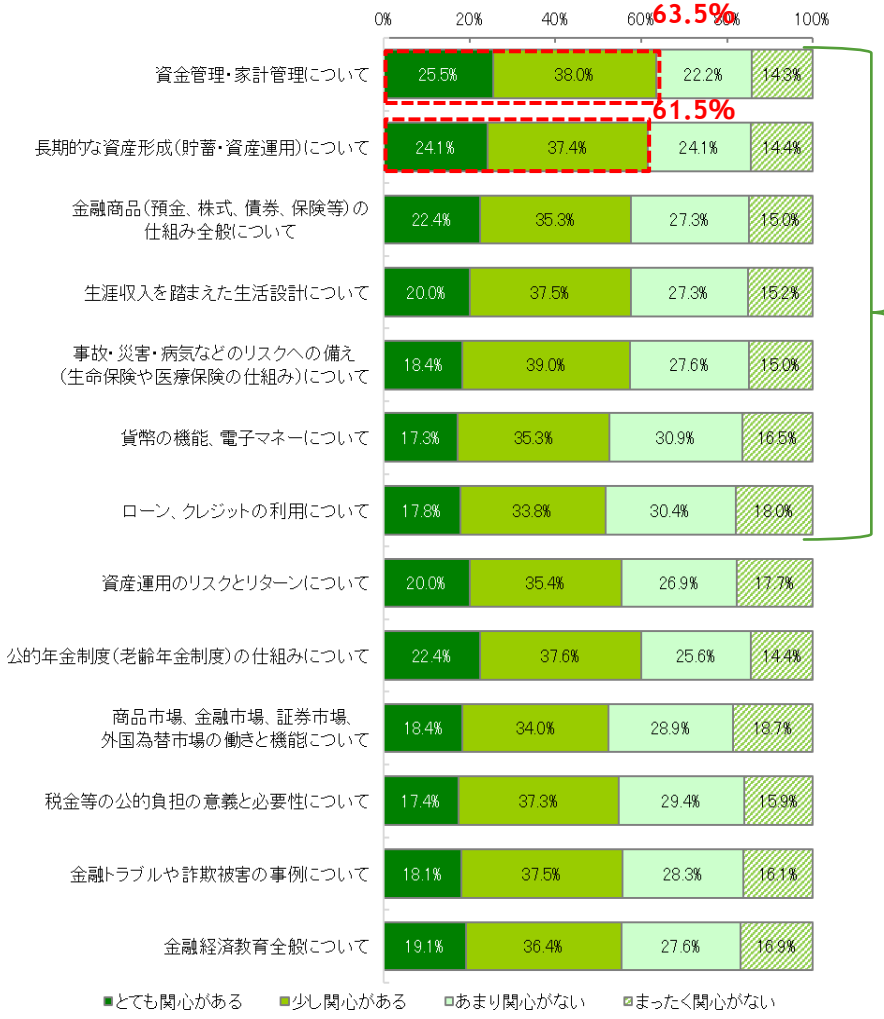
本編P51

金融経済教育の受講経験と受講意向等②

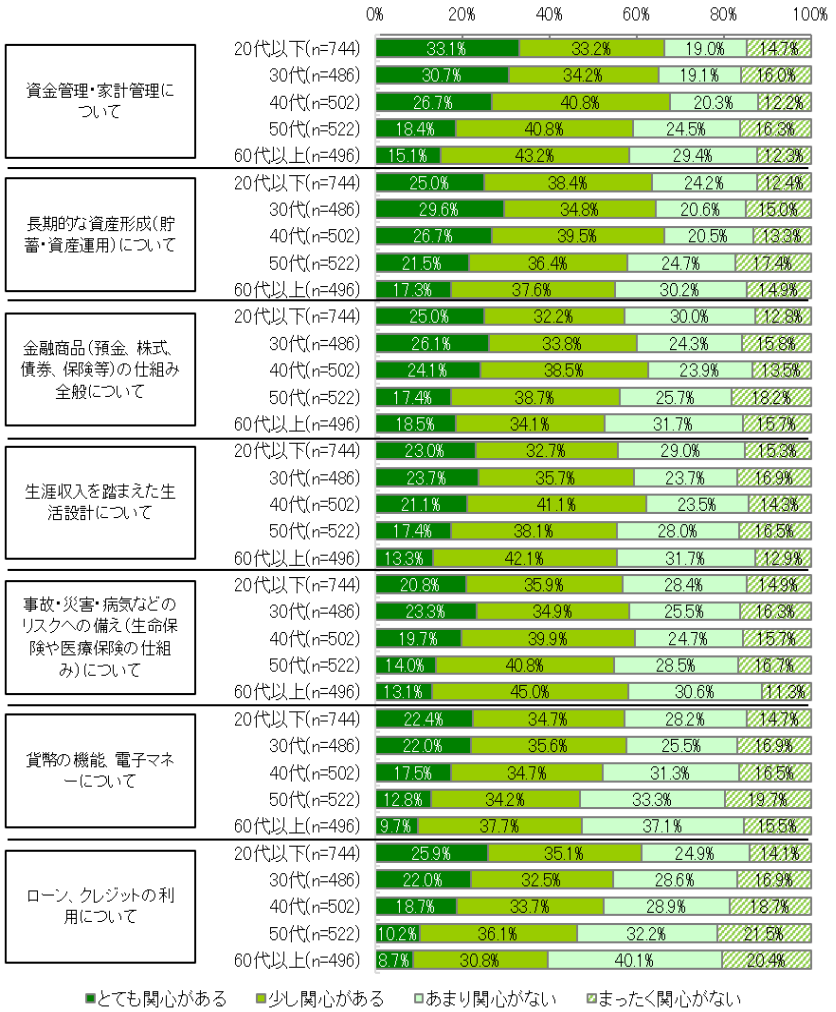
◆ 金融経済教育の関心については、「資金管理・家計管理」63.5%、「長期的な資産形成」61.5%が高い結果となった。

金融経済教育で関心のあるもの

■ **金融経済教育の関心度（n=2,750）**



■ **年代別・上位７（n=2,750）**



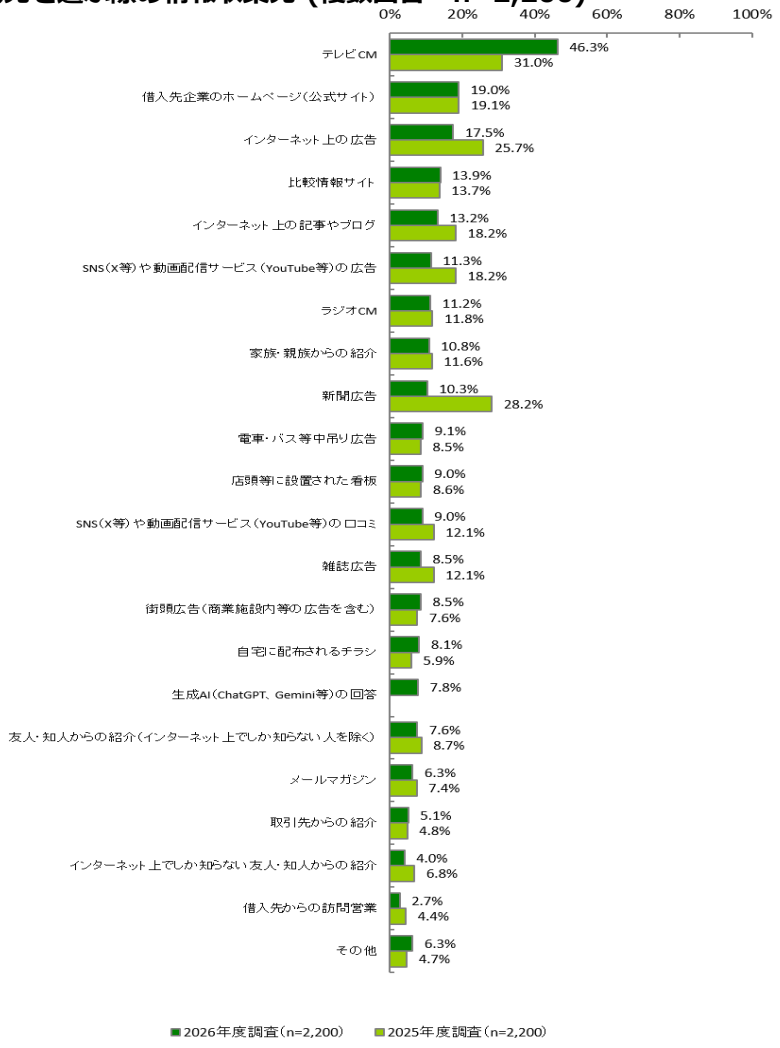
Copyright © 2026 Japan Financial Services Association. All Rights Reserved

本編P77

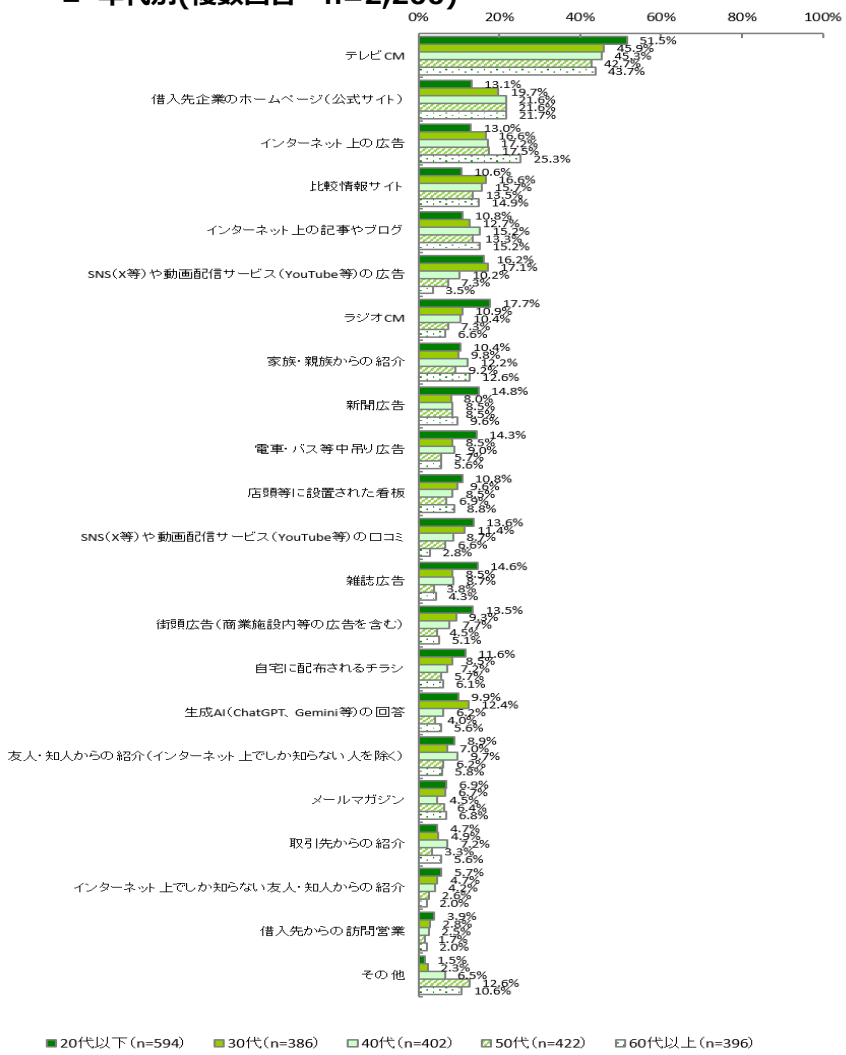
借入先を選ぶ際の情報収集先

- 情報収集先をみると、「テレビCM」46.3%が突出し、「借入先企業のホームページ（公式サイト）」19.0%、「インターネット上の広告」17.5%が続いた。前年比では、テレビCMが31.0%から46.3%へ上昇する一方、新聞広告は28.2%から10.3%、インターネット広告は25.7%から17.5%へ低下した。
- 年代別では、公式サイトは年代が高いほど高く、SNS・動画広告は30代以下で高い結果となった。

■ 借入先を選ぶ際の情報収集先（複数回答　n=2,200）



■ 年代別(複数回答　n=2,200)



Copyright © 2026 Japan Financial Services Association. All Rights Reserved

2・
資金需要者等を取り巻く環境の変化について

Copyright © 2026 Japan Financial Services Association. All Rights Reserved

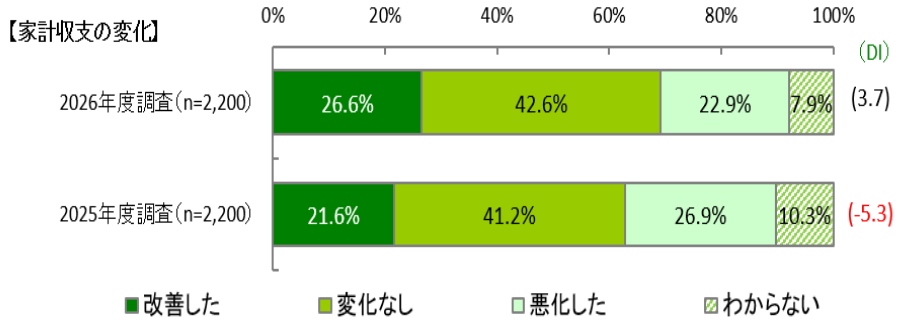
本編P84

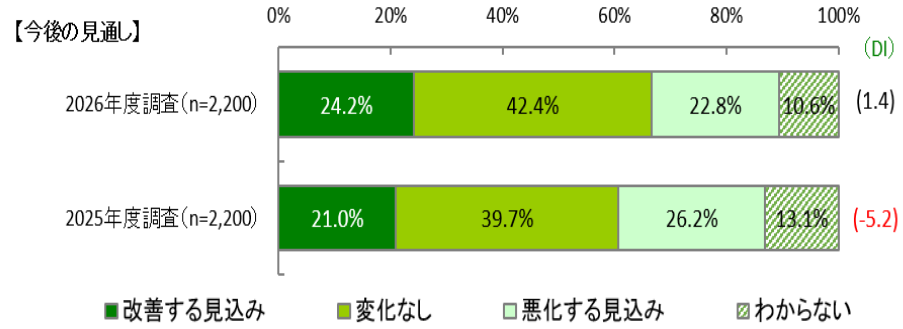
家計の収支状況の変化と今後の見通し

- 家計収支状況の1年前比較は「変化なし」42.6%、「改善した」26.6%、「悪化した」22.9%となり、「改善」と回答した割合から「悪化」と回答した割合を引いたDI（分布指標）も+3.7とプラスとなった。今後の見通しについてもDI+1.4とプラスとなっている。
- 一方、年代別DIは、1年前比較で20代以下+34.5に対し60代以上-23.3、今後の見通しで20代以下+30.7に対し、60代以上-29.3で世代間の差がみられる。

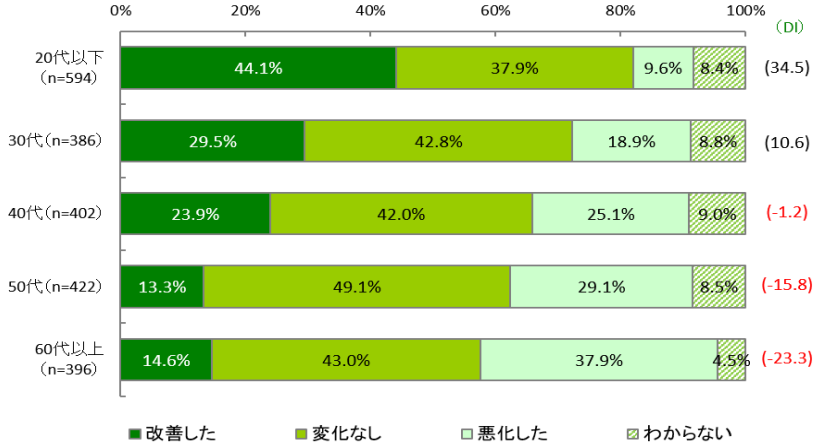
家計収支の変化と今後の見通し

■ **経年比較（n=2,200）**

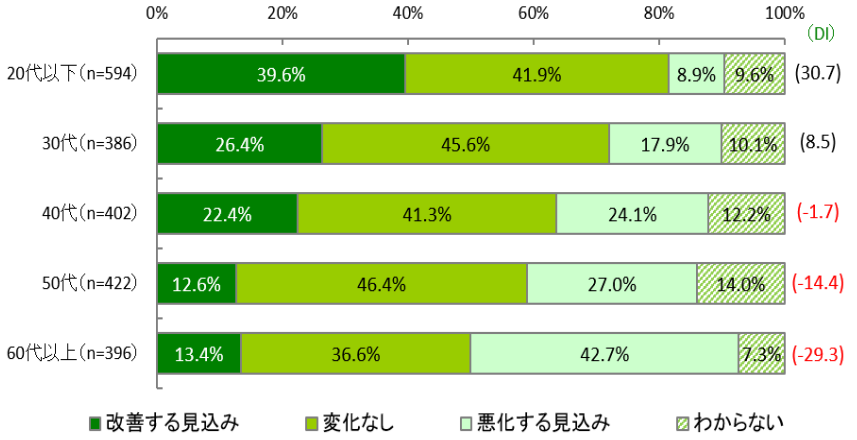




■ **【1年前との比較】年代別（n=2,200）**



■ **【今後の見直し】年代別（n=2,200）**

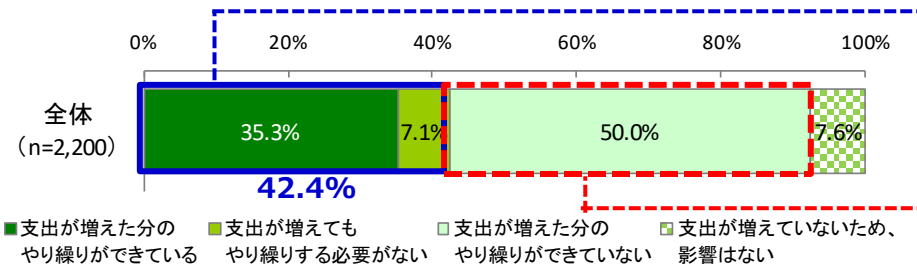


Copyright © 2026 Japan Financial Services Association. All Rights Reserved

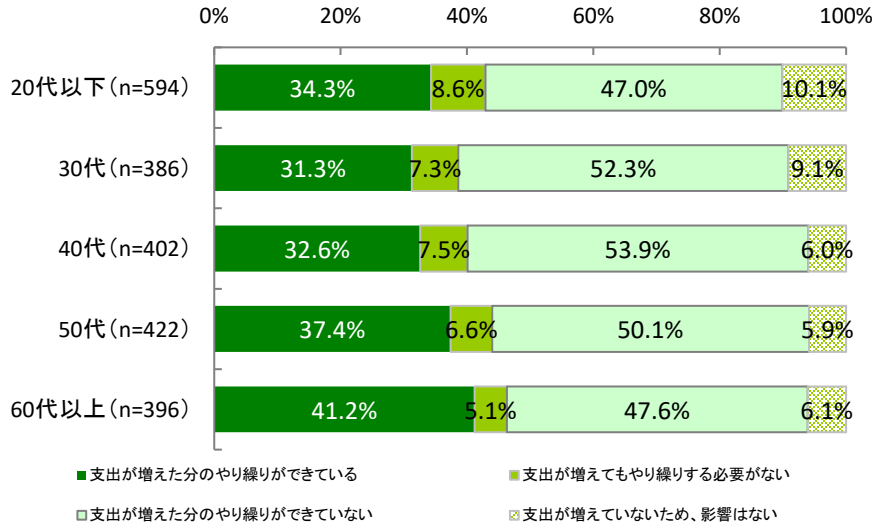
物価高騰などによる暮らし向きへの影響

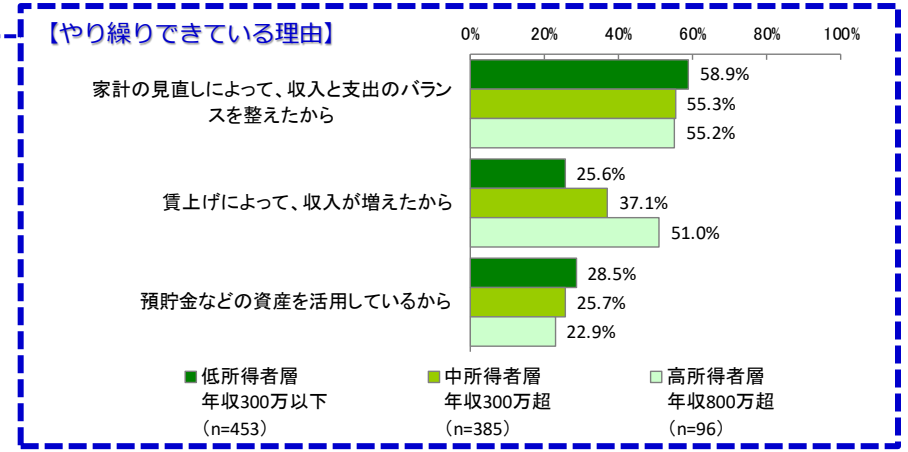
- 物価高騰などによる暮らし向きへの影響は、全体の約9割の92.4%が「支出が増えた」と回答しており、うち50.0%が「支出が増えた分のやり繰りができていない」と支出増加の影響を受けている結果となった。
- 年代別で「できていない」が最も高いのは40代の53.9%で、30代52.3%、50代50.1%との回答となった。

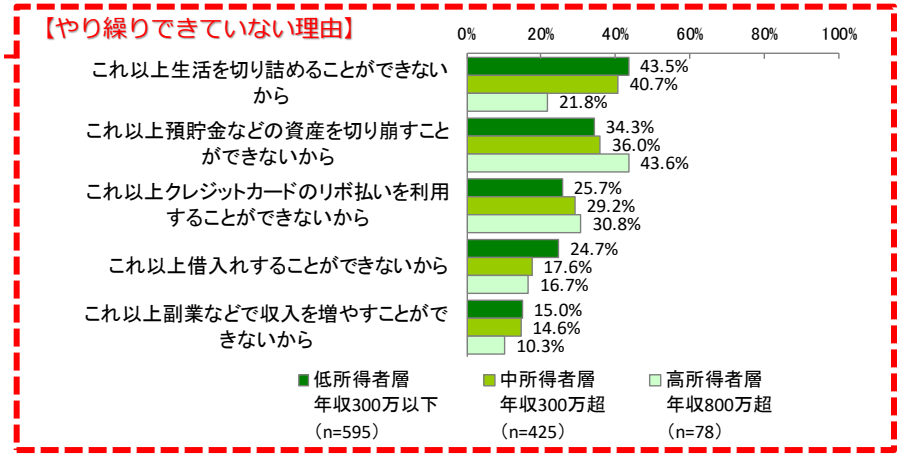
■ 暮らし向きへの影響（n=2,200）



■ 年代別（n=2,200）





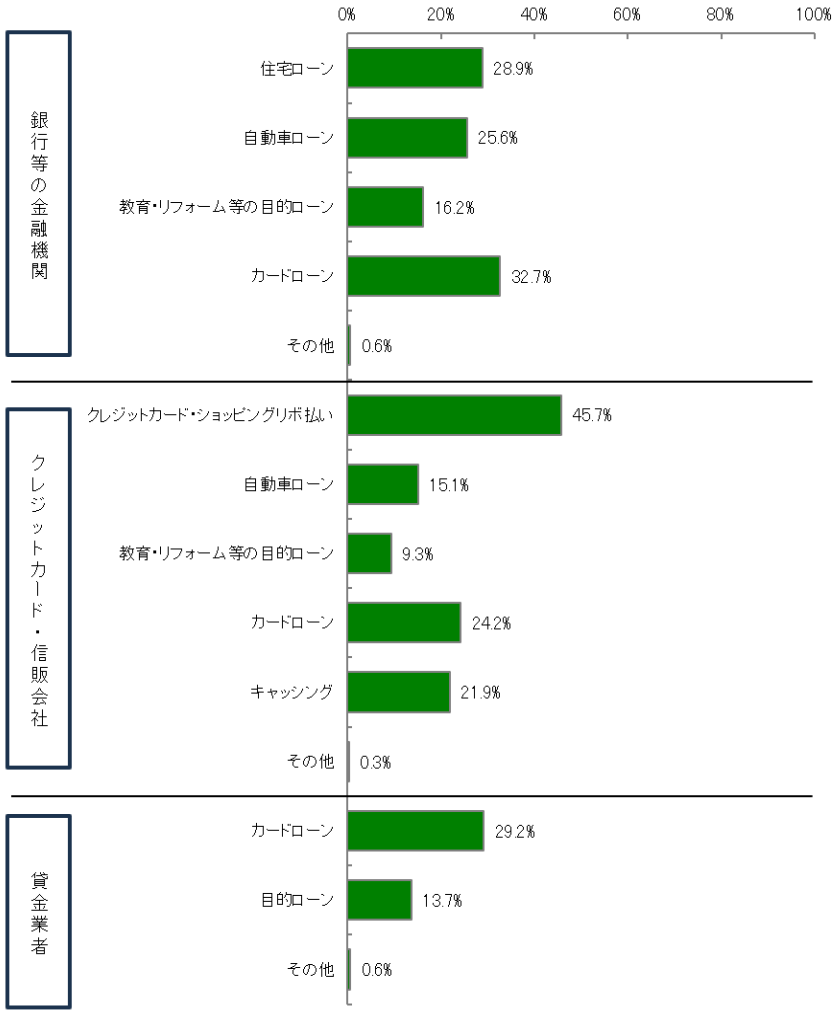


Copyright © 2026 Japan Financial Services Association. All Rights Reserved

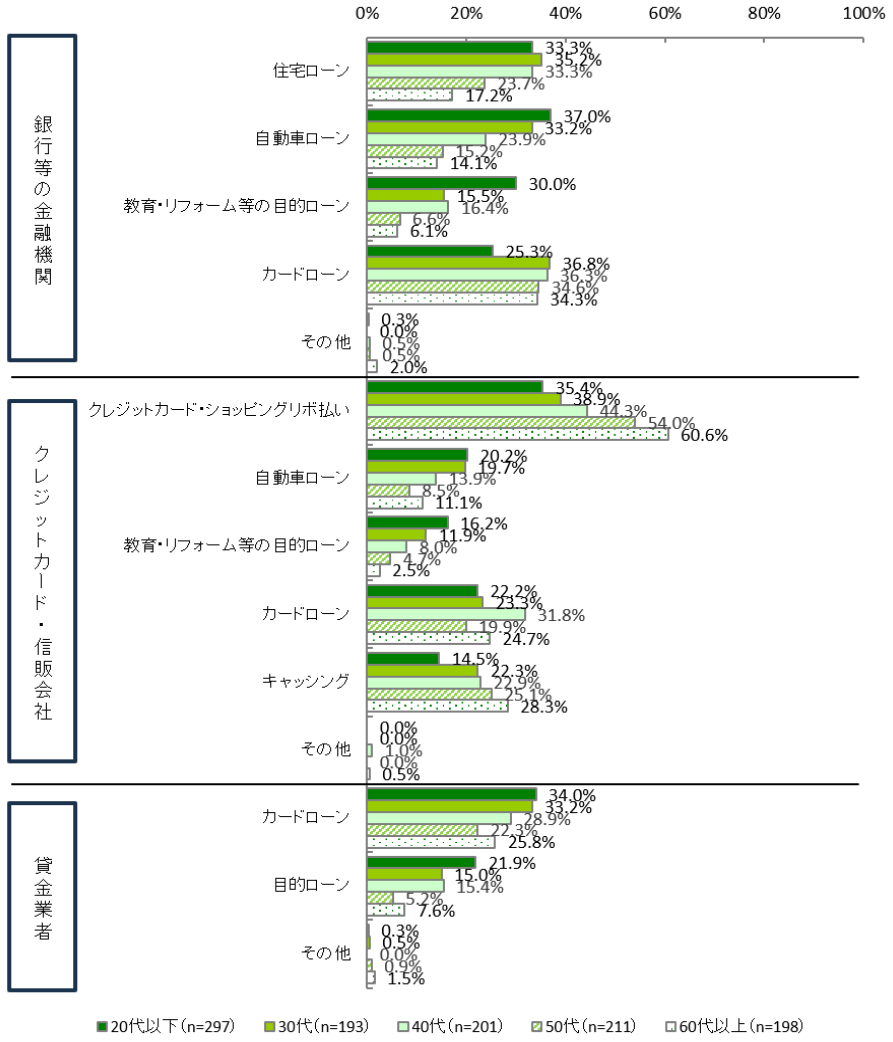
金銭債務の状況

◆借入残高のある個人では、「クレジットカード・ショッピングリボ払い」45.7%が最も高く、「銀行等の金融機関のカードローン」32.7%が続いた。リボ払いは20代以下35.4%から60代以上60.6%へ年代とともに増加しており、特に高年齢層で比重が高い結果となった。一方、貸金業者のカードローンは、若い年代ほど比重が高い結果となった。

■ 金銭債務の状況（複数回答　n=1,100）



■ 年代別（複数回答　n=1,100）



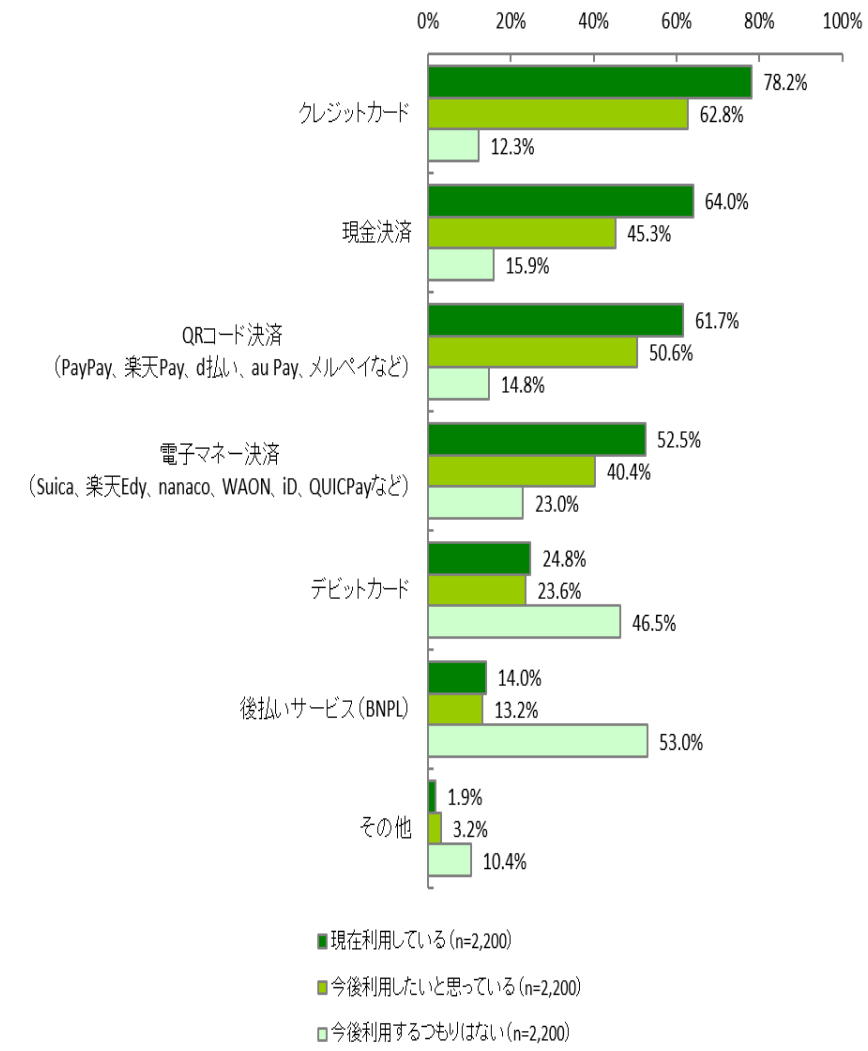
Copyright © 2026 Japan Financial Services Association. All Rights Reserved

本編P109

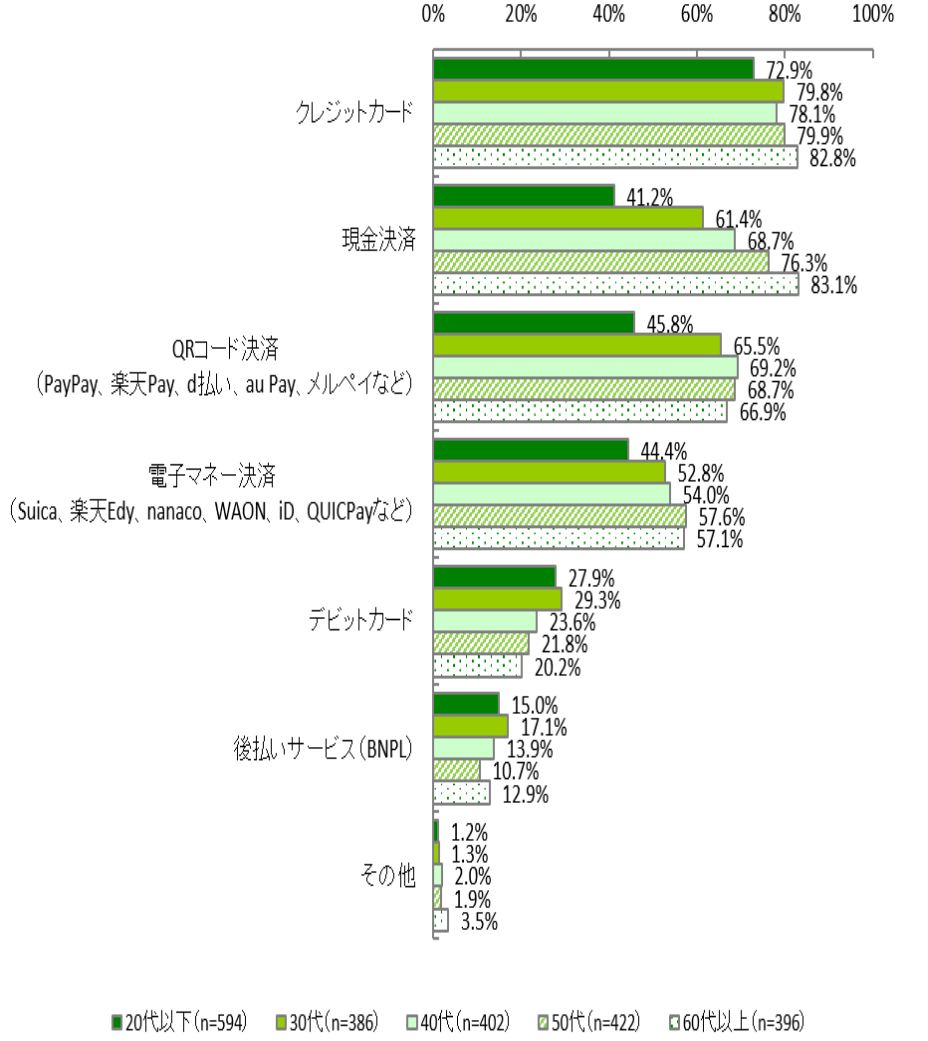
利用している決済手段①

◆現在利用している決済手段は「クレジットカード」78.2%、「現金決済」64.0%、「QRコード決済」61.7%が上位となった。年代別でみると、「現金決済」は20代以下41.2%から60代以上83.1%と、キャッシュレス利用と比べ、年代による差が大きい傾向となった。

■ 利用している決済手段（複数回答　n=2,200）



■ 年代別（複数回答　n=2,200）



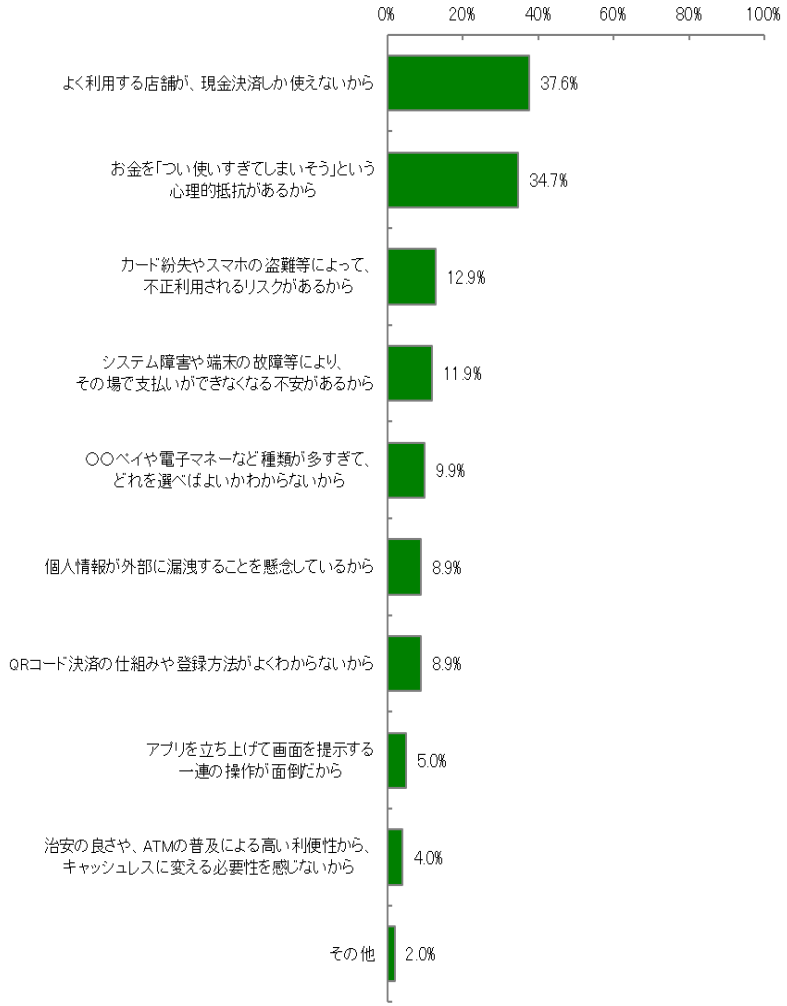
Copyright © 2026 Japan Financial Services Association. All Rights Reserved

本編P109

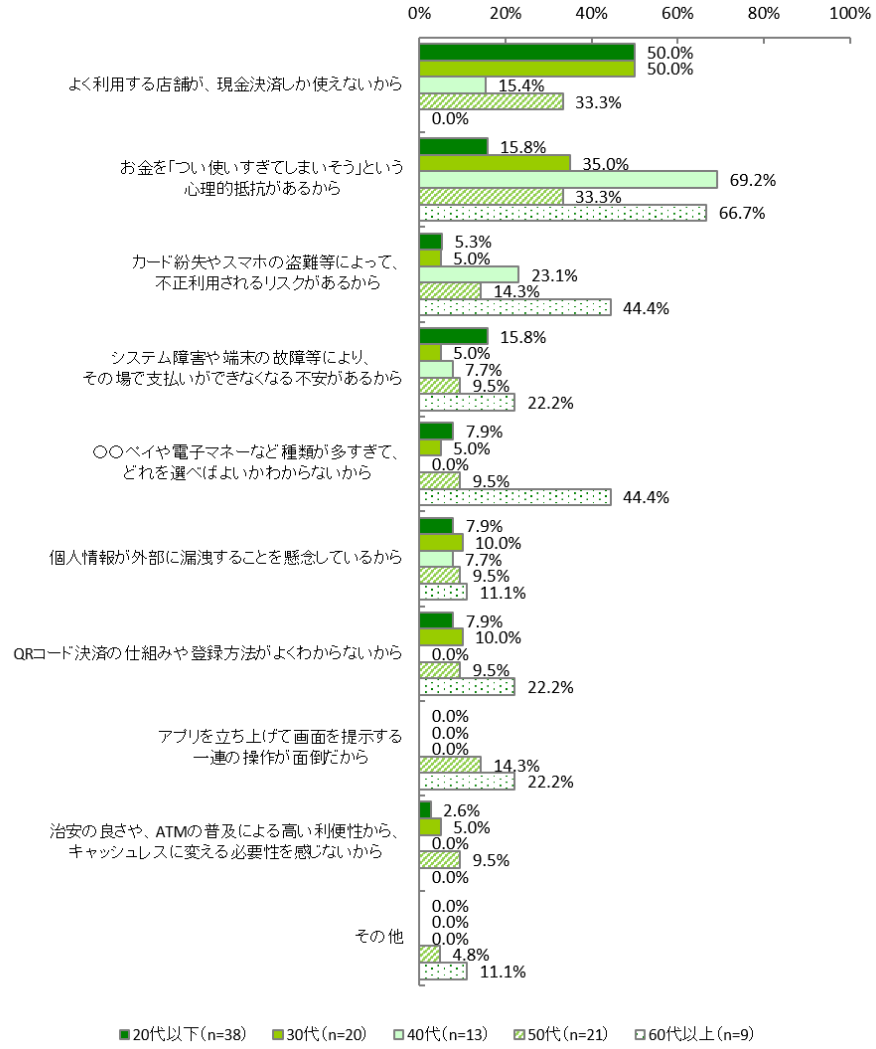
利用している決済手段②

◆現金決済しか利用しないと回答した人のキャッシュレスを利用しない理由は、「よく利用する店舗が現金決済しか使えない」37.6%、「使いすぎへの抵抗」34.7%が上位を占める結果となった。

■ キャッシュレス決済を利用していない理由（n=101）



■ 年代別（複数回答　n=101）



Copyright © 2026 Japan Financial Services Association. All Rights Reserved

3・
資金需要者等の借入に対する意識と借入行動等について

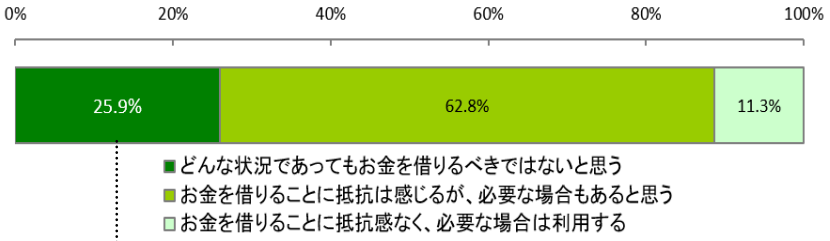
Copyright © 2026 Japan Financial Services Association. All Rights Reserved

本編P130

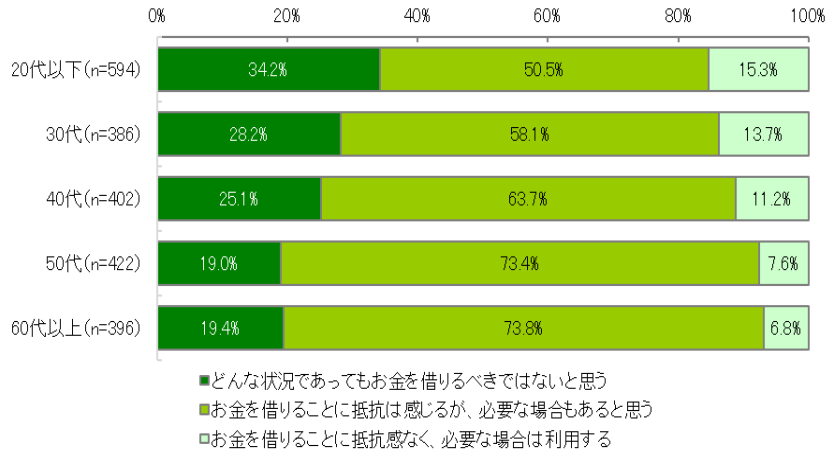
お金を借りることに対する意識

- お金を借りることに対する意識については、「抵抗は感じるが、必要な場合もある」62.8%が最も高く、「どんな状況でも借りるべきではない」25.9%、「抵抗感なく必要な場合は利用する」11.3%となった。
- 年代が高いほど中間的な回答が増え、20代以下では「借りるべきではない」34.2%と「抵抗感なく必要な場合は利用する」15.3%がともに全体より高く、意識が二極化していることがみてとれる。
- お金を借りることをためらう理由では、「返済できなくなると困るから」57.７%が最も高く、「金利によって返済総額が増額するから」44.2%、「心理的にお金を借りることに抵抗があるから」20.4%となった。

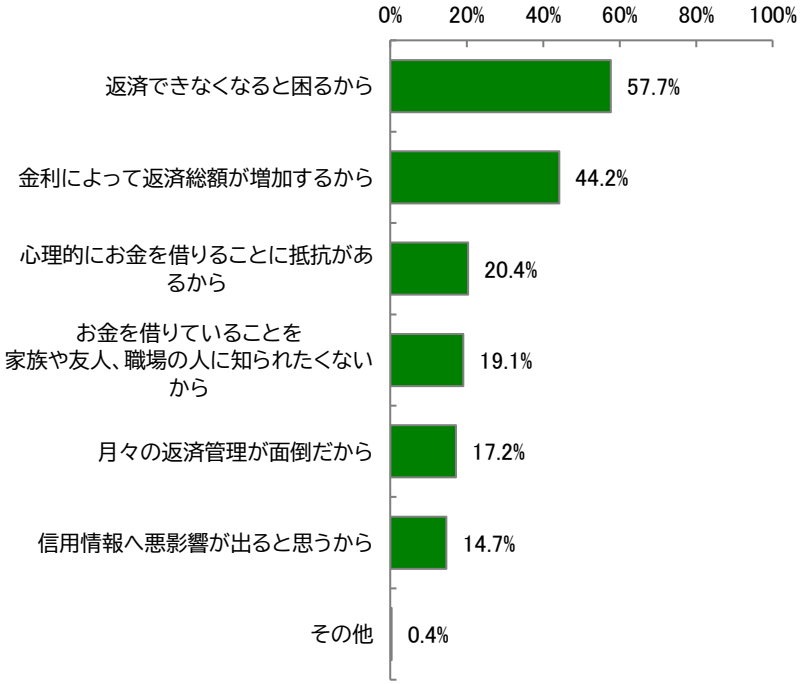
■ お金を借りることに対する意識 (n=2,200)



■ 年代別(n=2,200)



■ お金を借りることをためらう理由 (n=570)

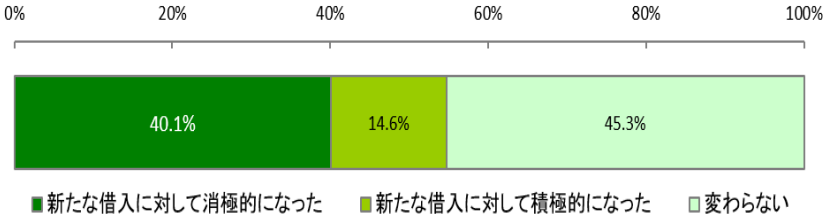


Copyright © 2026 Japan Financial Services Association. All Rights Reserved

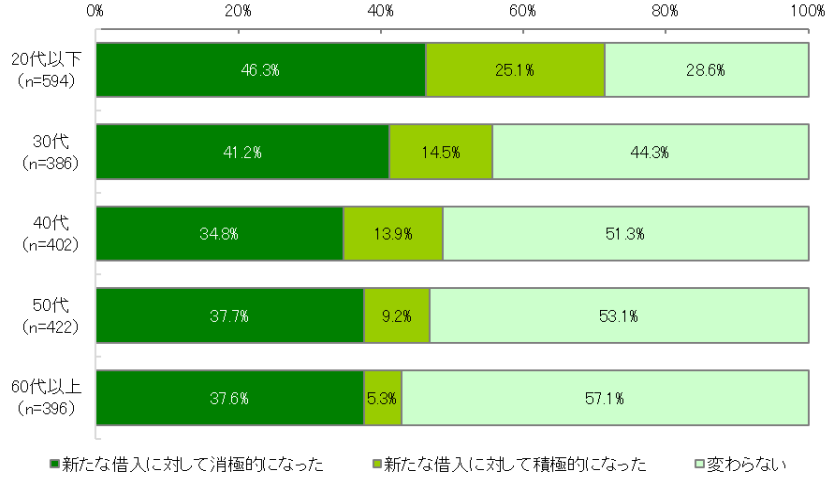
借入意識や借入行動の変化

- 借入意識は「変わらない」が45.3%、「新たな借入に消極的」が40.1%、「新たな借入に積極的」が14.6%となった。
- また、借入意識が「新たな借入に積極的」を年代別でみると、20代以下は25.1%、60代以上は5.3%と、年代が低いほど高い傾向となった。
- 借入行動の変化に関しては、消極化の理由は「支出が減ったため、新たな借入の必要性が低下した」27.3%、「収入が減ったことによって、返済の目途が不安だったため、新たな借入を行わなかった」25.6%が上位となった。

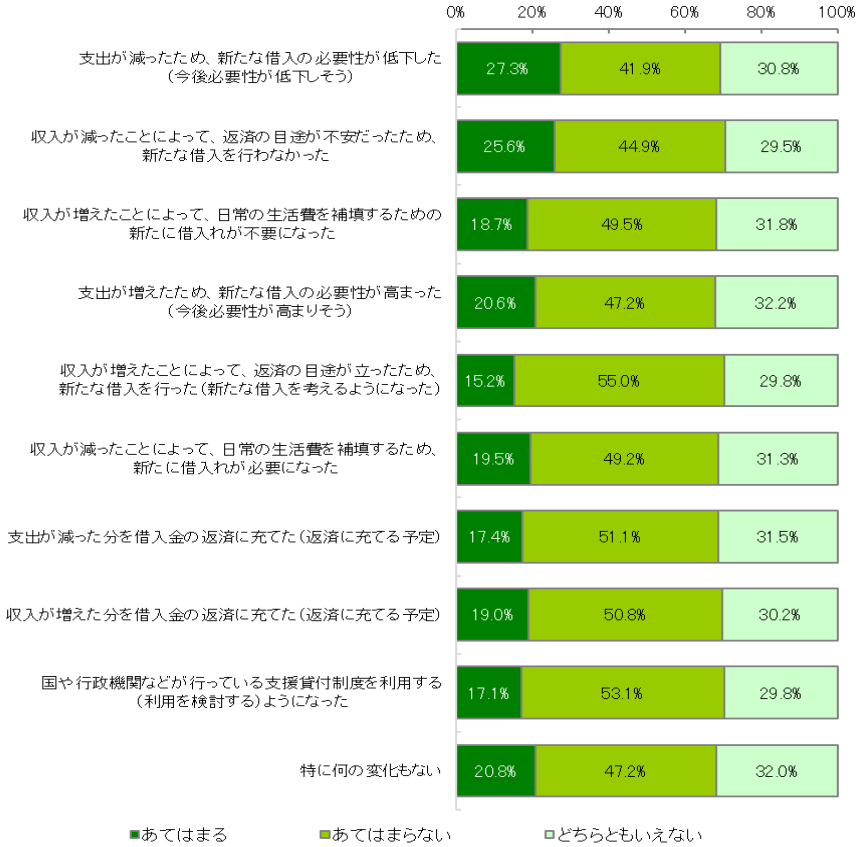
■ 直近1年間における借入意識や借入行動の変化 （n=2,200）



■ 年代別(n=2,200)



■ 借入行動の変化(n=2,200)

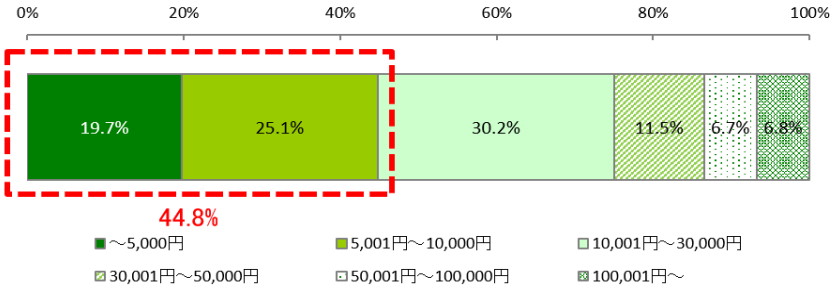


Copyright © 2026 Japan Financial Services Association. All Rights Reserved

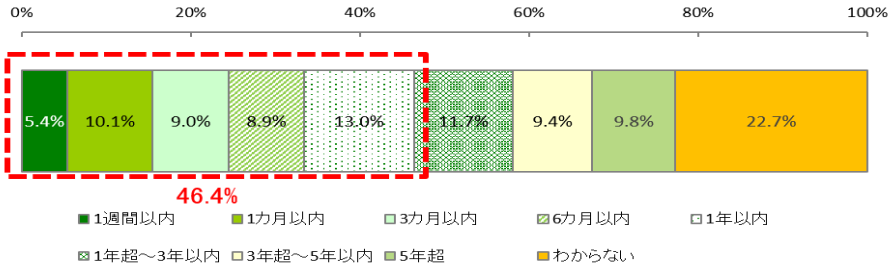
借入れを検討した際に計画していた返済金額・期間

◆計画していた毎月の返済金額は1万円以下が44.8%、返済期間は1年以内が46.4%の回答となった。

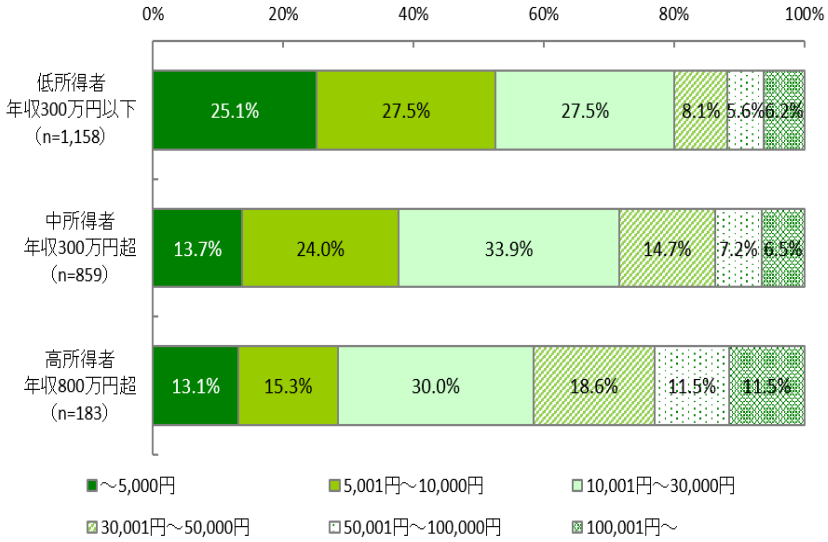
■ 計画していた返済金額 （n=2,200）



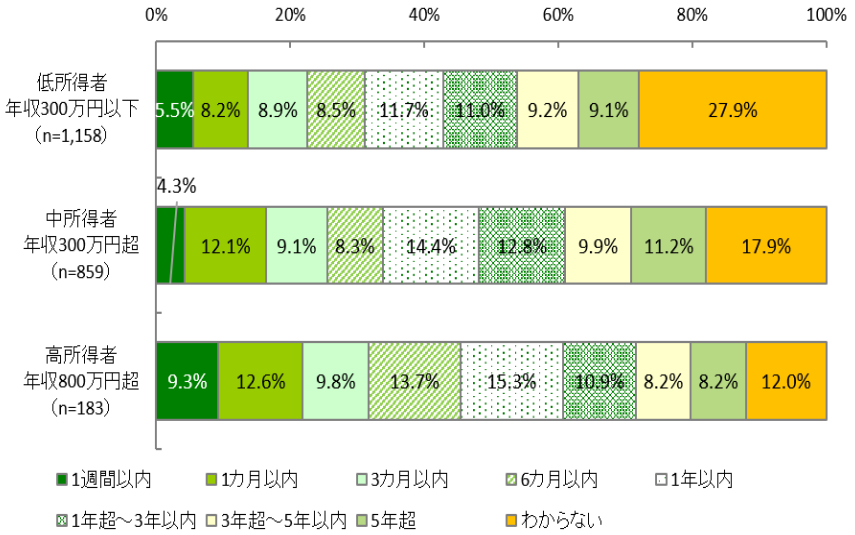
■ 計画していた返済期間（n=2,200）



■ 所得階層別(n=2,200)



■ 所得階層別(n=2,200)



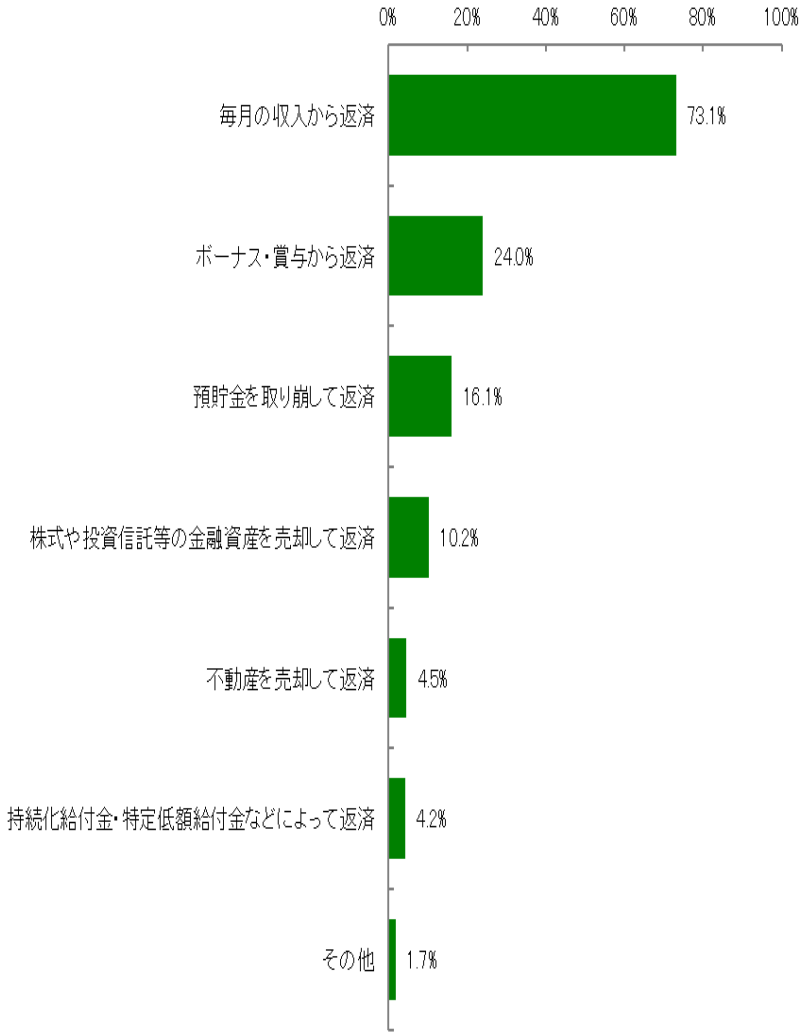
Copyright © 2026 Japan Financial Services Association. All Rights Reserved

日本貸金業協会
Japan Financial Services Association

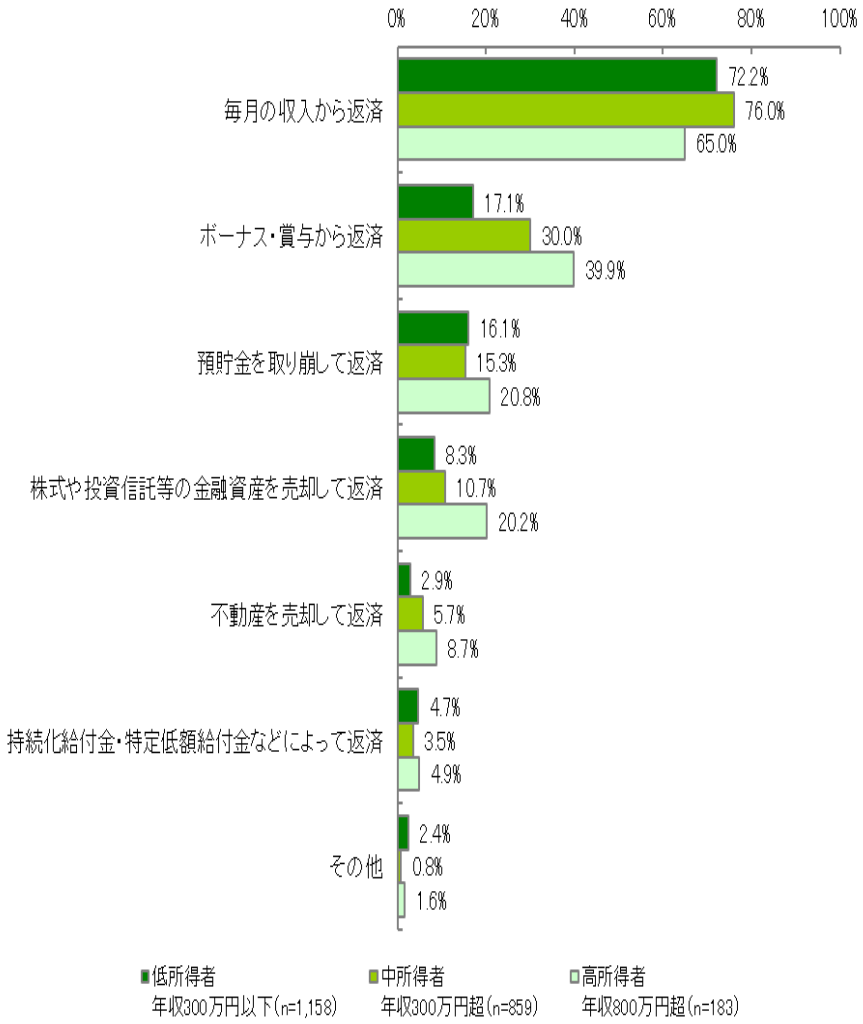
借入れをした際に計画していた返済原資

- 返済原資は「毎月の収入」73.1%が突出し、「ボーナス・賞与」24.0%、「預貯金を取り崩す」16.1%が続いた。
- 所得階層別でみると、低所得者層に比べ高所得者層は、「ボーナス・賞与からの返済」や「預貯金を取り崩して返済」など、「毎月の収入からの返済」以外からの返済との回答が多い結果となった。

■ 借入れを検討した際に計画していた返済原資（複数回答　n=2,200）



■ 所得階層別（複数回答　n=2,200）



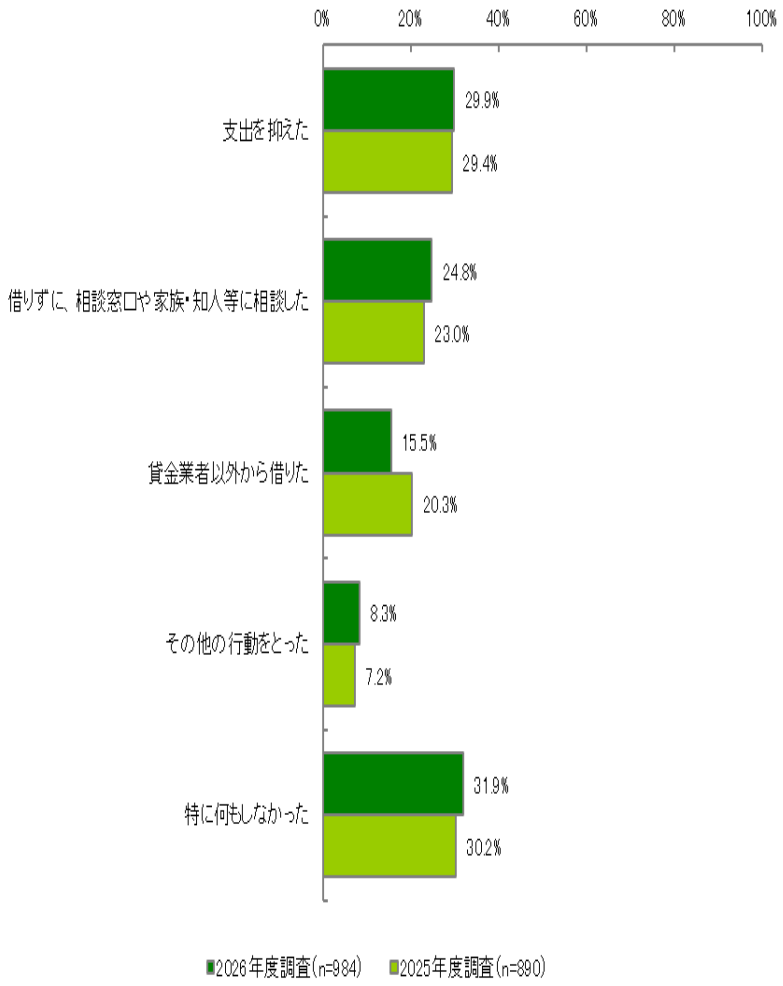
Copyright © 2026 Japan Financial Services Association. All Rights Reserved

本編P161

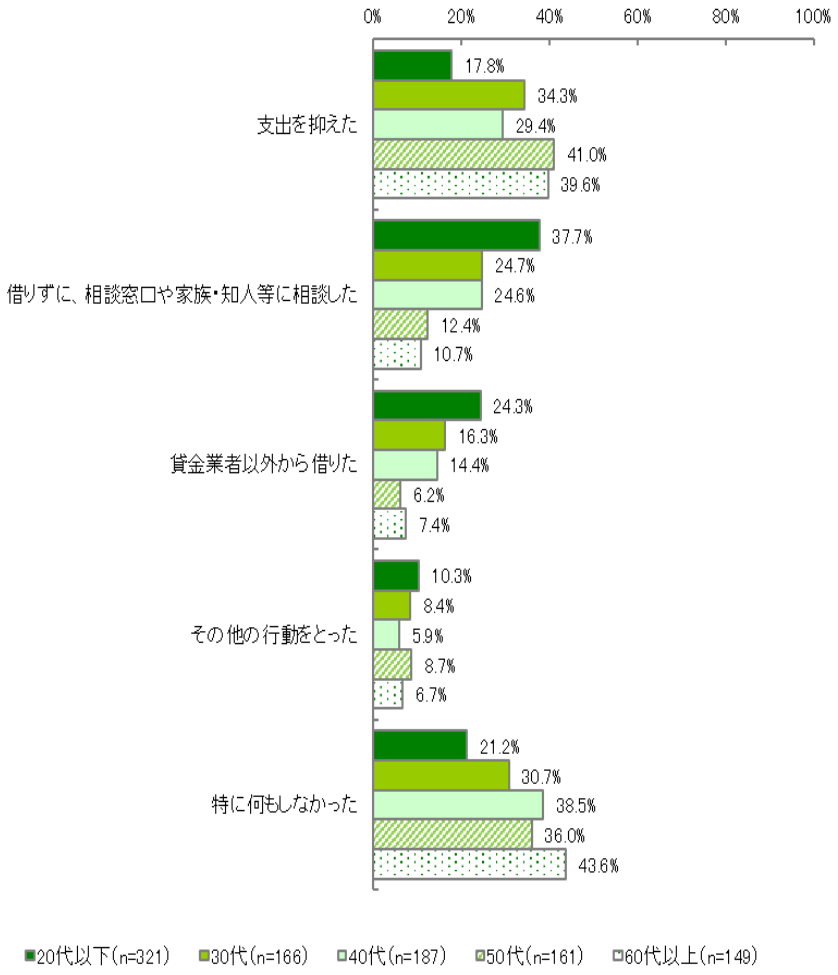
借入れできなかった際に取った行動・影響

◆ 借入れできなかった（申し込まなかった）際に取った行動は、「特に何もしなかった」31.9%、「支出を抑えた」29.9%、「借りずに相談窓口や家族・知人に相談した」24.8%が上位となった。「相談した」は20代以下37.7%から60代以上10.7%へ低下する一方、「特に何もしなかった」は年代とともに増え、60代以上43.6%となっている。

■ 希望どおりに借入れできなかった際に取った行動（複数回答）



■ 年代別（複数回答　n=984）



Copyright © 2026 Japan Financial Services Association. All Rights Reserved

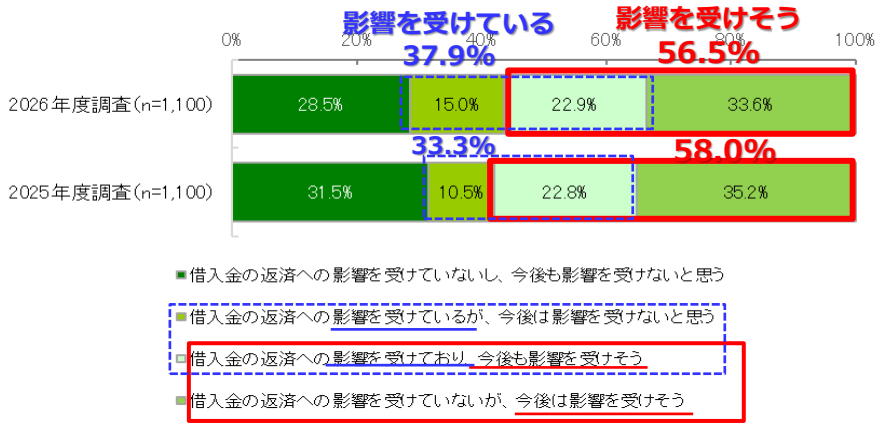
４・
借入金の返済状況とセーフティネットの認知等について

Copyright © 2026 Japan Financial Services Association. All Rights Reserved

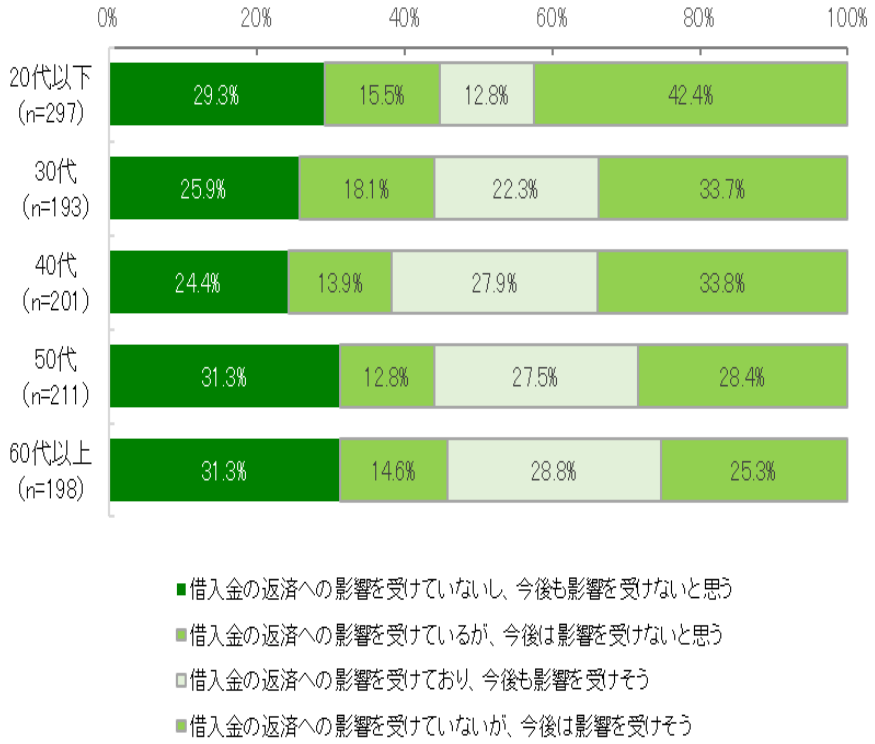
借入金返済への影響と今後の見通し

◆家計収支の変化による借入金返済への影響と今後の見通しは、「現在は影響を受けている」が37.9%（昨年度比較プラス4.6%pt）となった一方、「今後影響を受けそう」56.5%、（昨年度比較マイナス1.5%pt）となっており、家計収支の改善が借入金返済にややプラスの影響を与えている可能性がうかがえる。

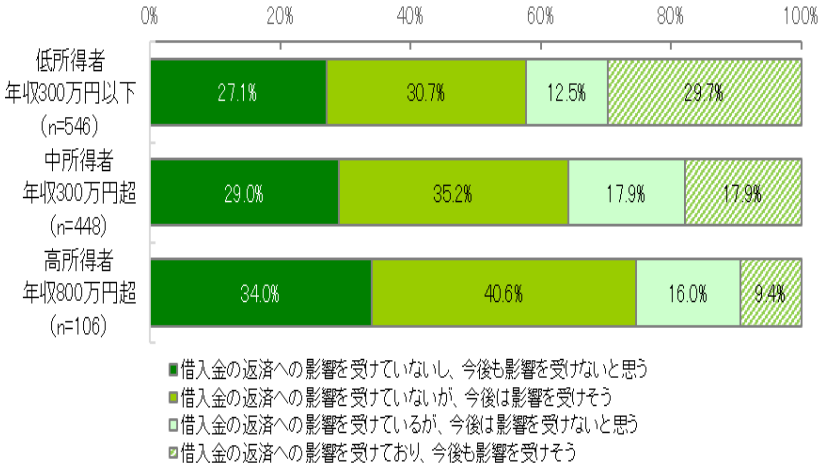
■ 計画していた返済金額 （n=1,100）



■ 年代別（n=1,100）



■ 所得階層別(n=1,100)



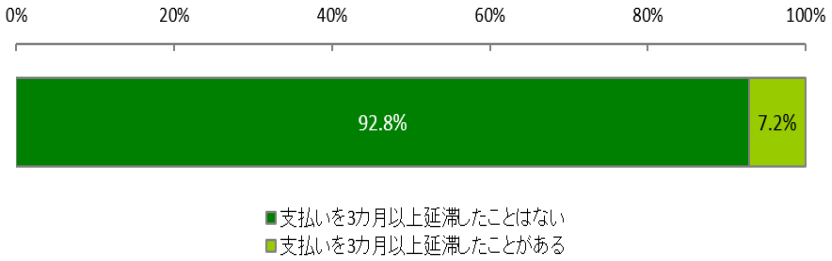
Copyright © 2026 Japan Financial Services Association. All Rights Reserved

本編P168

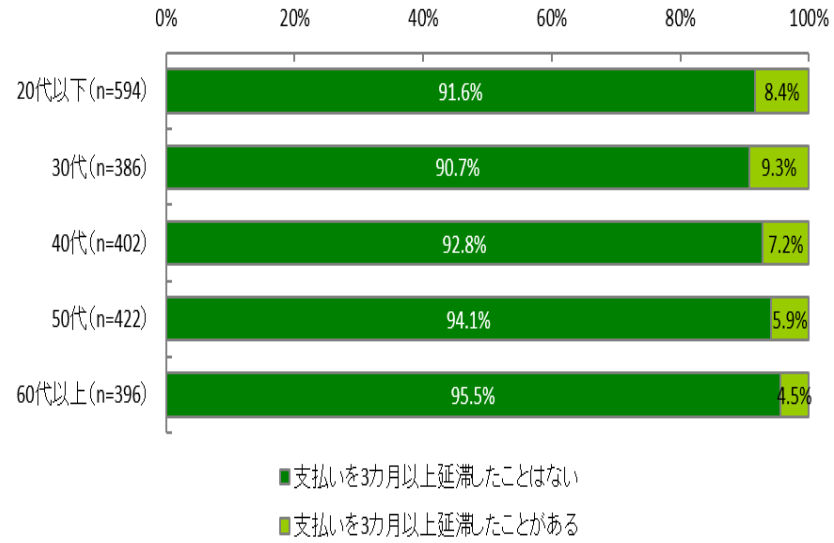
延滞経験の有無と延滞した理由

◆ 3カ月以上の延滞経験は7.2%で、年代が上がるほど低下する傾向がみられる。延滞した理由は「給与・賞与が予定どおり支給されなかった」24.8%、「怪我や病気で働けなくなった」21.5%、「忙しくてうっかり忘れた」21.1%、「失業して働けなくなった」20.5%が上位となった。

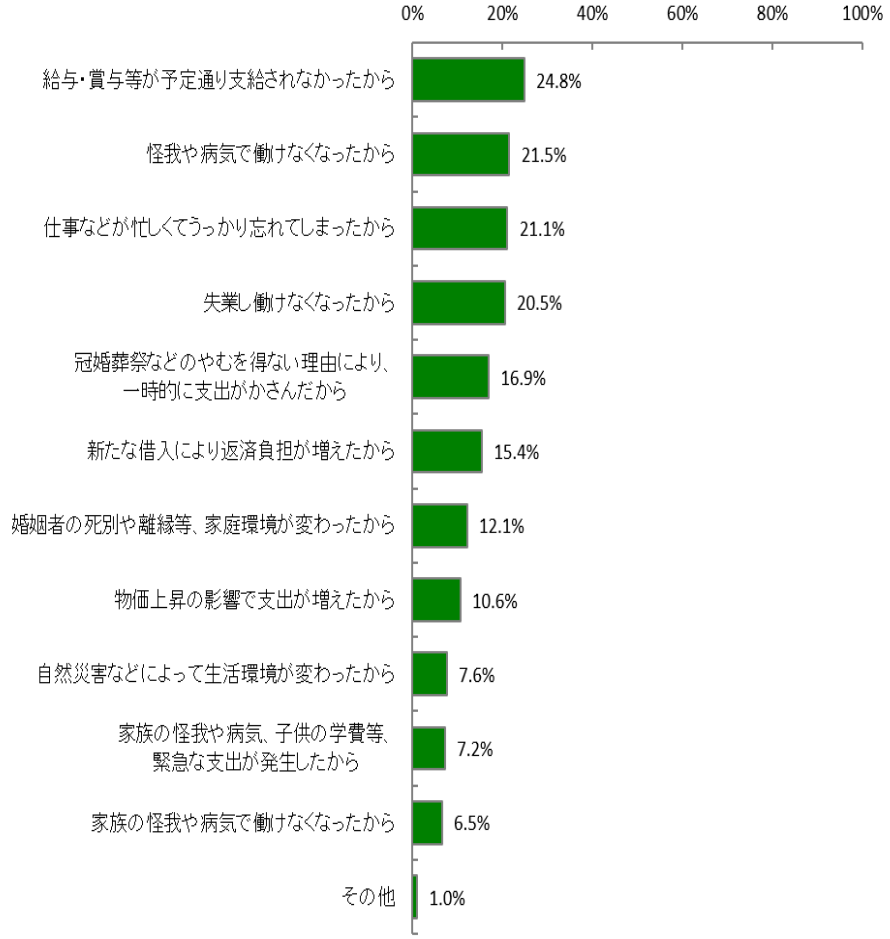
■ 延滞経験の有無（n=2,200）



■ 年代別（n=2,200）



■ 延滞した理由 （複数回答 n=804）



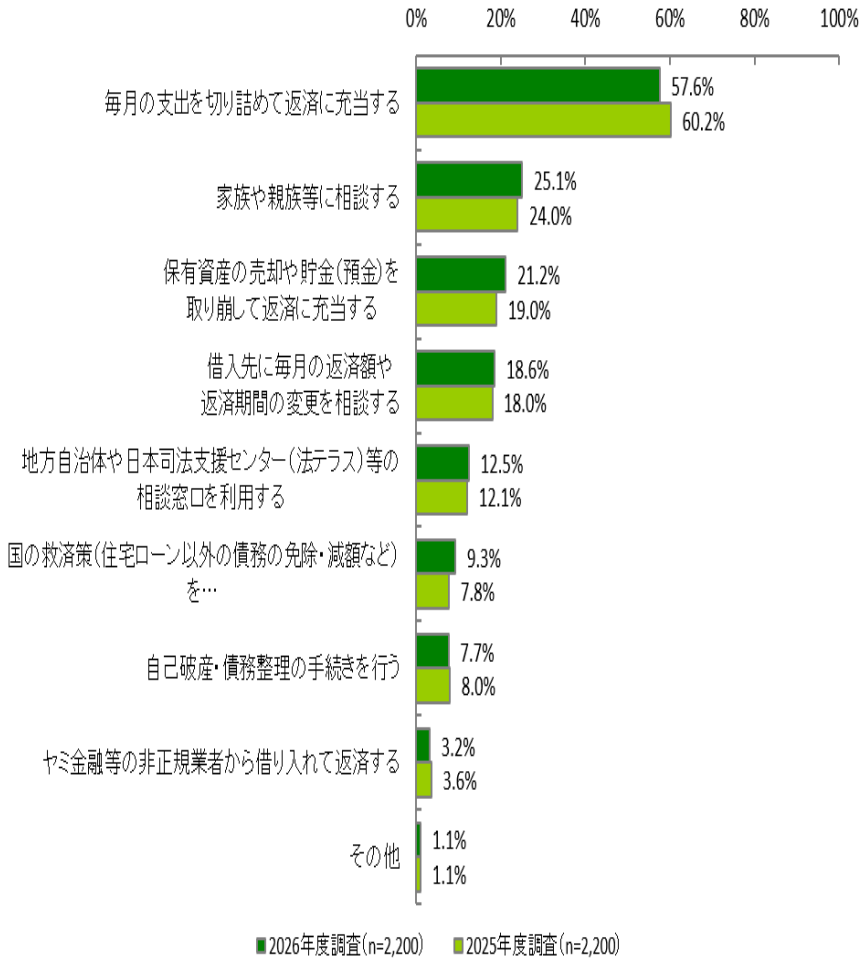
Copyright © 2026 Japan Financial Services Association. All Rights Reserved

本編P174

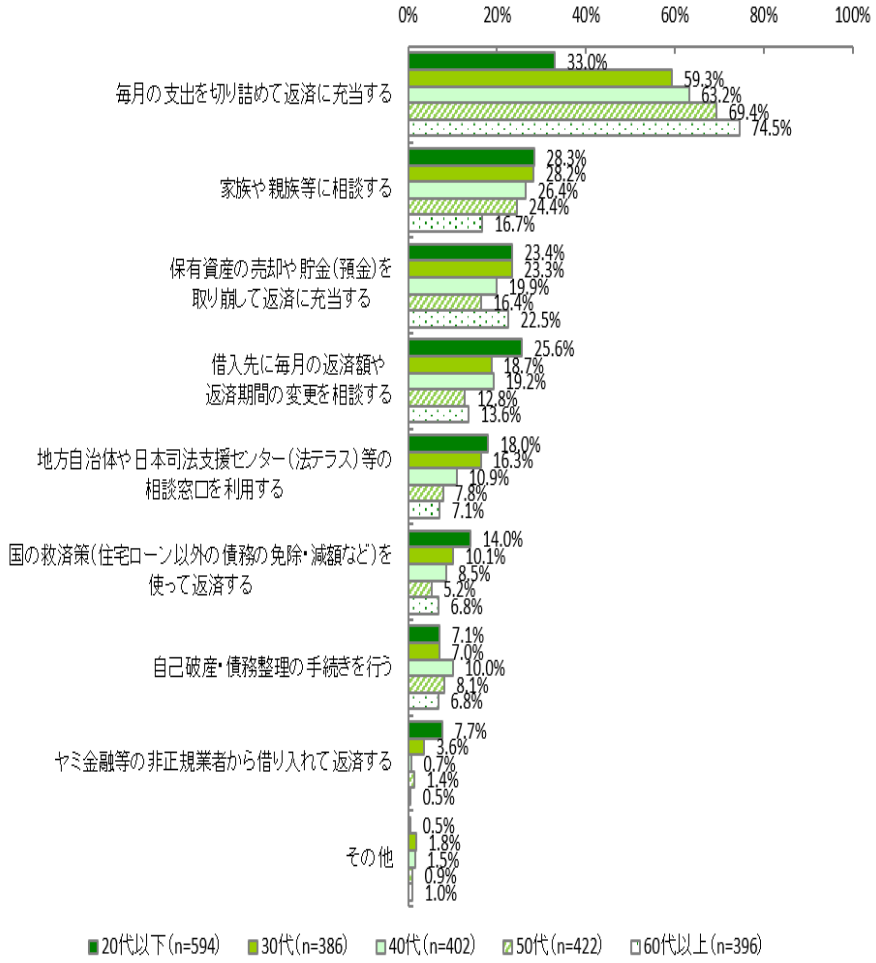
返済が困難になった場合における手段や行動等

◆ 返済が困難になった場合の対応手段は、「毎月の支出を切り詰めて返済」57.6%が最多で、「家族や親族等に相談」25.1%、「保有資産の売却・預貯金の取崩し」21.2%が続いた。年代別にみると、支出の切詰めは20代以下33.0%から60代以上74.5%へ大きく上昇している。

■ 返済が困難になった場合における手段や行動等 （複数回答　n=2,200）



■ 年代別（複数回答　n=2,200）

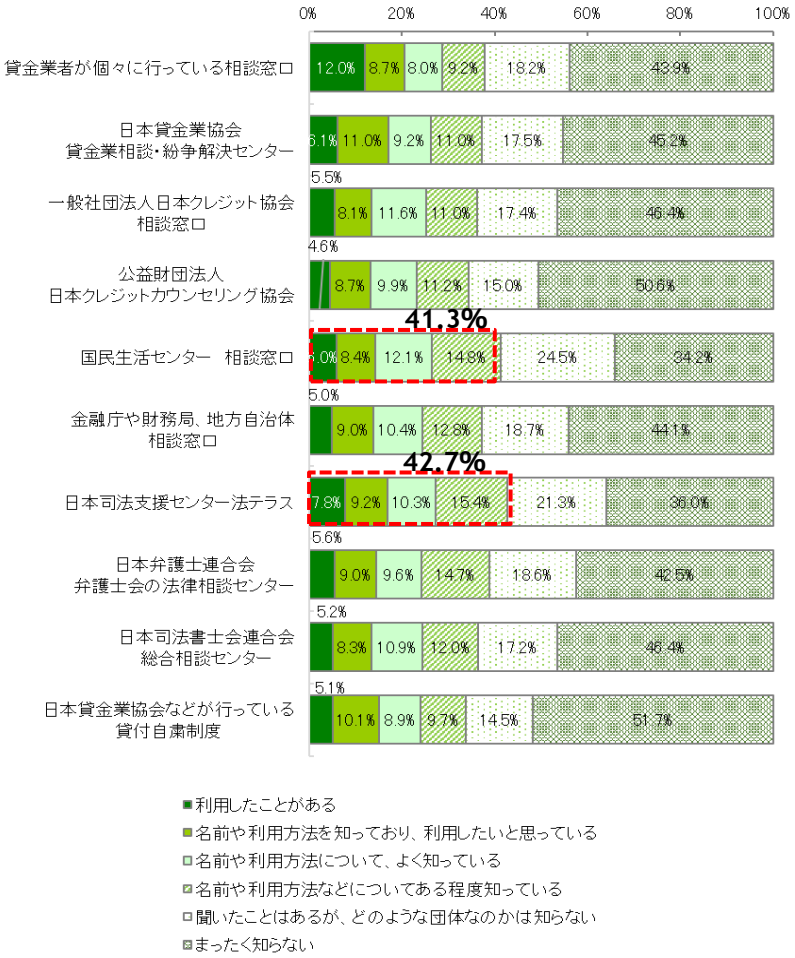


Copyright © 2026 Japan Financial Services Association. All Rights Reserved

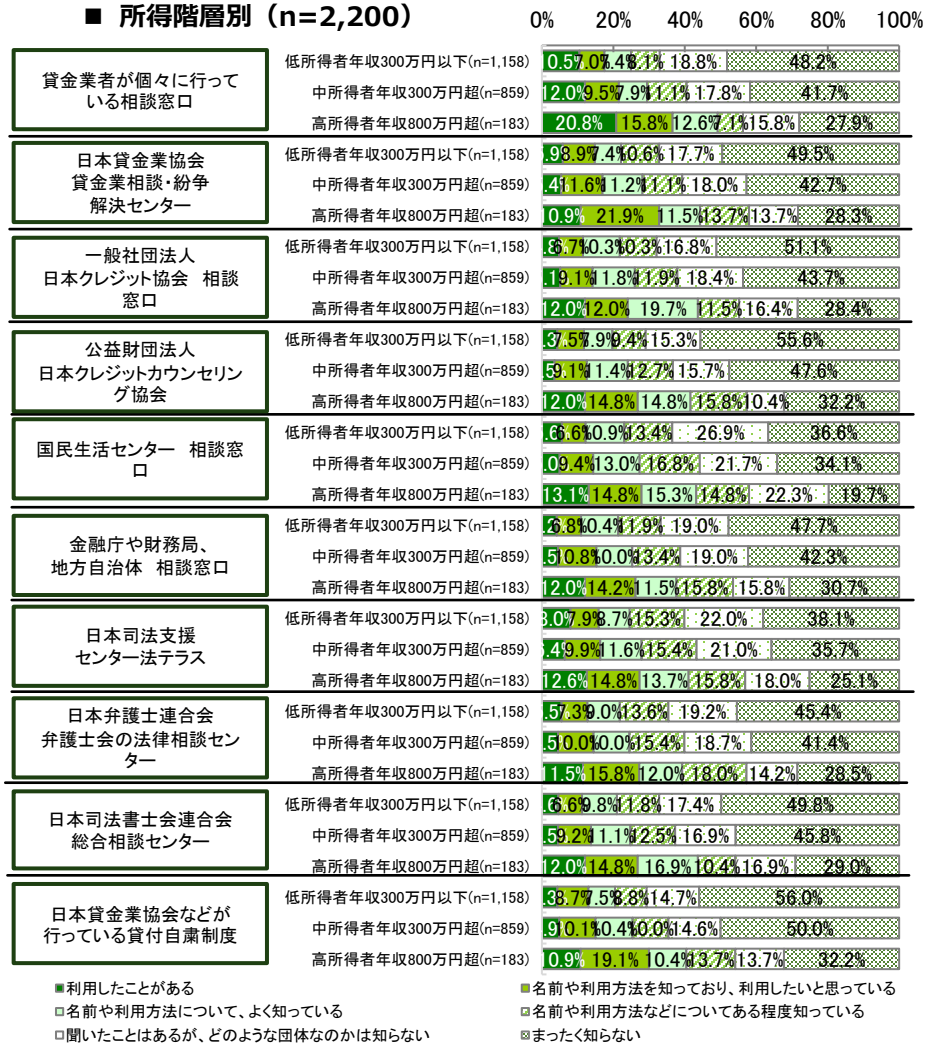
セーフティネット等の認知度

◆ セーフティネット等の認知度については、「日本司法支援センター法テラス」42.7%、「国民生活センター相談窓口」41.3%である。一方、「まったく知らない」は項目により34.2～51.7%を占める。所得階層別にみると、高所得者ほど認知度が高い傾向となった。

■ セーフティネット等の認知度（n=2,200）



■ 所得階層別（n=2,200）

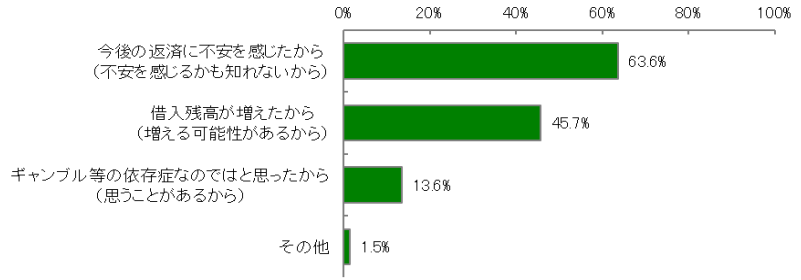


Copyright © 2026 Japan Financial Services Association. All Rights Reserved

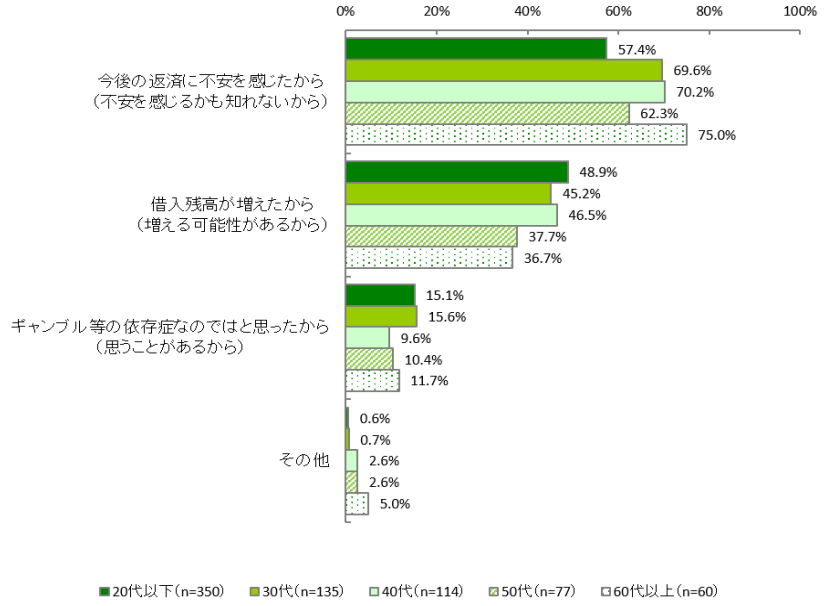
セーフティネット等の利用意向

- カウンセリングを利用したい理由は、「今後の返済に不安を感じた」63.6%、「借入残高が増えた」45.7%、「ギャンブル等の依存症なのではと思った」13.6%が上位となった。
- 公的融資制度の利用意向については、「都道府県の社会福祉協議会が行う生活福祉資金貸付制度」は、利用経験・利用意向の合計が40.0%で最も高く、「生活協同組合などの地域生協が行っている「生活再建資金貸付」などの多重債務者向け貸付」36.8%が続いている。

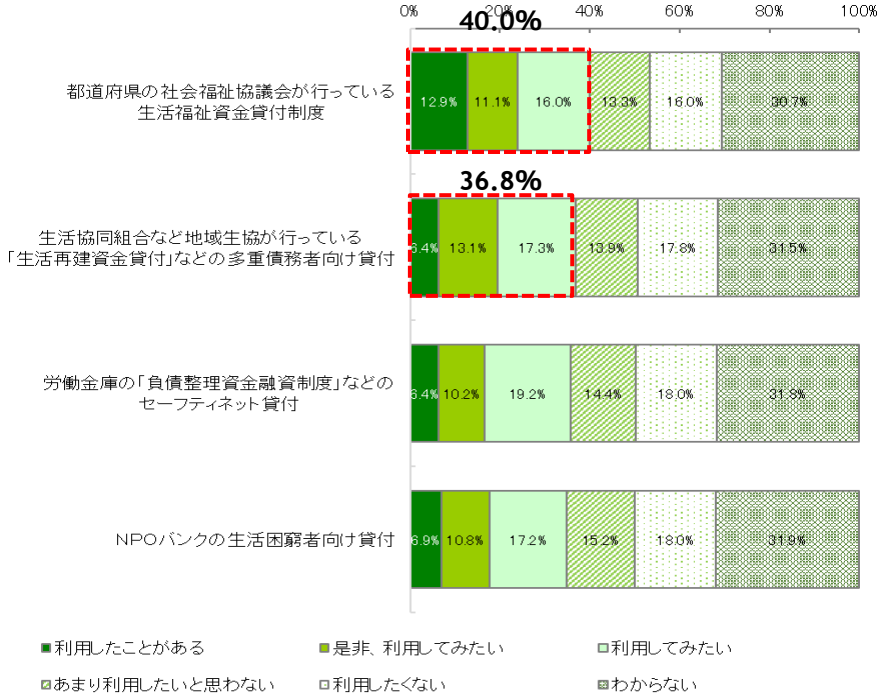
■ **返済等に関するカウンセリングを利用したい理由 (複数回答　n=736)**



■ **年代別 (複数回答　n=736)**



■ **公的融資制度の利用意向 (n=2,200)**



Copyright © 2026 Japan Financial Services Association. All Rights Reserved

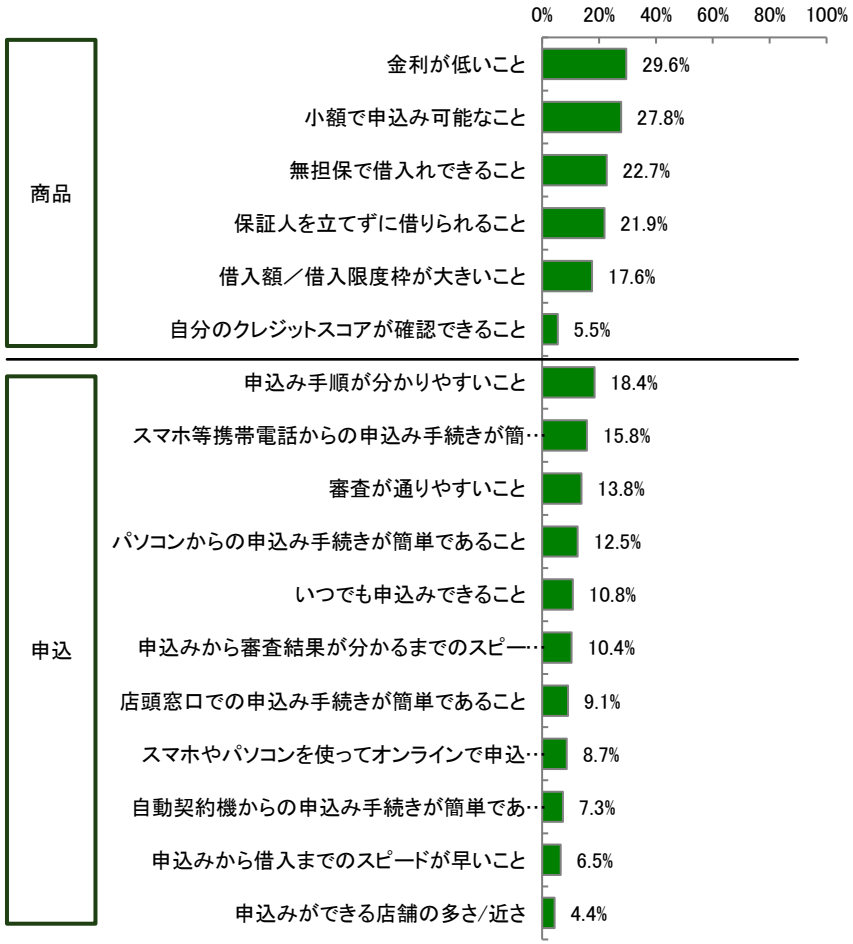
5・
貸金業者からの借入に関する満足度・利用意向等について

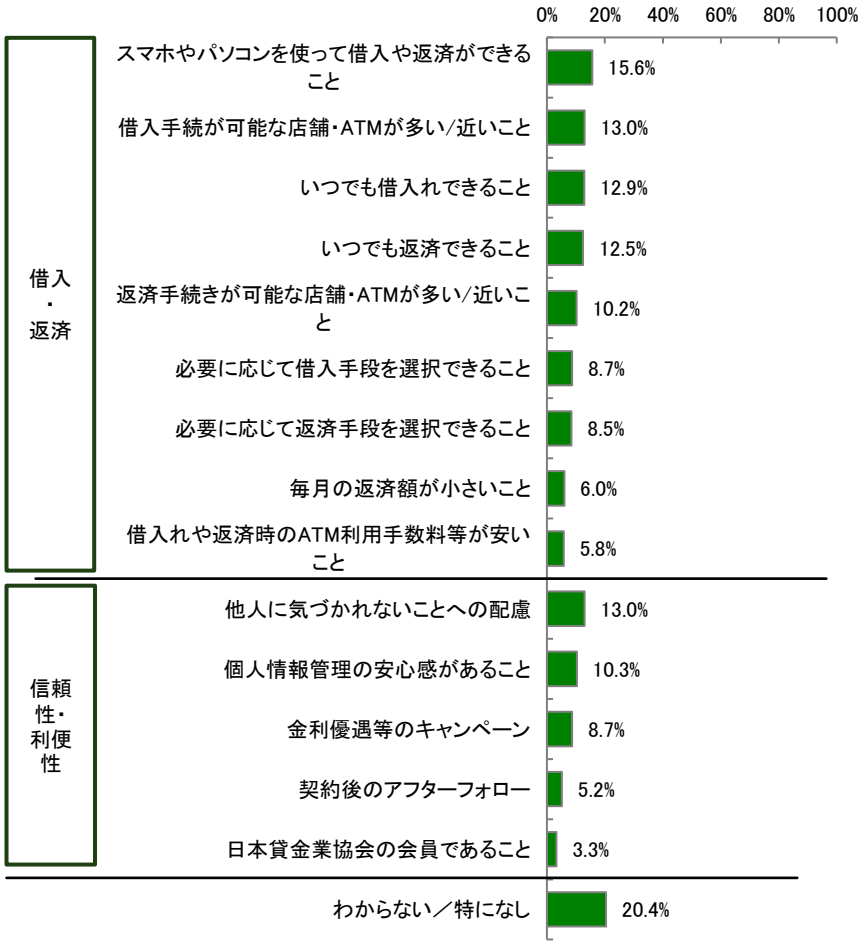
Copyright © 2026 Japan Financial Services Association. All Rights Reserved

貸金業者からの借入れに関する満足度

◆貸金業者から借入れした際に満足した点は、商品面では「金利が低いこと」29.6%、申込面では「申込み手順が分かりやすいこと」18.4%、借入・返済面では「スマホやパソコンで借入・返済ができること」15.6%、信頼性・利便性では「他人に気づかれないこと への配慮」13.0%が各区分の上位となった。

■ **貸金業者から借入した際に満足した点(複数回答　n=2,200)**



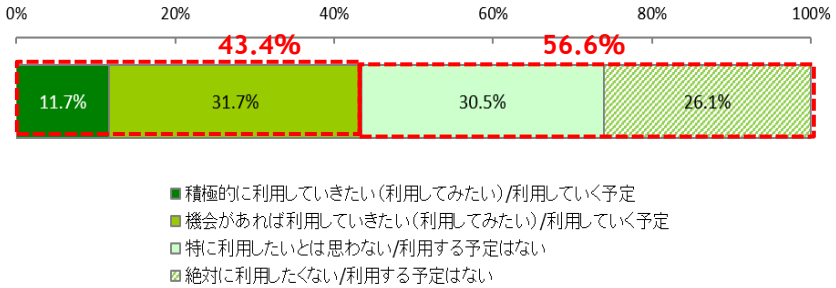


Copyright © 2026 Japan Financial Services Association. All Rights Reserved

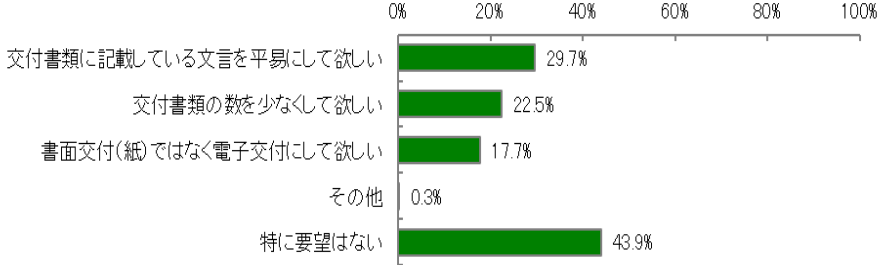
借入れについての今後の利用意向等

- 貸金業者からの借入れについての今後の利用意向は、「利用していきたい（利用してみたい）」の合計が43.4%、「利用したいと思わない／利用予定はない」の合計が56.6%となった。
- 貸金業者から交付される書類に関する改善要望については、「特に要望はない」43.9%が最も高く、「記載文言を平易にしてほしい」29.7%、「交付書類の数を少なくしてほしい」22.5%が続いている。

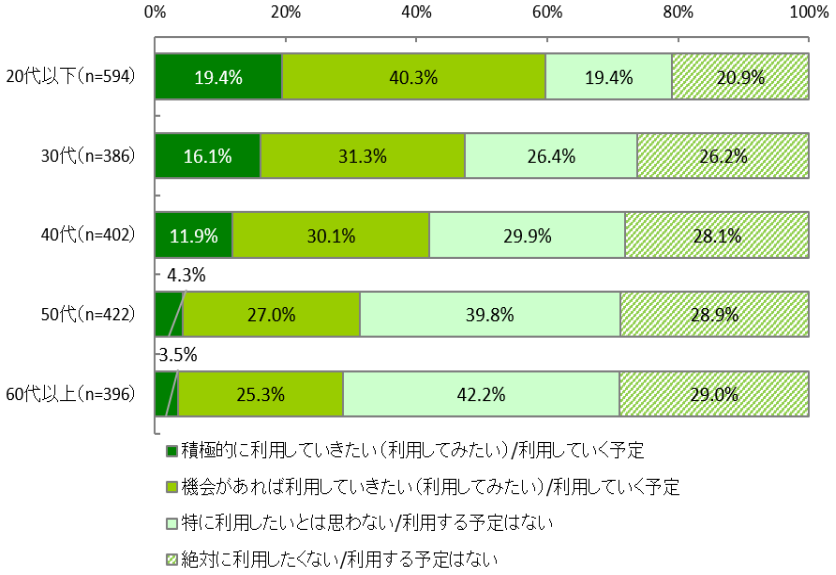
■ 借入れについての今後の利用意向 (n=2,200)



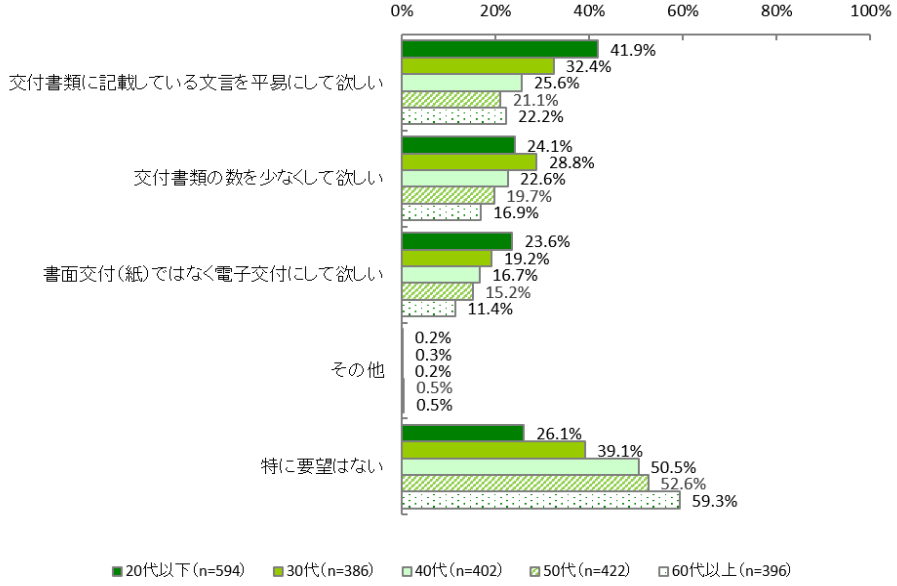
■ 交付される書類に関する改善要望 (複数回答n=2,200)



■ 年代別 (n=2,200)



■ 年代別 (n=2,200)



Copyright © 2026 Japan Financial Services Association. All Rights Reserved

6・
社会問題となり得る可能性のある行動等について

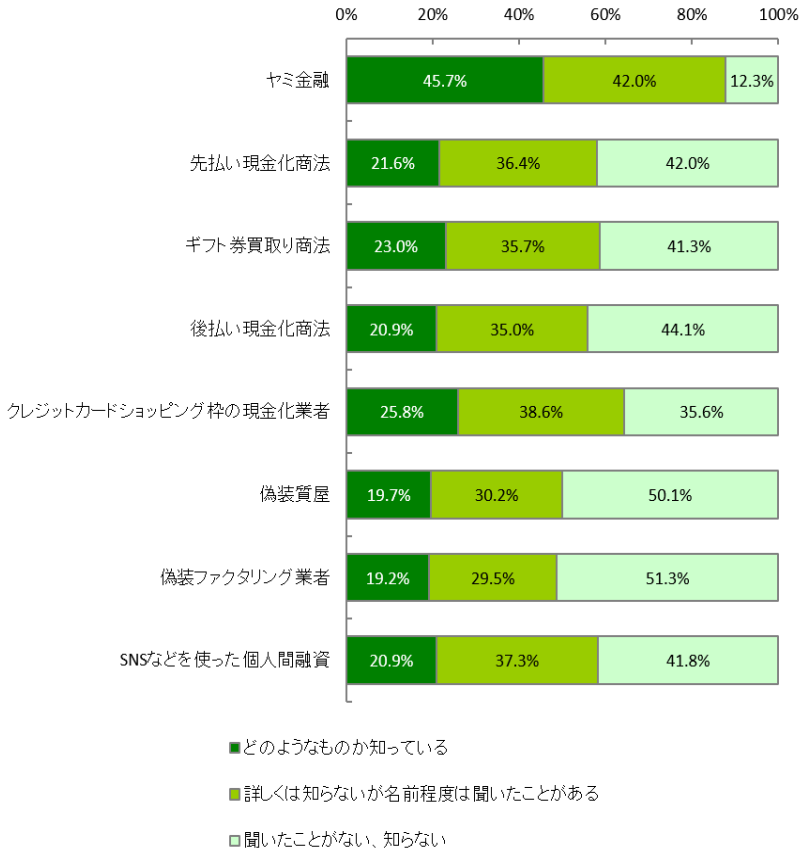
Copyright © 2026 Japan Financial Services Association. All Rights Reserved

本編P205.216

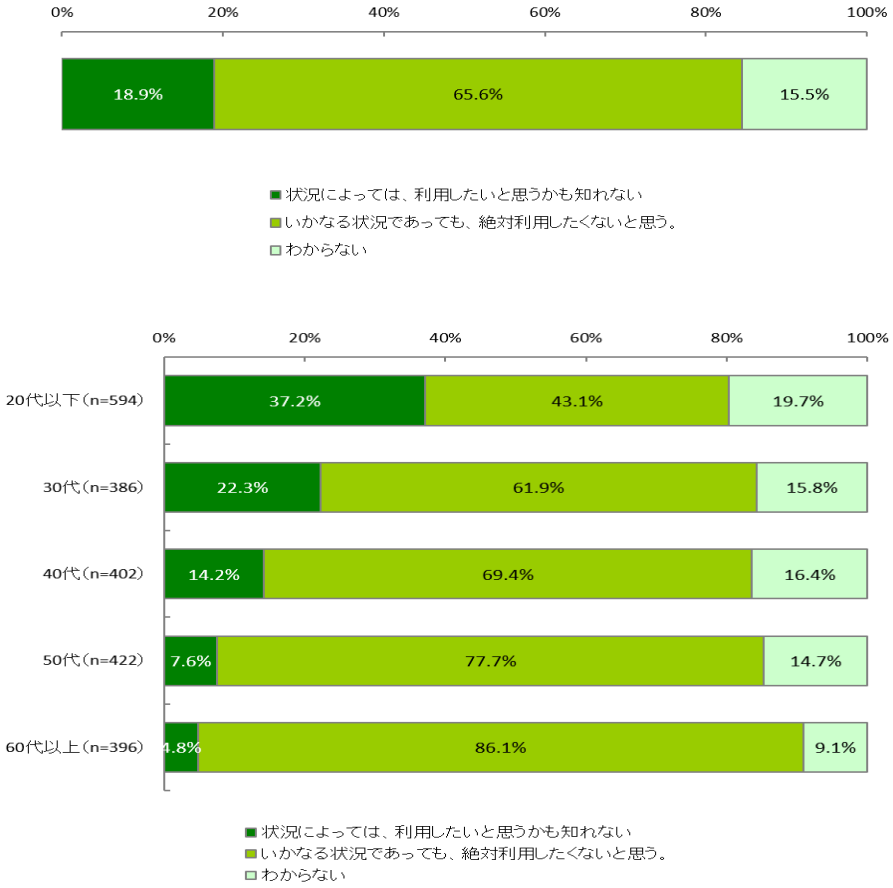
ヤミ金融等についての認知・利用に対する意識

- ヤミ金融などの非正規業者に関する認知度は、「ヤミ金融」45.7%が最も高く、「クレジットカードショッピング枠の現金化業者」25.8%、「ギフト券買取商法」23.0%が続いた。
- ヤミ金融等の利用に対する意識をみると、「いかなる状況でも絶対利用したくない」は65.6%、「状況によっては利用したいと思うかもしれない」は18.9%となった。年代別でみると、「状況によっては利用したいと思うかもしれない」は60代以上4.8%に対して、20代以下では37.2%との回答となった。

■ ヤミ金融等についての認知 (n=2,200)



■ 年代別（複数回答　n=2,200）



Copyright © 2026 Japan Financial Services Association. All Rights Reserved

ニセ警察詐欺被害について（日本貸金業協会の対応事例）

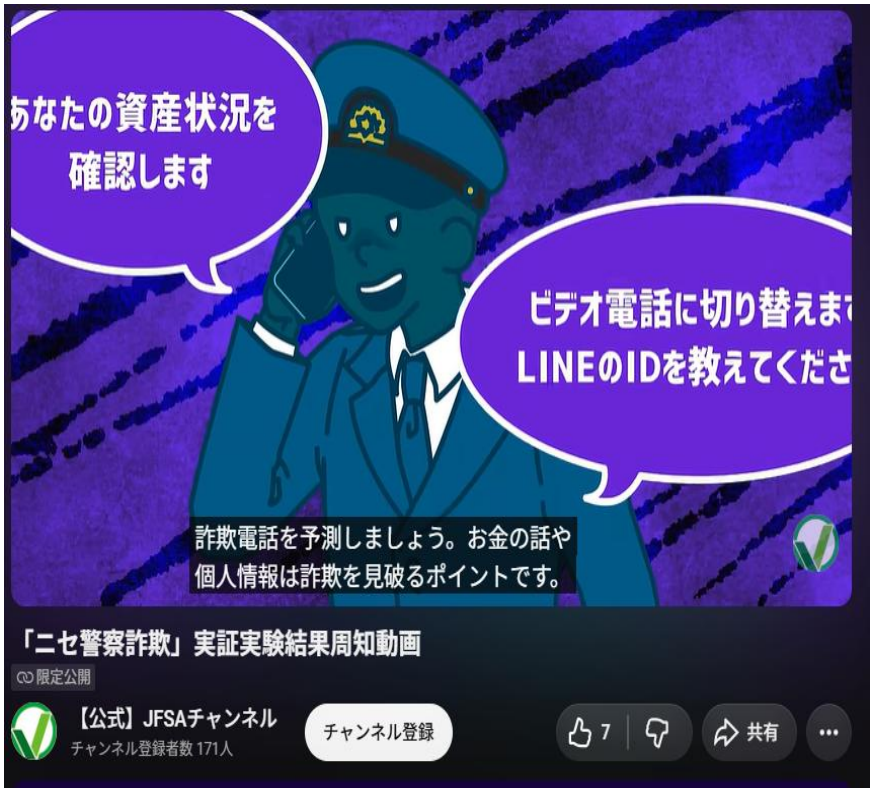
- 特殊詐欺の被害状況は、前年と比べて大幅に増加しており、特にニセの警察手帳や逮捕状を示して信用させ、金銭等をだまし取る「ニセ警察詐欺」の被害が多く、その被害者は高齢者のみならず、若年層においても拡大している。
- 神奈川県警察本部生活安全部や中央大学と連携し、警察官を装った模擬的特殊詐欺の実験を、在籍する学生を対象に実施した。また、この結果をもとに「ニセ警察詐欺」に関する注意喚起動画を制作した。

中央大学と連携した「ニセ警察詐欺」実証実験

●警察を騙（かた）って個人情報を聞き出す典型的な電話詐欺を再現して、特殊詐欺被害の実態および被害に至るまでの心理プロセスを捉えることで、被害防止に役立つデータを取得することを目的としました。
●中央大学と連携して、神奈川県警察本部の協力を得ながら、警察官を装った模擬的特殊詐欺の実験を、中央大学に在籍する学生を対象に行いました。

●警察官を装った“掛（か）け子役”が148人の大学生の携帯電話に電話番号が通知される状態で架電した結果、25人が電話に出て、このうち最終的に5人が個人情報（LINE ID）を提供する直前までに至りました。

「ニセ警察詐欺」の注意喚起（YouTube）イメージ



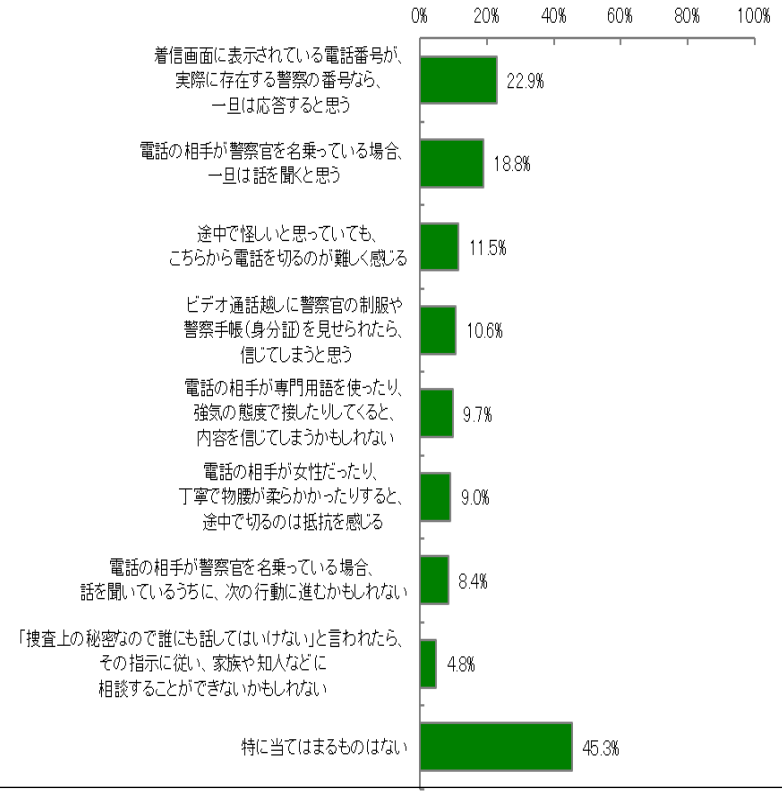
Copyright © 2026 Japan Financial Services Association. All Rights Reserved

本編P224.231,233

ニセ警察詐欺被害に遭う可能性等

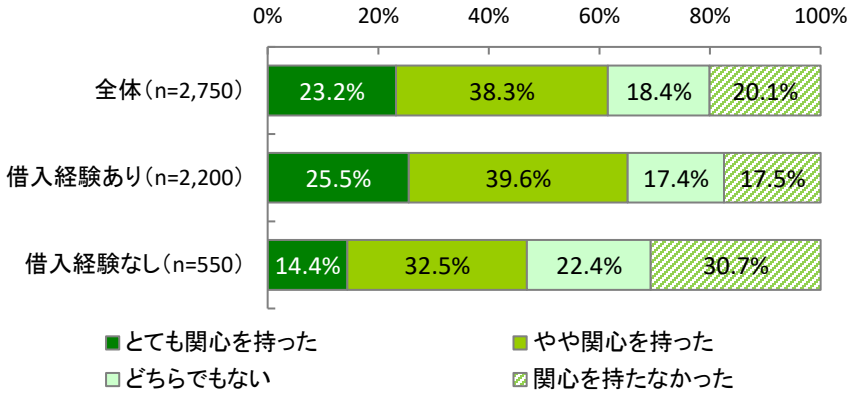
- ニセ警察詐欺被害に遭う可能性については、「着信画面に表示されている電話番号が、実際に存在する警察の番号なら、一旦は応答すると思う」22.9%が最も高く、「電話の相手が警察官を名乗っている場合、一旦は話を聞くと思う」18.8%、「途中で怪しいと思っていても、こちらから電話を切るのが難しく感じる」11.5%が続く結果となった。
- 「ニセ警察詐欺の注意喚起動画」視聴後の関心度をみると、「とても関心を持った（23.2%）」「やや関心を持った（38.3%）」との回答があった。
- 借入経験のある個人の「ニセ警察詐欺」に対する関心を年代別にみると、すべての年代で「とても関心を持った」「やや関心を持った」では、概ね６割以上の回答となった。

■ ニセ警察詐欺被害に遭う可能性 （複数回答　n=2,200）

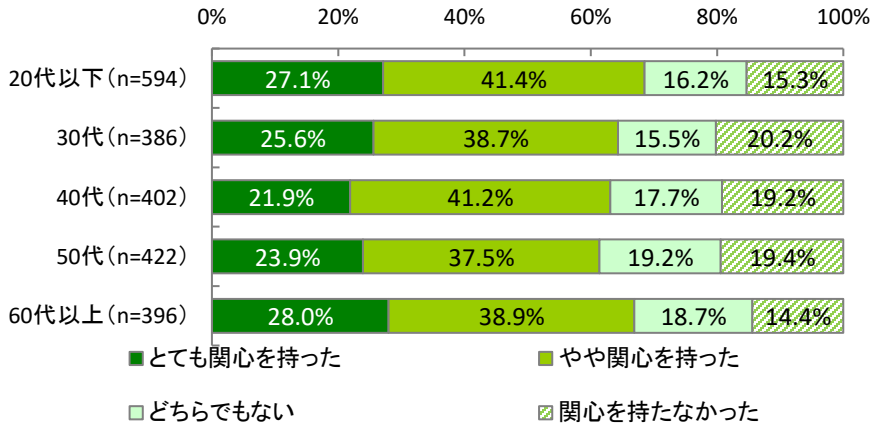


※ニセ警察詐欺とは、警察官や検察官等になりすまし、口座が犯罪に悪用されているなどと偽って資産調査や保護の名目で現金を預金口座に振り込ませるなどの方法により、だまし取る詐欺行為。

■ 「ニセ警察詐欺注意喚起動画」視聴後の関心度（n=2,750）



■ 年代別(n= 2,200)



Copyright © 2026 Japan Financial Services Association. All Rights Reserved

事業者向け調査

Copyright © 2026 Japan Financial Services Association. All Rights Reserved

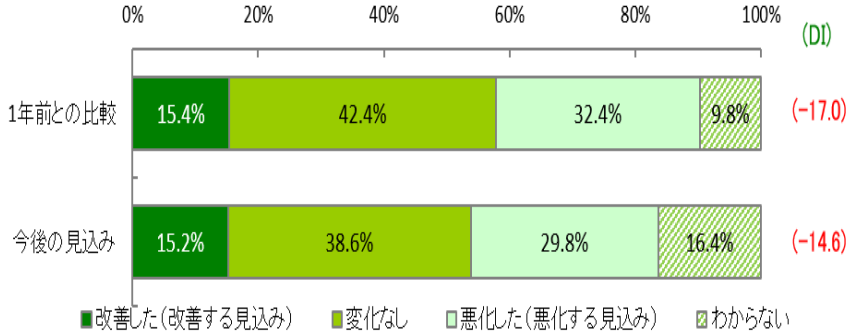
7・
資金需要者等を取り巻く環境の変化について

Copyright © 2026 Japan Financial Services Association. All Rights Reserved

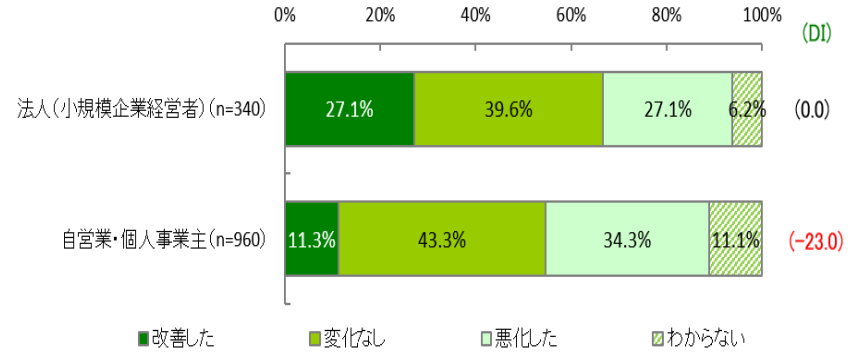
事業環境の変化と今後の見通し

- 事業環境の変化をみると、1年前との比較は「改善」15.4%、「変化なし」42.4%、「悪化」32.4%で、「改善」と回答した割合から「悪化」と回答した割合を引いたDI（分布指標）は-17.0とマイナスとなっている。今後の見通しもDI-14.6で、引き続き先行き懸念が継続している。法人のDIは0.0に対し自営業・個人事業主は-23.0で差が大きい結果となった。
- 「悪化した」と回答した割合を業種別でみると、小売業45.4%、製造業40.6%、卸売業40.0%となった。

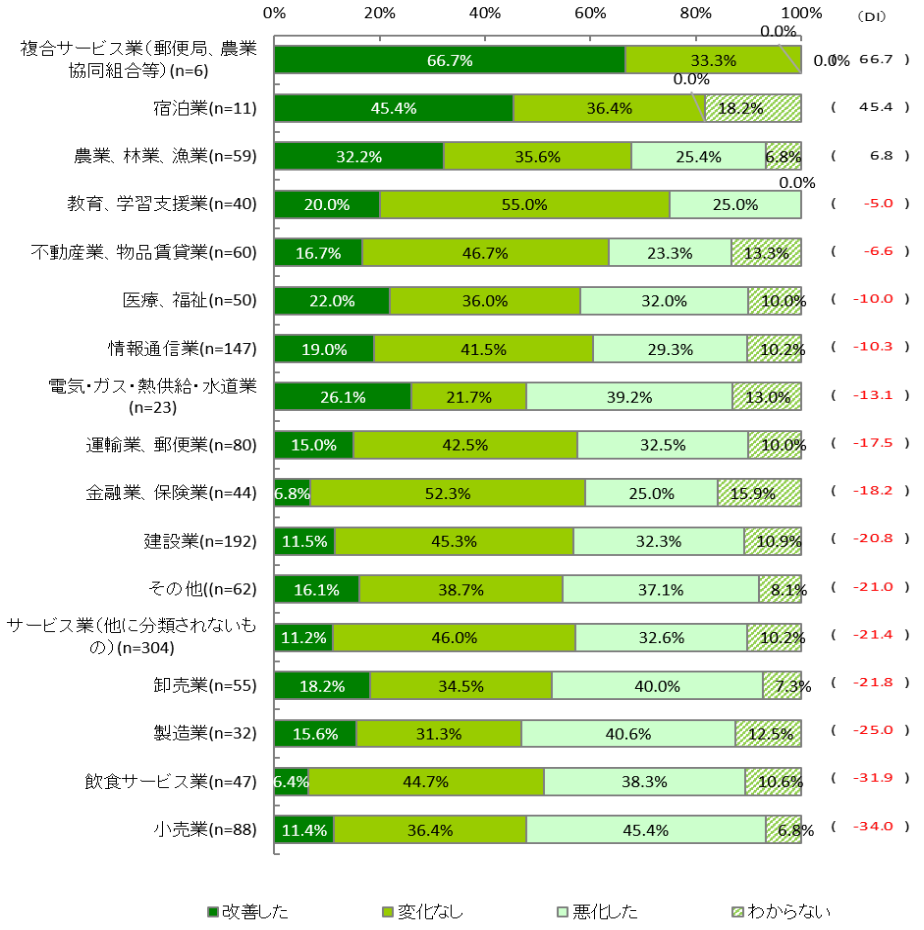
■ 事業環境の変化（1年前との比較）と今後の見通し(n=1,300)



■ 法人個人事業主別(複数回答　n=1,300)



■ 業態別(n=1,300)



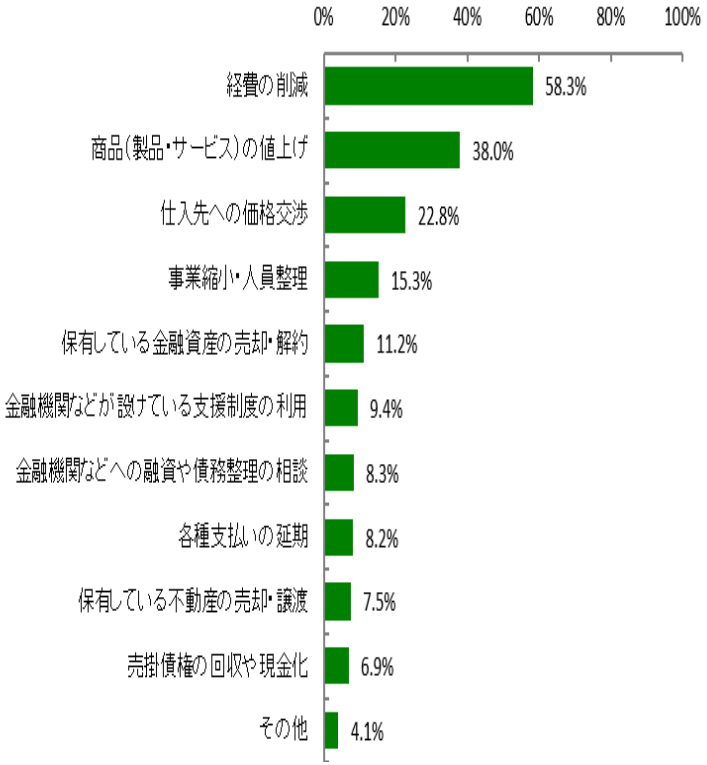
Copyright © 2026 Japan Financial Services Association. All Rights Reserved

日本貸金業協会
Japan Financial Services Association

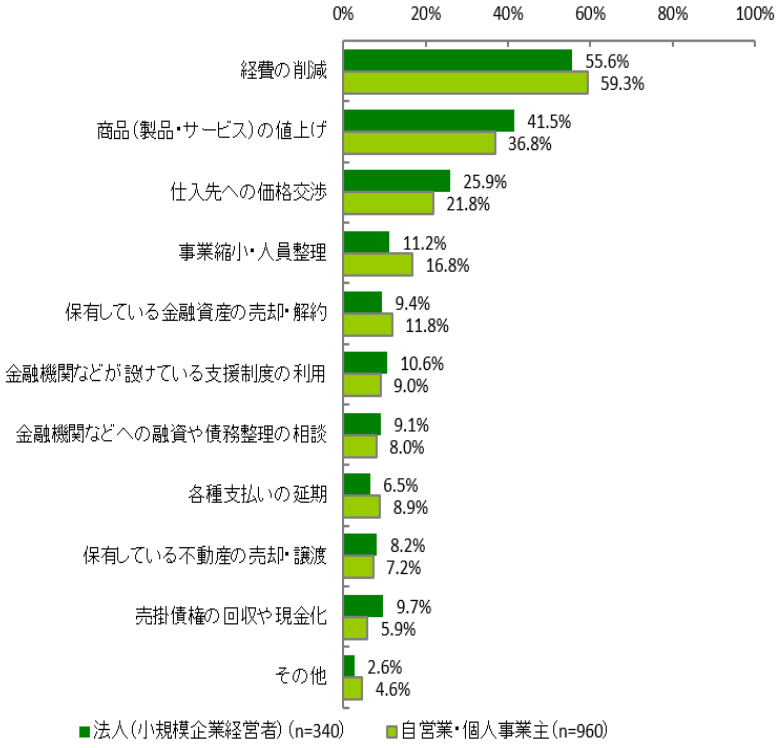
物価高騰などの影響時に検討する手段・方法

◆ 金利上昇や物価高騰、追加関税などの影響が生じた場合に検討する手段・方法については、「経費の削減」58.3%、「商品・サービスの値上げ」38.0%、「仕入先への価格交渉」22.8%が上位となった。

■ **検討する手段・方法　(複数回答　n=1,300)**



■ **法人個人事業主別　(複数回答　n=1,300)**



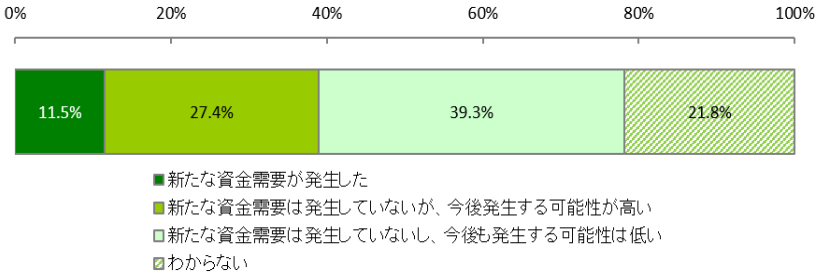
Copyright © 2026 Japan Financial Services Association. All Rights Reserved

新たな資金需要の発生と手形等の運用変更等の影響

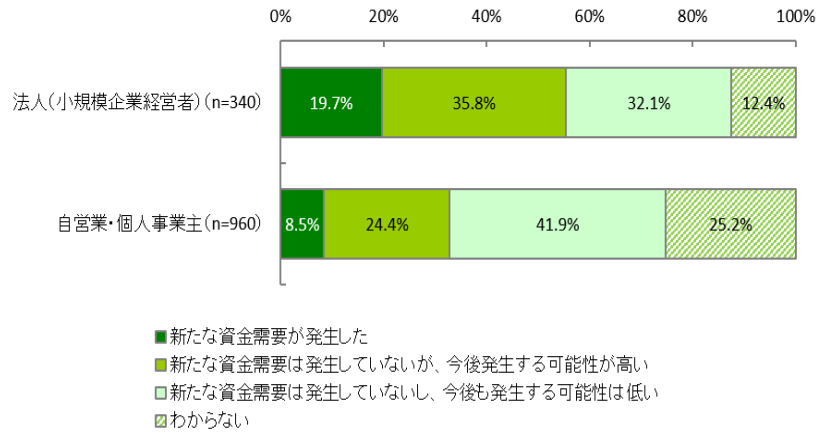
- 新たな資金需要の発生については、「発生しておらず、今後も可能性は低い」39.3%が最も高く、「発生していないが今後発生する可能性が高い」27.4%、「わからない」21.8%、「既に発生した」11.5%となった。法人では「既に発生した」が19.7%、「今後発生する可能性が高い」が35.8%で、自営業・個人事業主より資金需要が顕在化していることがみてとれる。
- 手形等の運用変更による資金繰りへの影響は、「運用変更はなく、資金繰りは変わらない」が64.9%で最も高い。「運用変更があり、資金繰りは変わらない」16.7%を含めると、資金繰りに変化がない層は81.6%となる。一方、「資金繰りが改善した」は9.9%、「悪化した」は8.5%となり、法人は自営業・個人事業主より改善・悪化の双方が高い。

新たな資金需要の発生

■ (n=1,300)

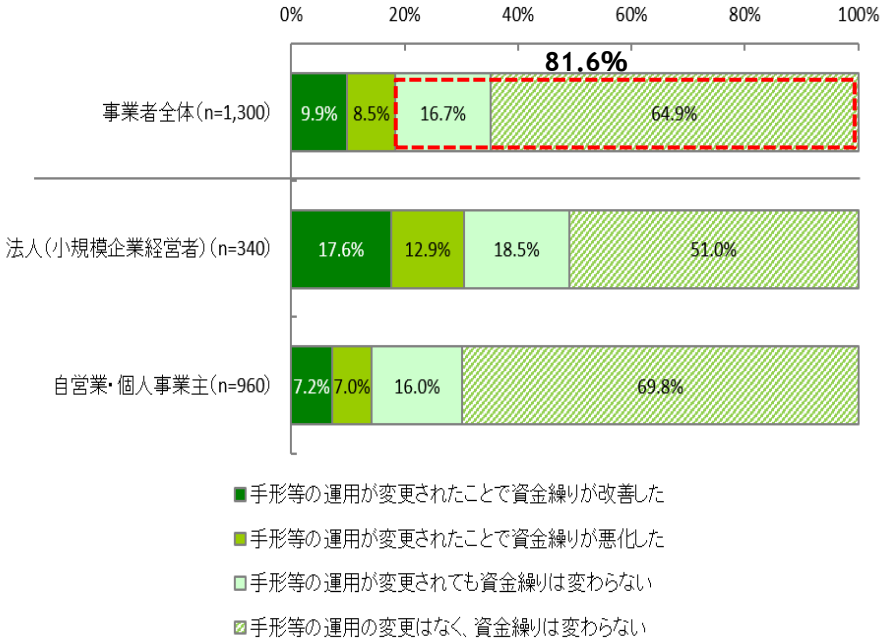


■ 法人個人事業主別 (n=1,300)



手形等の運用変更による資金繰りへの影響について

■ (n=1,300)



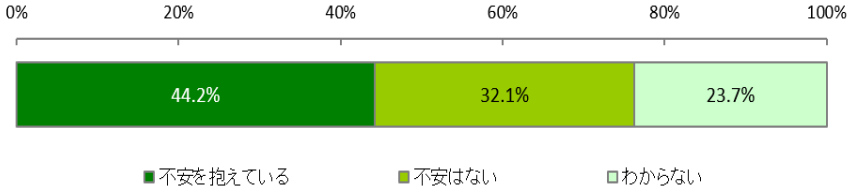
Copyright © 2026 Japan Financial Services Association. All Rights Reserved

事業活動における将来の資金繰りの不安

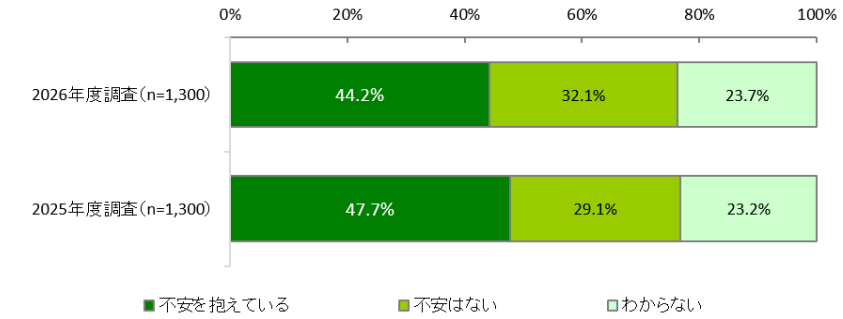
本編P245

◆ 将来の資金繰りに対しては、「不安を抱えている」44.2%、「不安はない」32.1%、「わからない」23.7%となった。
「不安を抱えている」割合は前年47.7%から3.5ポイント低下したものの、依然として4割台半ばを占める結果となった。

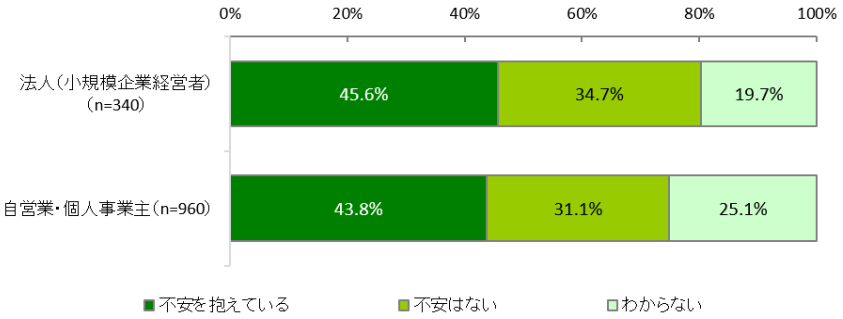
■ 将来の資金繰りの不安 (n=1,300)



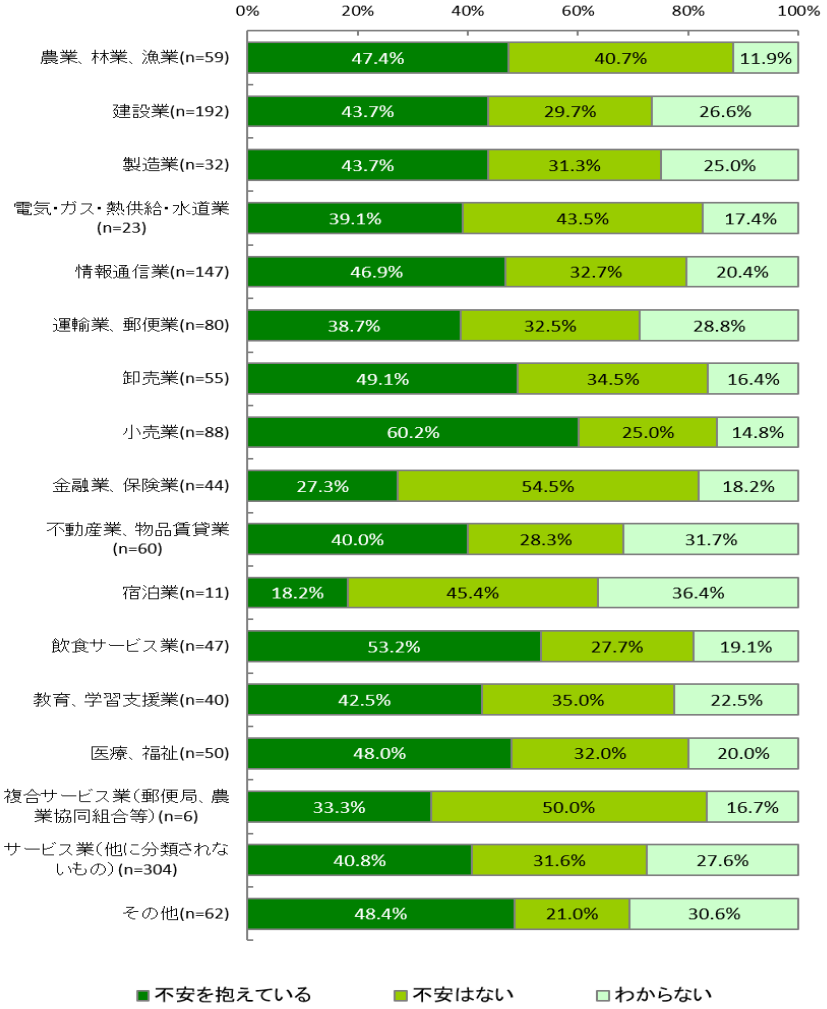
■ 経年比較



■ 法人個人事業主別 (n=1,300)



■ 業態別(n=1,300)



Copyright © 2026 Japan Financial Services Association. All Rights Reserved

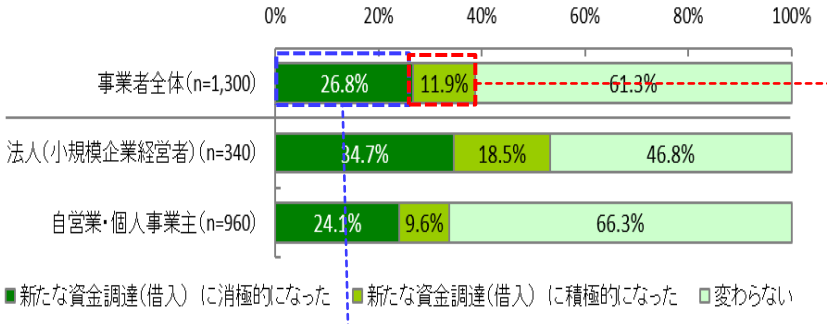
８・
資金需要者等の借入れに対する意識等について

Copyright © 2026 Japan Financial Services Association. All Rights Reserved

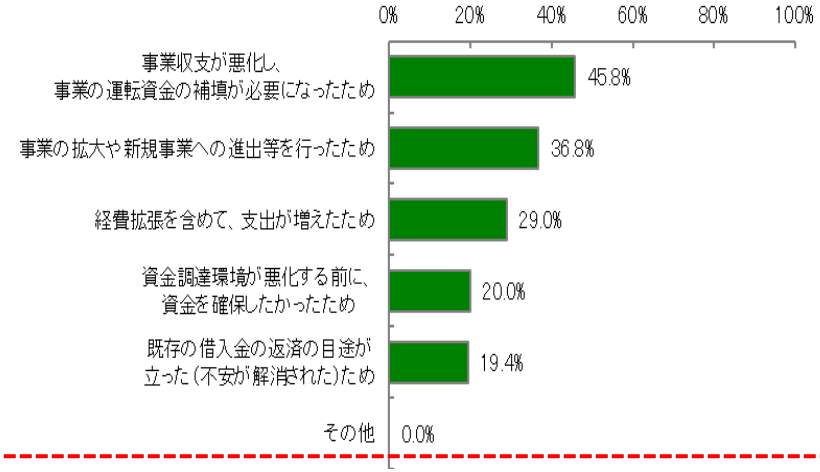
借入意識や借入行動の変化

◆直近1年間における借入に対する意識の変化については、「変わらない」61.3%、「消極的になった」26.8%、「積極的になった」11.9%となった。消極化の理由は「経費削減等で支出が減った」41.0%、「事業収支が改善し運転資金補填が不要」32.7%が上位で、積極化の理由は「事業収支悪化で運転資金補填が必要」45.8%、「事業拡大・新規事業」36.8%が上位となった。

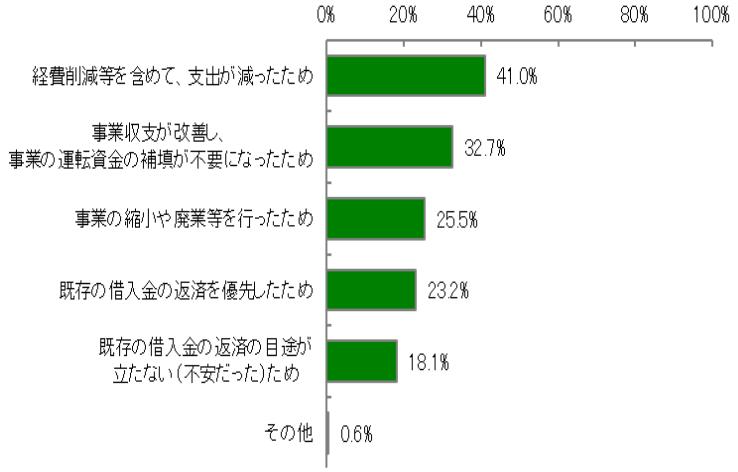
■ 直近1年間における借入意識や借入行動の変化について（n=1,300）



■ 「積極的になった」と回答した方（複数回答　n=155）



■ 「消極的になった」と回答した方（複数回答　n=349）

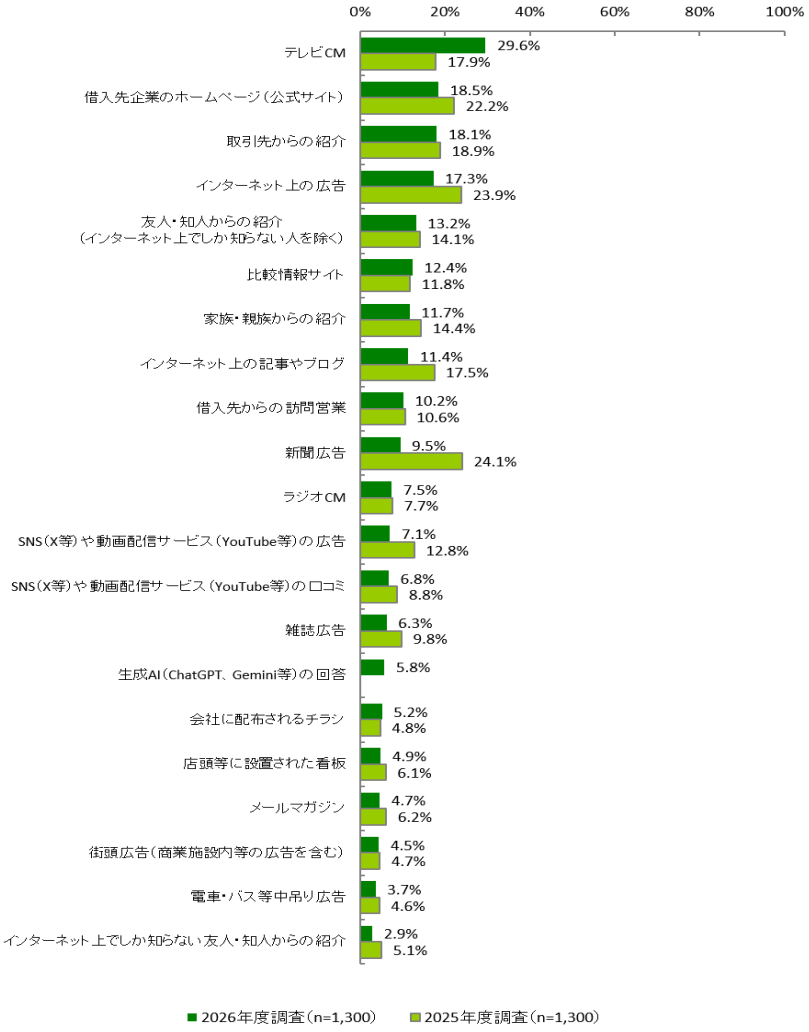


Copyright © 2026 Japan Financial Services Association. All Rights Reserved

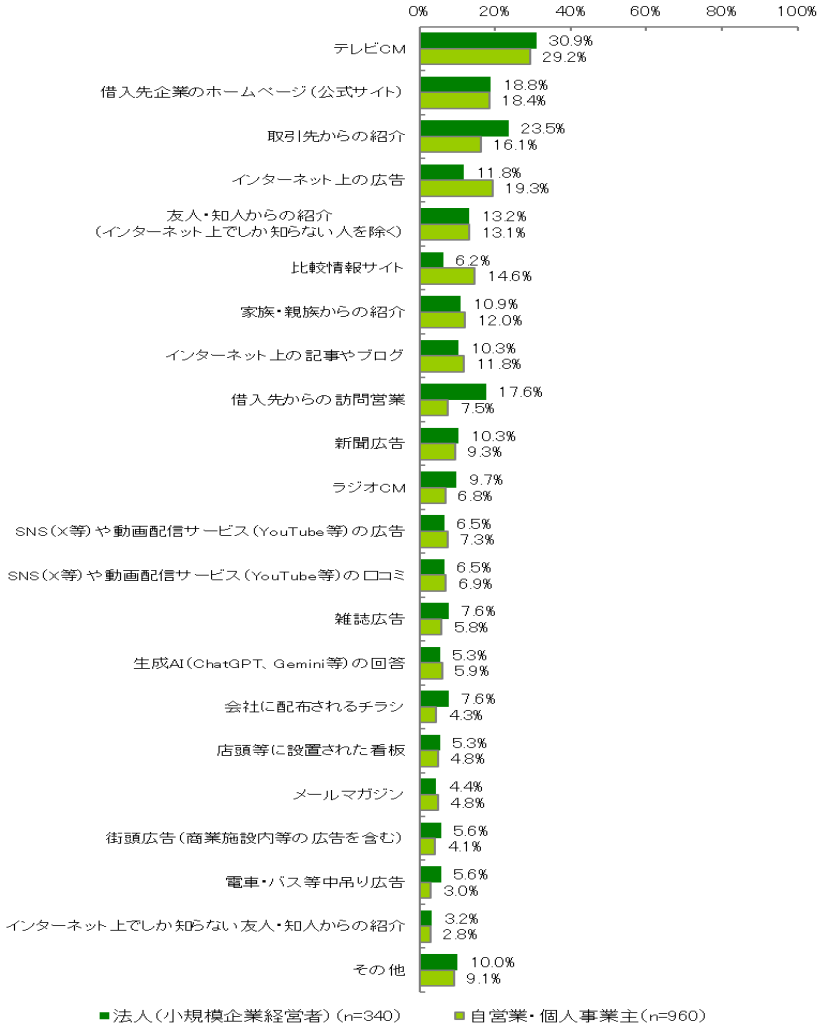
借入先を選定する際の情報収集先

◆ 借入先を選定する際の情報収集先は、「テレビCM」29.6%が最も高く、「借入先企業のホームページ」18.5%、「取引先からの紹介」18.1%、「インターネット上の広告」17.3%が続いた。新聞広告は9.5%にとどまり、前年24.1%から大きく低下している。

■ 借入先を選定する際の情報収集先(複数回答　n=1,300)



■ 法人個人事業主別 (複数回答　n=1,300)



Copyright © 2026 Japan Financial Services Association. All Rights Reserved

９・
資金需要者等の借入れ・資金調達行動等について

Copyright © 2026 Japan Financial Services Association. All Rights Reserved

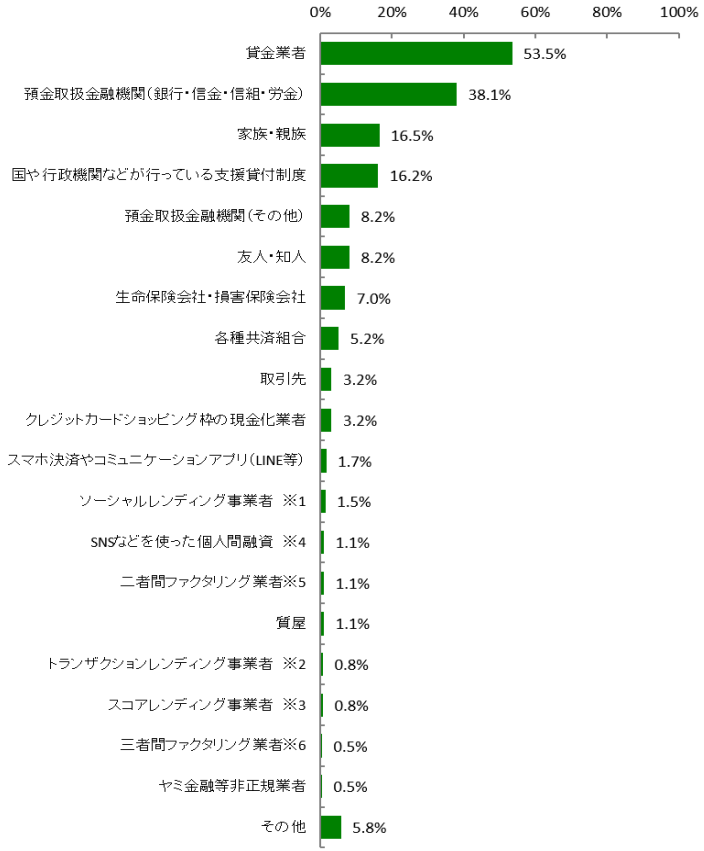
借入れ・資金調達先として検討した先と選んだ理由

本編P255.257

- 借入れや資金調達先として検討した先は、「貸金業者」53.5%が最も高く、「預金取扱金融機関（銀行・信金・信組・労金）」38.1%、「家族・親族」16.5%が続いた。法人、自営業・個人事業主とも貸金業者が最多となっている。
- 貸金業者を借入先として選んだ理由は、「小額で申込み可能」29.7%が最も高く、「無担保で借入れできる」27.6%、「金利が低い（手数料が安い）」25.7%が続いた。

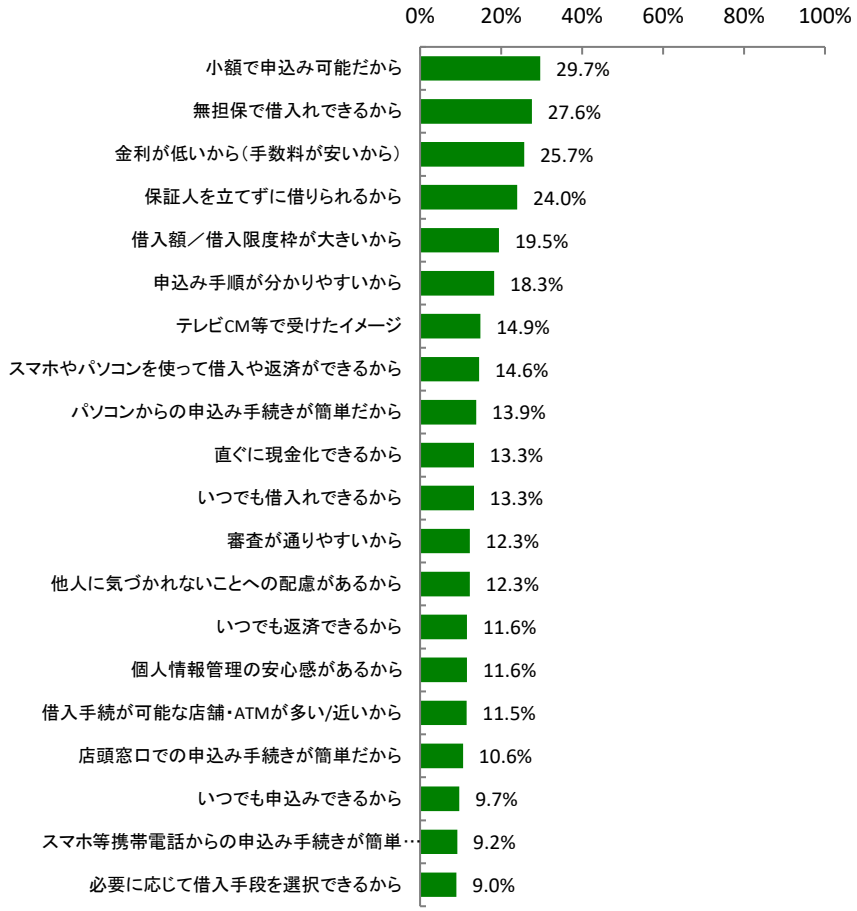
借入れ・資金調達先として検討した先

■ **借入れ・資金調達先として検討した先(複数回答　n=1,300)**



借入先として選んだ理由

■ **借入先として選んだ理由 (複数回答　n=1,298)**

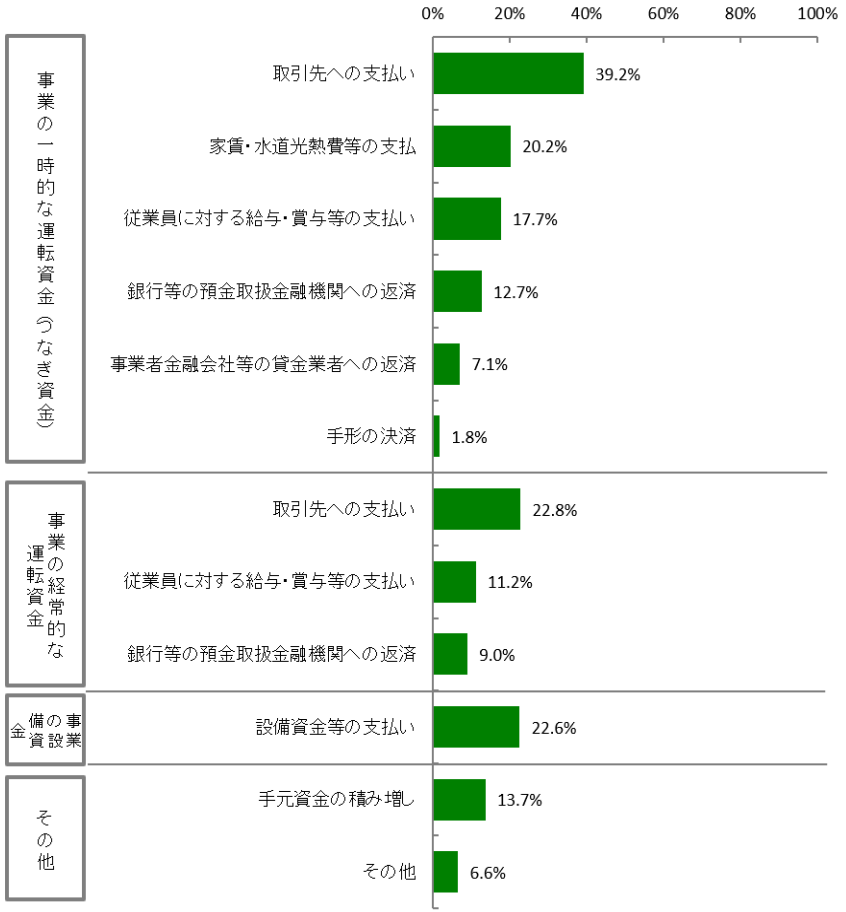


Copyright © 2026 Japan Financial Services Association. All Rights Reserved

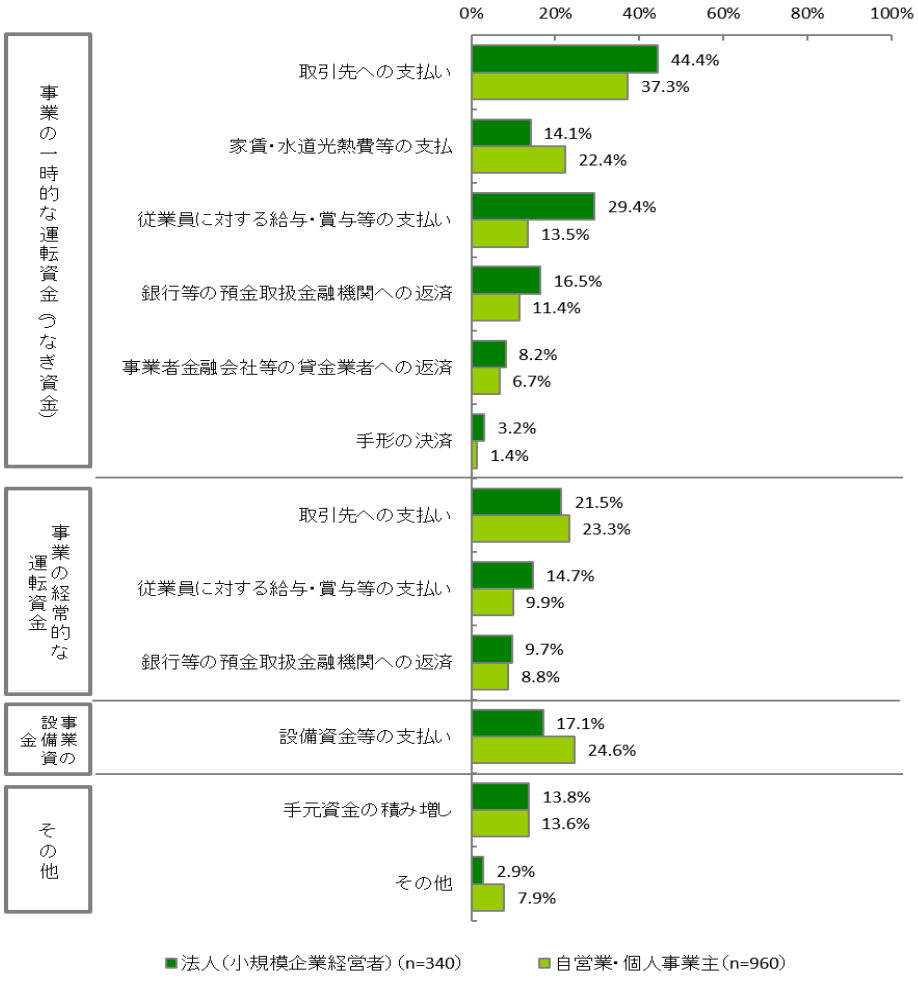
借入申込を行った際の借入金使途

◆借入経験のある事業者に対して、借入申込を行った際の借入金使途について調査したところ、一時的な運転資金（つなぎ資金）や経常的な運転資金では「取引先への支払い」がそれぞれ39.2%、22.8%で最も高くなっている。一方、「設備資金等の支払い」（22.6%）も一定割合を占める結果となった。

■ 借入申込を行った際の借入金使途 (複数回答　n=1,300)



■ 法人個人事業主別 (複数回答　n=1,300)



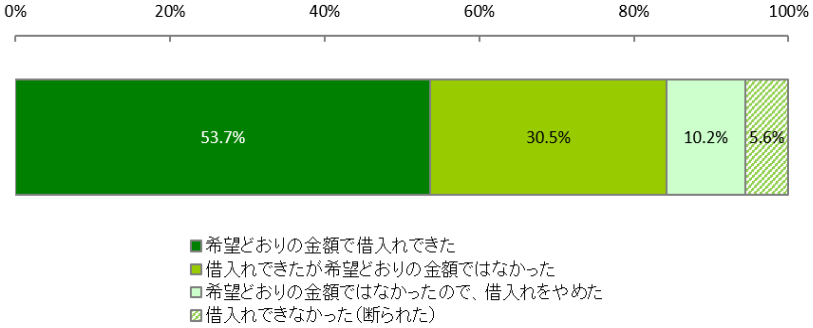
Copyright © 2026 Japan Financial Services Association. All Rights Reserved

直近3年間の貸金業者への借入申込結果等

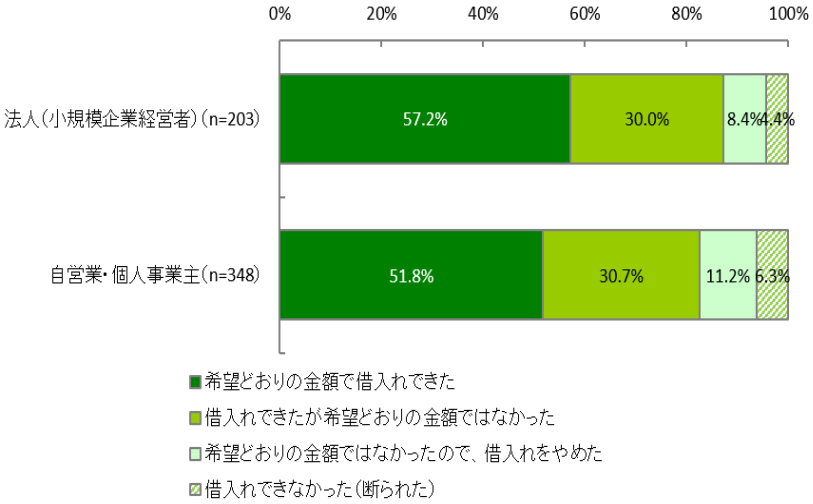
- 「希望どおりの金額で借入れできた」は53.7%で、法人57.2%、自営業・個人事業主51.8%となった。
- 借入れを検討した際に計画していた返済期間は1年以内の合計が52.1%、返済原資は「売上代金の回収による返済」64.6%が最多となった。

直近3年間の貸金業者への借入申込結果

■ (n=1,300)

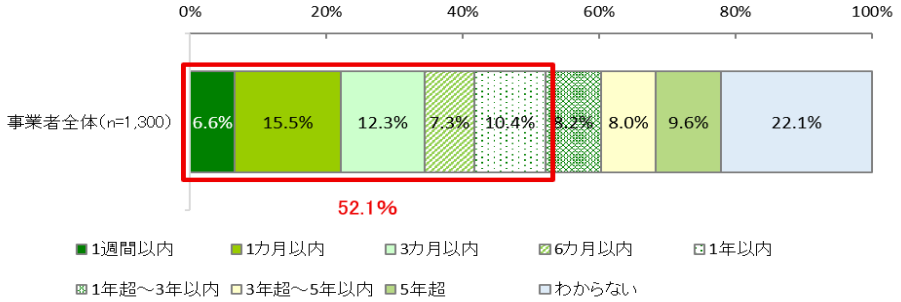


■ 法人個人事業主別 (n=1,300)

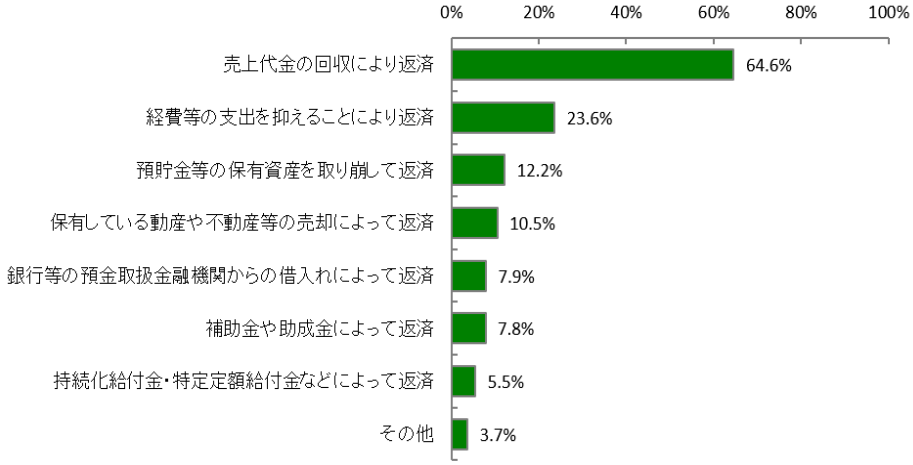


借入れを検討した際に計画していた返済期間・返済原資

■ 計画していた返済期間(n=1,300)



■ 計画していた返済原資(n=1,300)



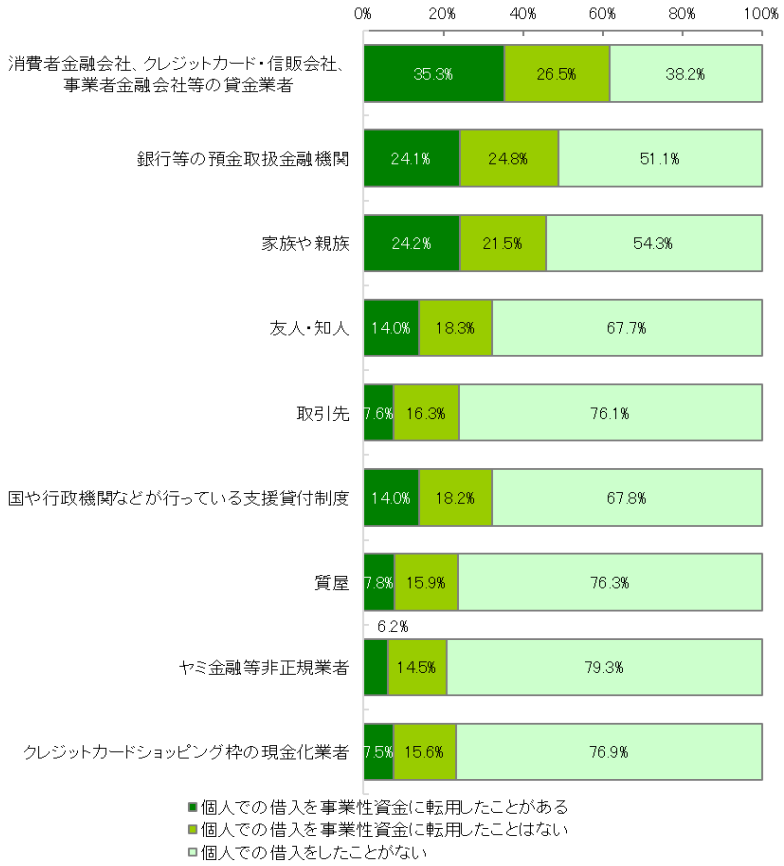
Copyright © 2026 Japan Financial Services Association. All Rights Reserved

個人借入の事業性資金への転用経験等

- 個人で借りた資金を事業性資金へ転用した経験は、「貸金業者」35.3%が最も高く、「家族・親族」24.2%、「銀行等の預金取扱金融機関」24.1%がほぼ同水準で続く結果となった。
- 借入時における保証や担保の設定について、「利用している（利用したことがある）」「利用したいと考えている（関心がある）」の合計は、「信用保証協会の保証制度」33.8%、「代表者等による個人保証」32.0%が上位となった。

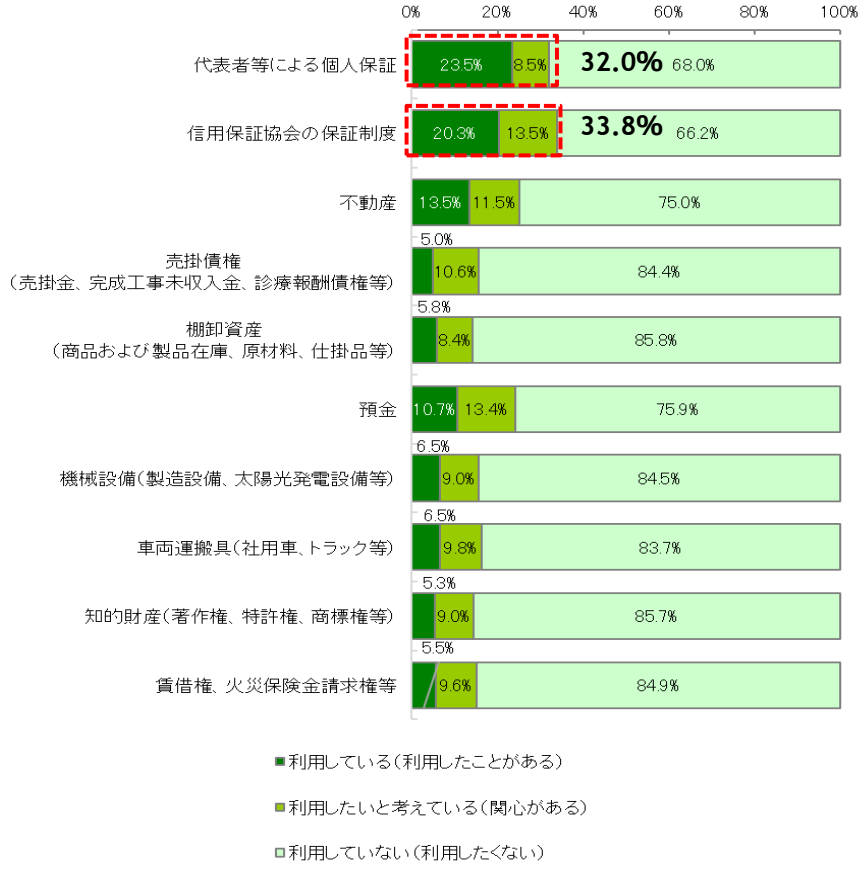
個人借入の事業性資金への転用経験の有無

■ **事業性資金への転用経験 (n=1,300)**



借入時の保証や担保設定の有無

■ **借入時の保証や担保設定の有無 (n=1,300)**



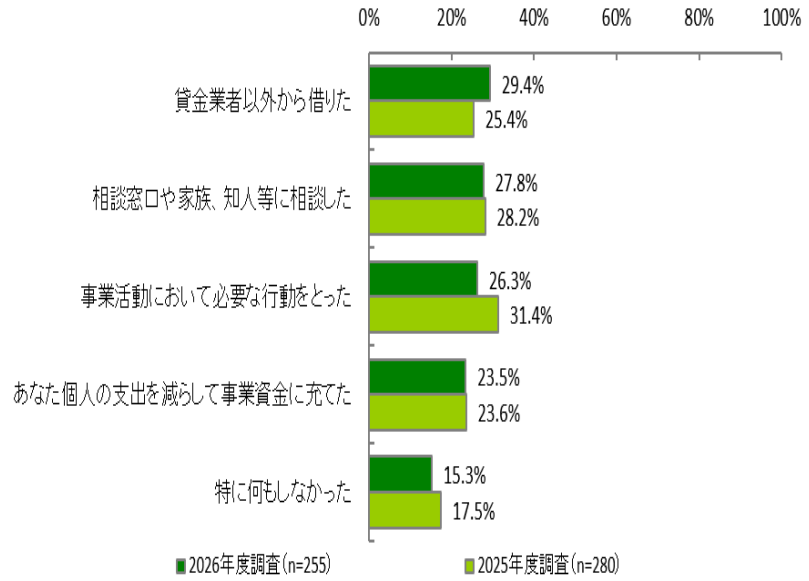
Copyright © 2026 Japan Financial Services Association. All Rights Reserved

借入れできなかった際の行動・影響

- 貸金業者から借入れできなかった（申し込まなかった）際に取った行動については、「貸金業者以外から借りた」29.4%、「相談窓口や家族・知人等に相談」27.8%、「事業活動に必要な行動をとった」26.3%が上位となった。
- 希望通り借入れできなかったことによる影響は「事業に必要な資材の購入等に支障」38.4%、「取引先への支払い・納品等に支障」29.0%、「設備の修繕に支障」25.5%が上位となった。

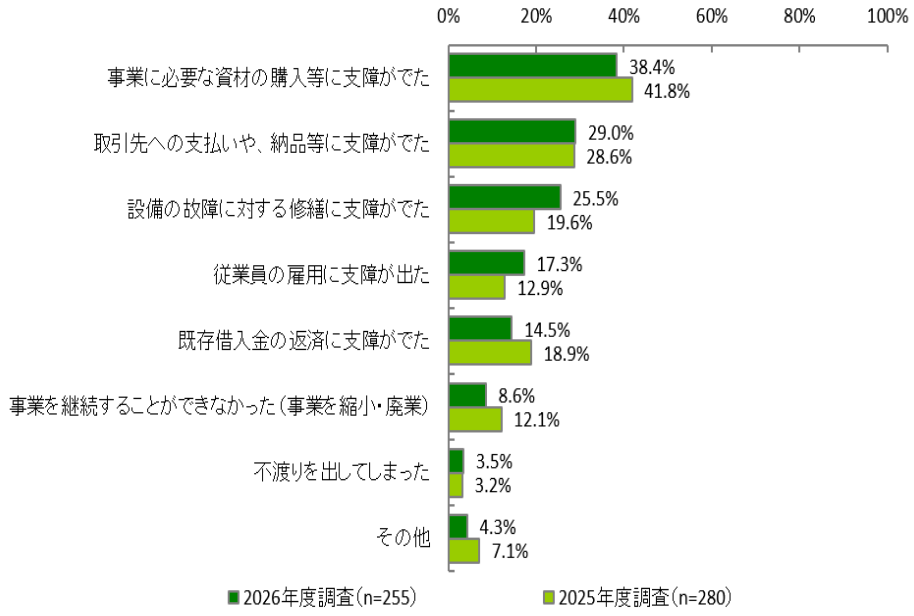
借入できなかった際にとった行動

■ **借入れできなかった際に取った行動（複数回答　n=255）**



希望どおりに借入れできなかったことによる影響

■ **借入れできなかったことによる影響（複数回答　n=255）**



Copyright © 2026 Japan Financial Services Association. All Rights Reserved

１０・
借入金の返済状況とセーフティネットの認知等について

Copyright © 2026 Japan Financial Services Association. All Rights Reserved

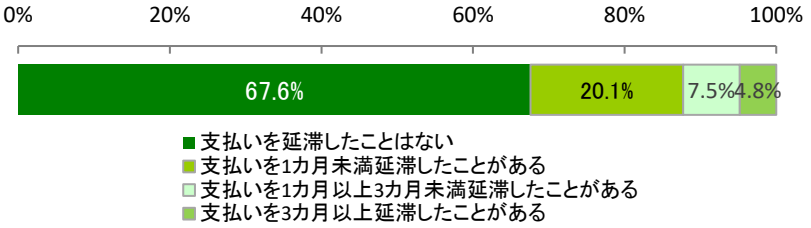
借入金の返済状況とセーフティネットの認知等

本編P270.273

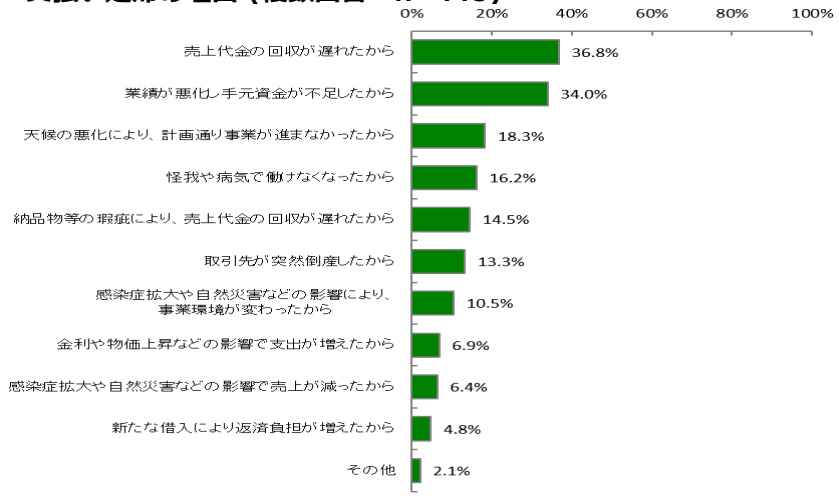
- 貸金業者からの借入れにおける3カ月以上の延滞経験は、4.8%となった。延滞した理由は「売上代金の回収が遅れた」36.8%が最も高く、「業績が悪化し手元資金が不足」34.0%、「天候悪化により計画どおり事業が進まなかった」18.3%が続く結果となった。
- セーフティネット等の認知度については、「セーフティネット貸付等や保証制度を知らない」45.3%、「知っているが利用経験なし」35.2%、「知っており利用経験あり」19.5%となった。
- セーフティネット等を利用したい理由は、「売上が減少しているから」53.0%、「取引先からの支払いが遅延しているから」23.5%、「銀行等から融資を断られたから」17.3%が上位となった。

延滞経験の有無と延滞した理由

■ **支払い延滞の経験有無 （n=1,300）**

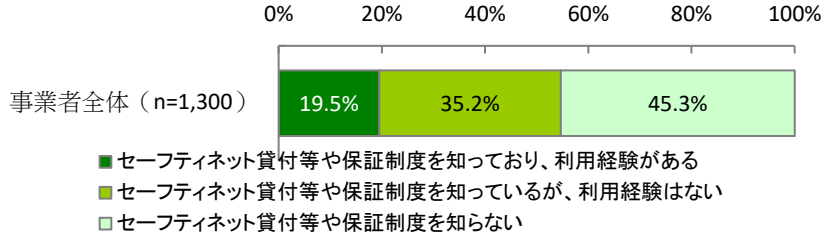


■ **支払い延滞の理由（複数回答　n=448）**

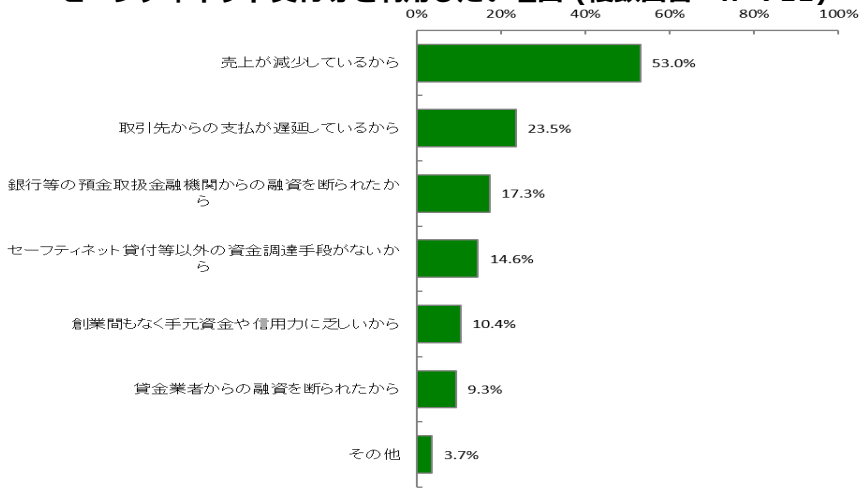


セーフティネット等の認知度と利用意向

■ **セーフティネット貸付等の認知度（n=1,300）**



■ **セーフティネット貸付等を利用したい理由（複数回答　n=711）**



Copyright © 2026 Japan Financial Services Association. All Rights Reserved

１１・
貸金業者から借入れした際に満足した点・要望事項等について

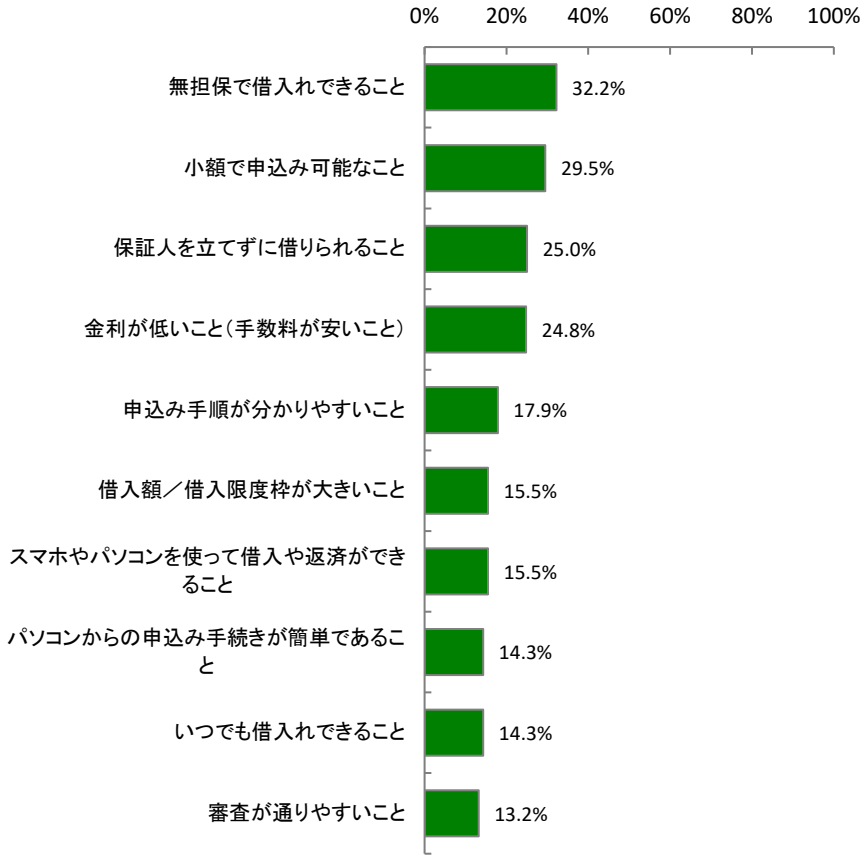
Copyright © 2026 Japan Financial Services Association. All Rights Reserved

貸金業者から借入れした際に満足した点

- 貸金業者から借入れした際に満足した点については、「無担保で借入れできる」32.2%が最も高く、「小額で申込み可能」29.5%、「保証人を立てずに借りられる」25.0%、「金利が低い」24.8%が続いた。「いつでも借入れできる」14.3%、「スマホ等で借入・返済できる」15.5%といった利便性に関わる項目も一定割合を占める結果となった。
- 貸金業者に対して望んでいるサービスや役割については、「生活に根ざした身近な金融機関としての存在」34.1%が最も高く、「オンラインで完結する融資サービス」25.0%、「一定期間無利息の新しい金融サービス」22.1%が続いている。

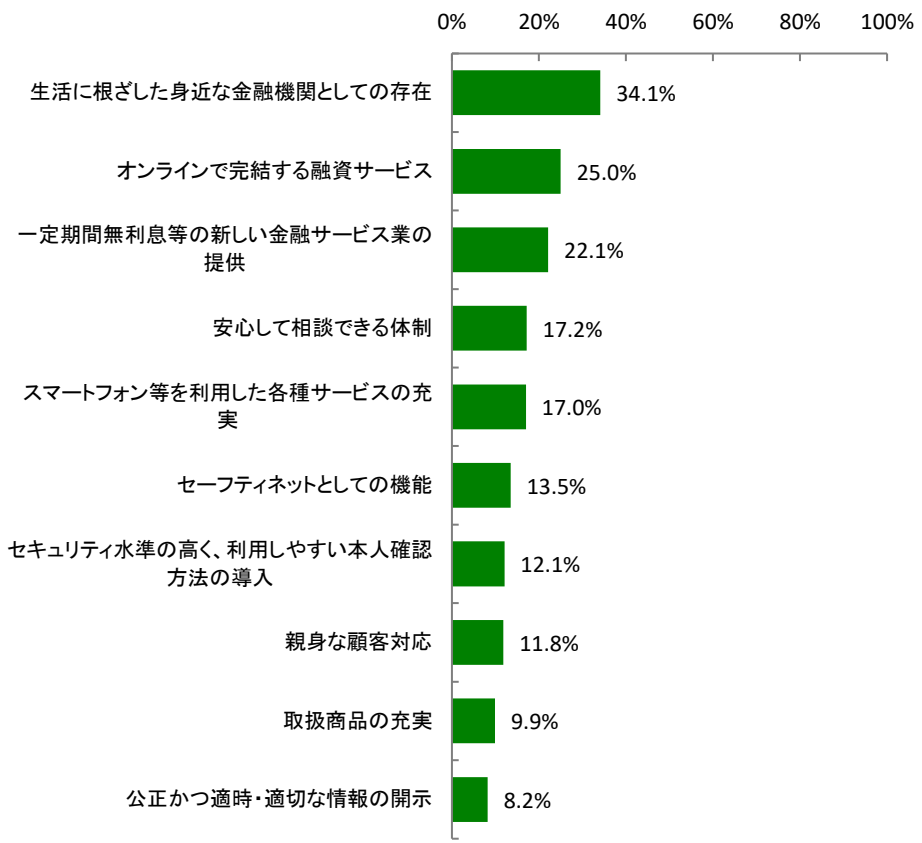
貸金業者から借入れした際に満足した点について

■ 上位10（複数回答　n=1,300）



貸金業者に対して望んでいるサービスや役割について

■ 上位10（複数回答　n=1,300）



Copyright © 2026 Japan Financial Services Association. All Rights Reserved

１２・
社会問題となり得る可能性のある行動等について

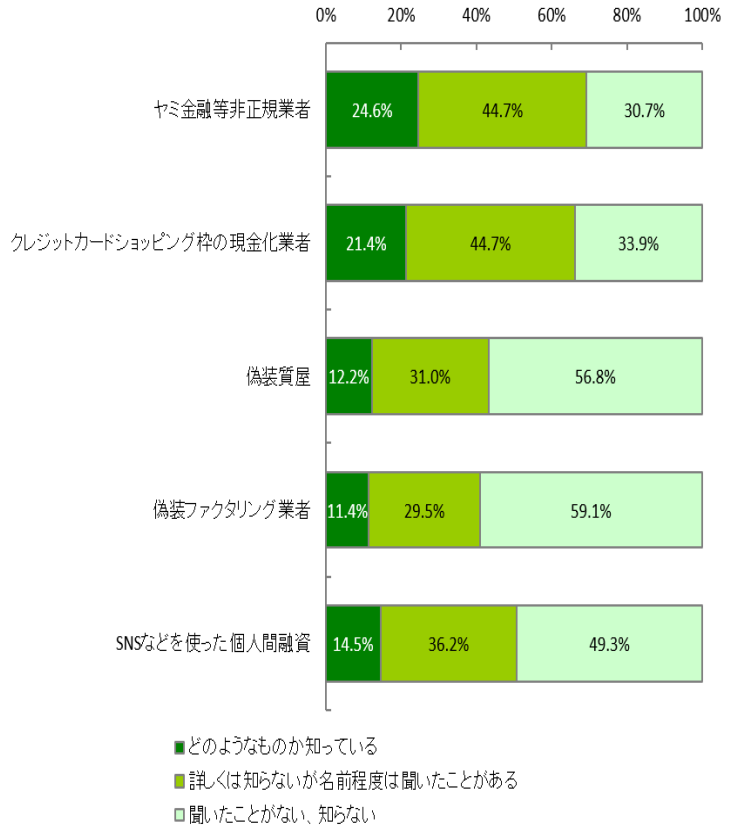
Copyright © 2026 Japan Financial Services Association. All Rights Reserved

ヤミ金融等についての認知・利用に対する意識

- ヤミ金融等の認知度は、「ヤミ金融」24.6%、「クレジットカードショッピング枠の現金化業者」21.4%、「SNS等を使った個人間融資」14.5%が上位となった。
- ヤミ金融等の利用に対する意識については、「いかなる状況でも絶対利用したくない」は69.4%、「状況によっては利用したいかもしれない」は11.2%となった。利用を考える理由は「少額なら問題ない」50.7%、「他に頼れるところがない」44.5%、「友人・知人の紹介なら問題ない」28.1%が上位となっている。

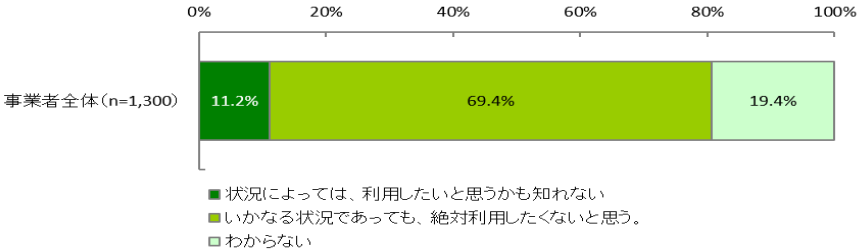
ヤミ金融等についての認知について

■ (n=1,300)

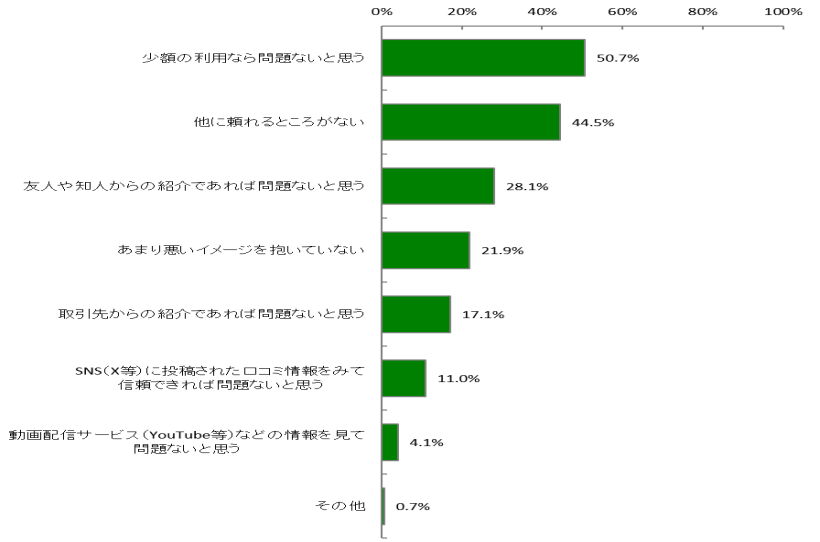


ヤミ金融等の利用に対する意識

■ (n=1,300)



■ ヤミ金融等を利用したいと思うかもしれない理由（複数回答　n=146）



Copyright © 2026 Japan Financial Services Association. All Rights Reserved

１３・
資金調達手段の多様化と課題等について

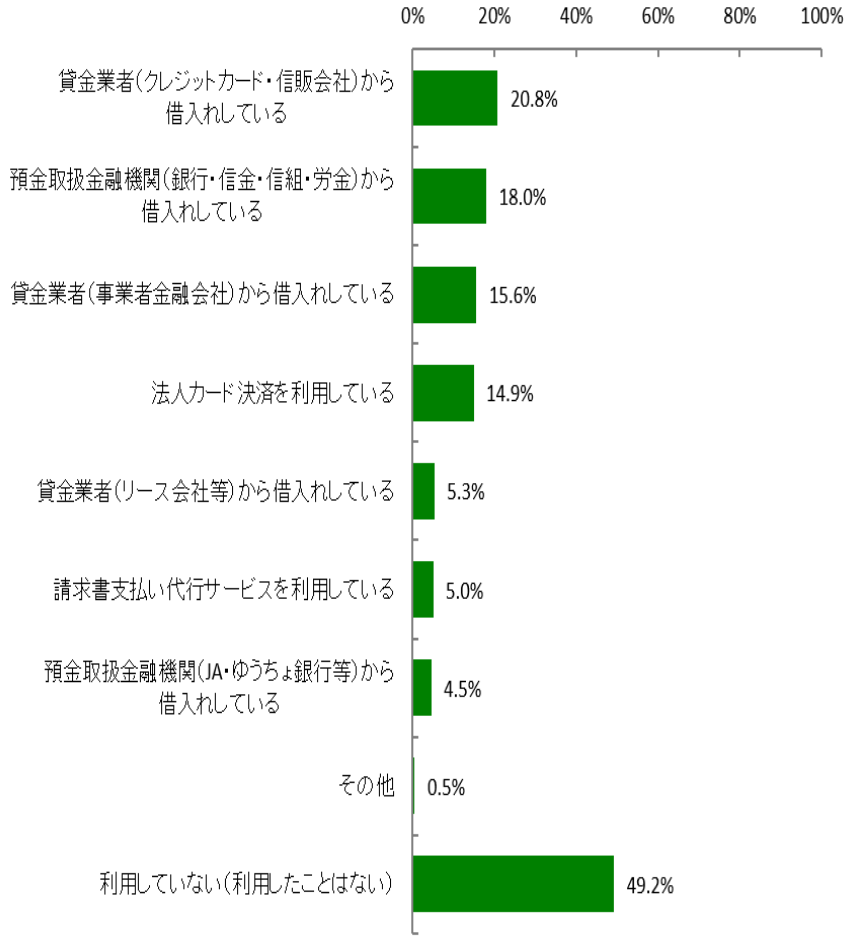
Copyright © 2026 Japan Financial Services Association. All Rights Reserved

買掛金や未払金などの支払い時に利用している金融サービス

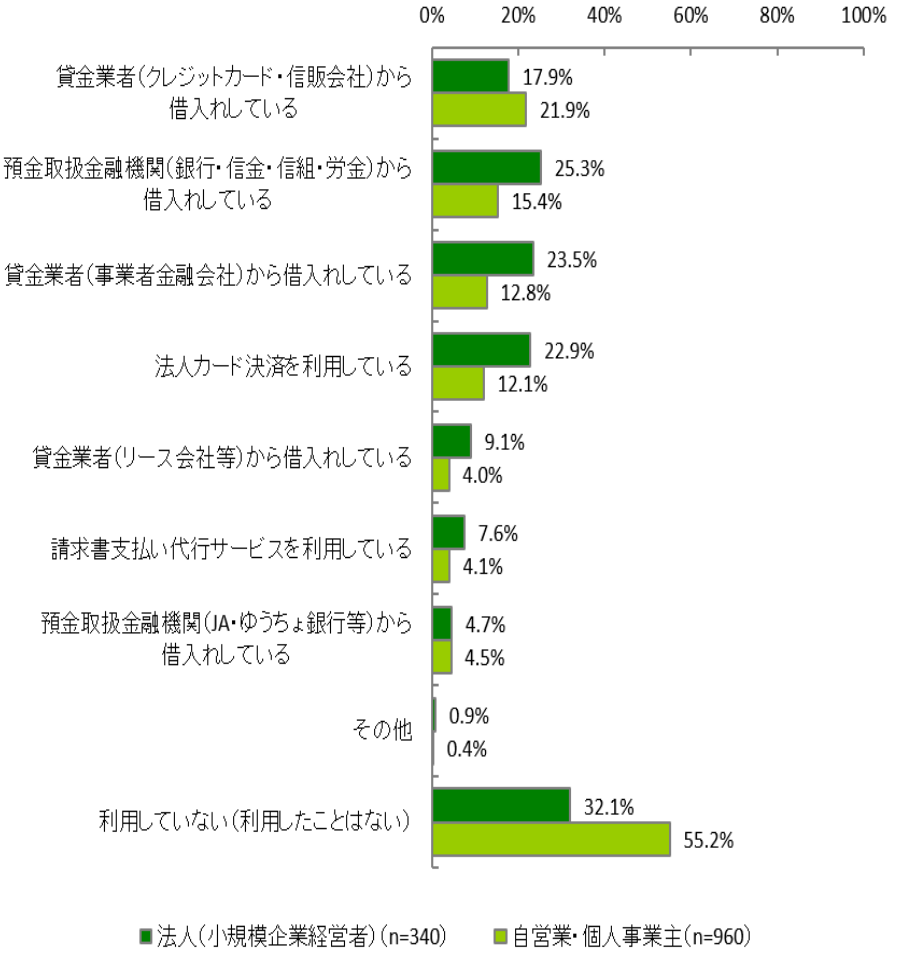
本編P294

◆買掛金や未払金などの負債を支払う際に利用している金融サービスについて調査したところ、「貸金業者（クレジットカード会社・信販会社）から借入れ」20.8%、「預金取扱金融機関から借入れ」18.0%、「貸金業者（事業者金融会社）から借入れ」15.6%、「法人カード決済」14.9%が上位となった。一方、49.2%はこれらを利用していないと回答している。

■ **買掛金や未払金などの支払い時に利用している金融サービス (複数回答　n=1,300)**



■ **法人個人事業主別 (複数回答　n=1,300)**



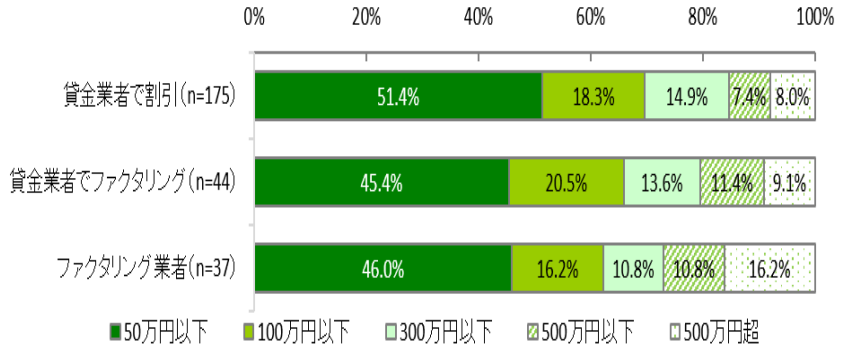
Copyright © 2026 Japan Financial Services Association. All Rights Reserved

本編P299

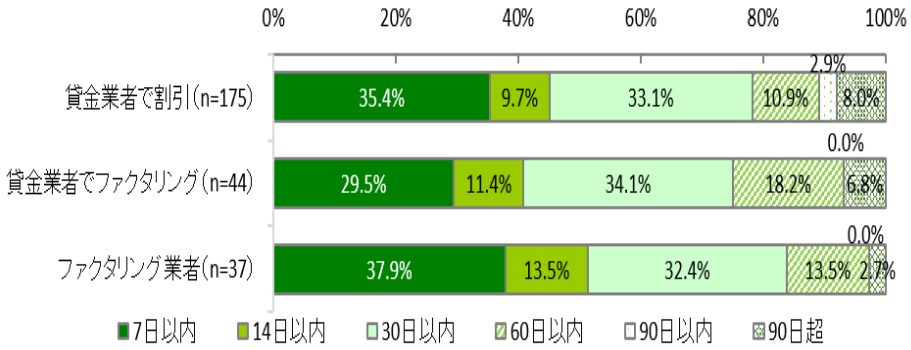
現金化した金額や手数料等

- 貸金業者で手形や電子記録債権（でんさい）を割引した額面金額と手数料等について調査したところ、現金化した額面は「50万円以下」51.4%、手数料は「5万円以下」46.3%、決済日までの残日数は「7日以内」35.4%が最も高い結果となった。
- また、ファクタリング業者を利用したと回答した事業者の場合は、現金化した額面は「50万円以下」46.0%、手数料は「5万円以下」43.3%、決済日までの残日数は「7日以内」37.9%が最も高い結果となった。

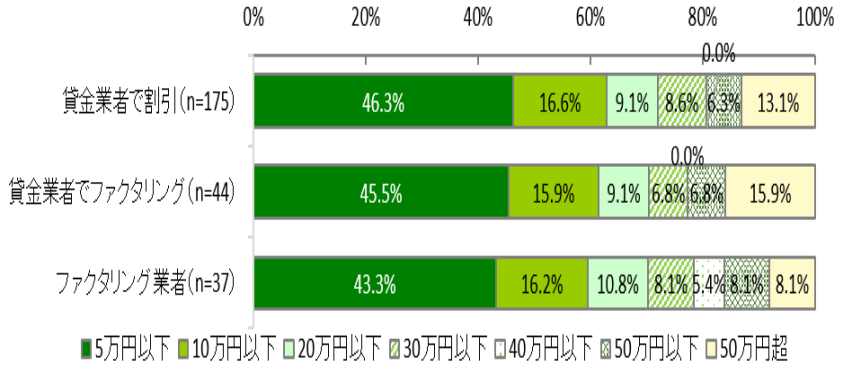
■ 現金化した額面額



■ 決済日までの残日数



■ 手数料の額



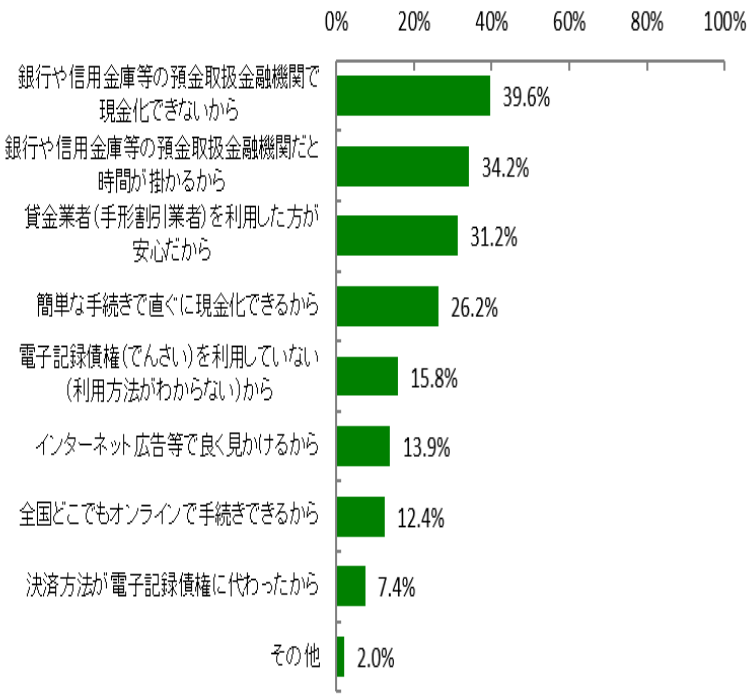
Copyright © 2026 Japan Financial Services Association. All Rights Reserved

本編P304

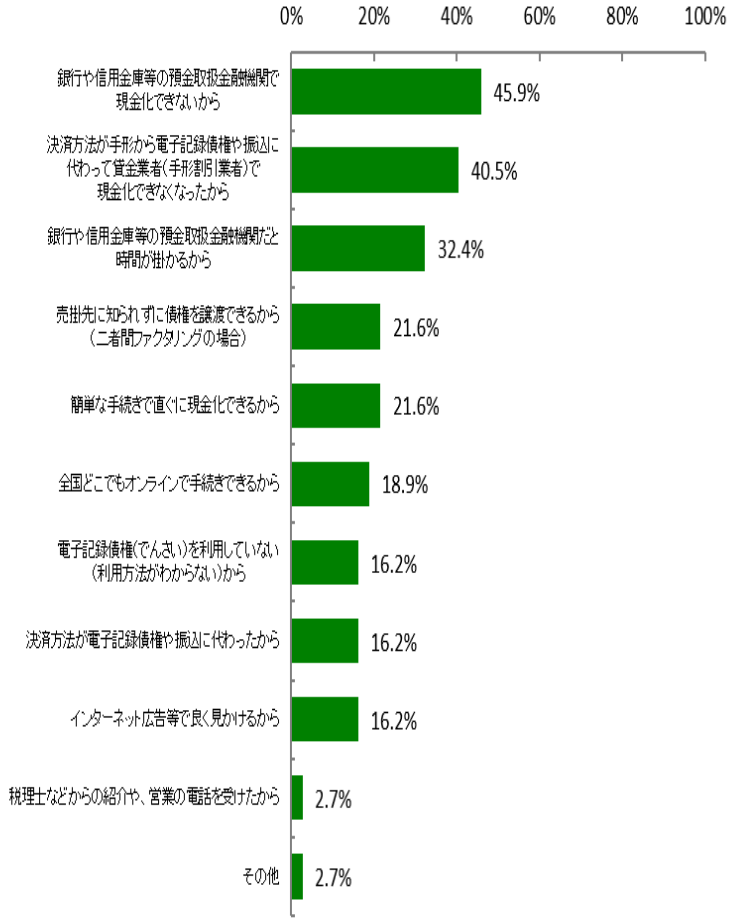
現金化する先として選んだ理由

◆ 売掛債権等の現金化の際に貸金業者（手形割引業者等）を利用したと回答した事業者に対して、利用先として貸金業者を選んだ理由については、「銀行等の預金取扱金融機関で現金化できない」39.6%、「銀行等の預金取扱金融機関では時間がかかる」34.2%、「貸金業者を利用した方が安心」31.2%が上位となった。ファクタリング業者では、「決済方法が手形から電子記録債権に変わって現金化できなくなったから」40.5%との回答があった。

■ 貸金業者（手形割引業者等）を選んだ理由（複数回答　n=202）



■ ファクタリング業者を選んだ理由（n=37）



Copyright © 2026 Japan Financial Services Association. All Rights Reserved

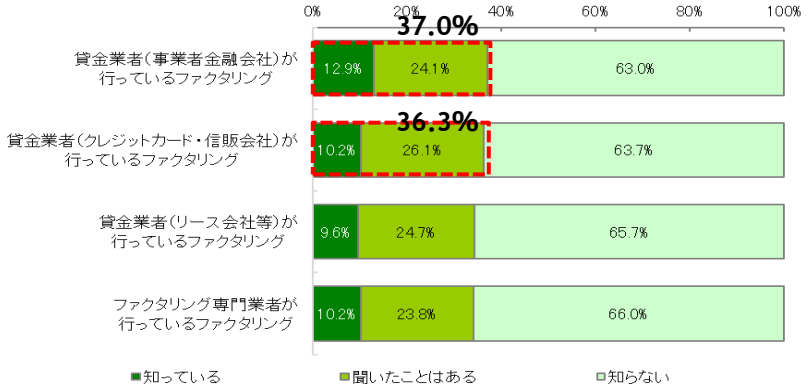
本編P309.310

ファクタリングサービスの認知度・利用意向

- ファクタリングサービスの認知度については、「貸金業者（事業者金融会社）が行っているファクタリング」37.0%が最も高く、「貸金業者（クレジットカード・信販会社）が行っているファクタリング」36.3%が続いている。
- 利用意向では、「利用している」、「状況によっては利用したい」の合計は、「貸金業者（事業者金融会社）が行っているファクタリング」20.1%が最も高く、次いで「貸金業者（クレジットカード・信販会社）が行っているファクタリング」19.9%となった。

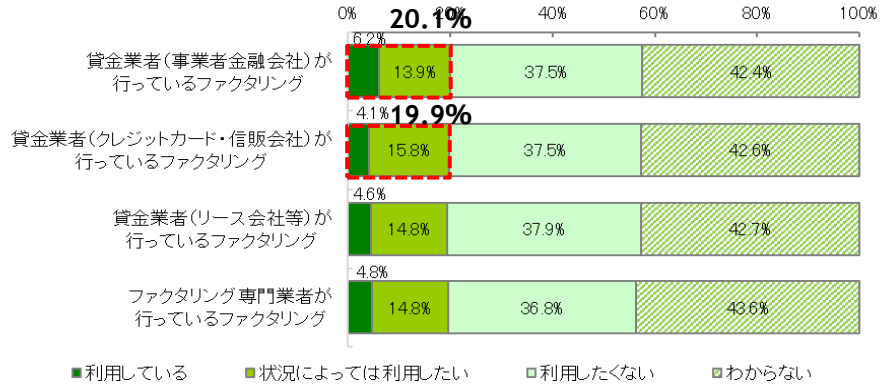
ファクタリングサービスの認知度

■ （n=1,300）

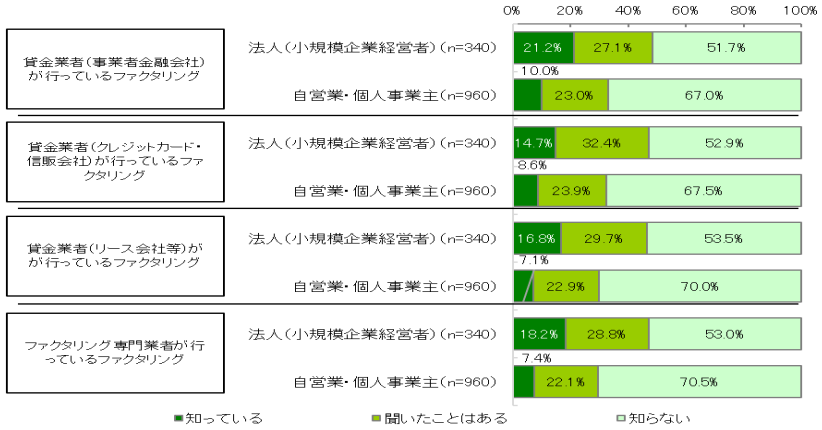


ファクタリングサービスの利用意向

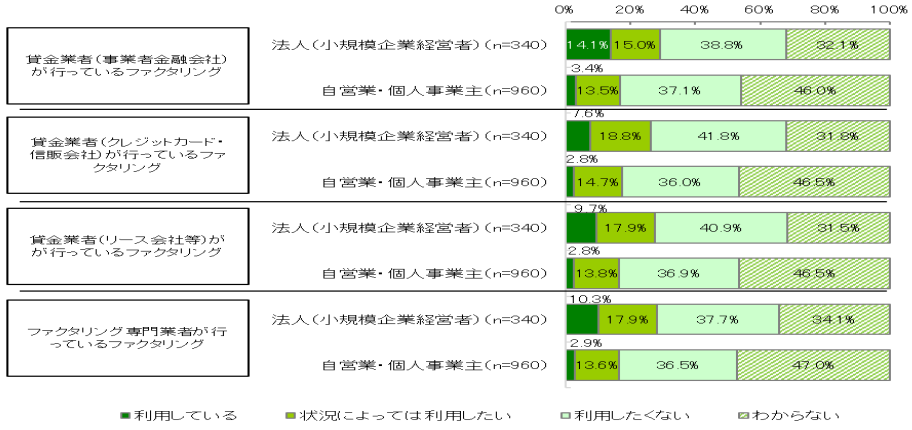
■ （n=1,300）



■ 法人個人事業主別（n=1,300）



■ 法人個人事業主別（n=1,300）



Copyright © 2026 Japan Financial Services Association. All Rights Reserved

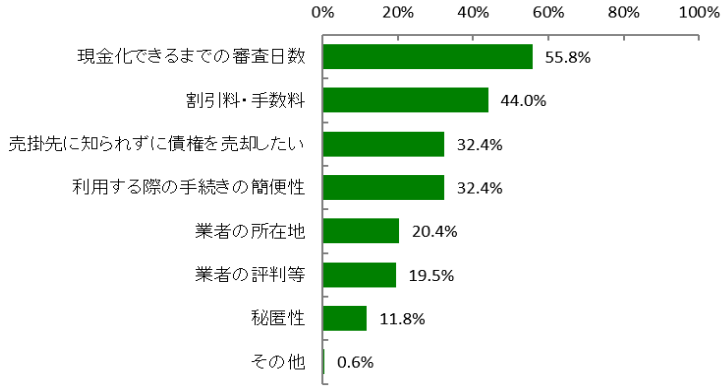
本編P311.312

現金化する際に重視するポイント・望むこと

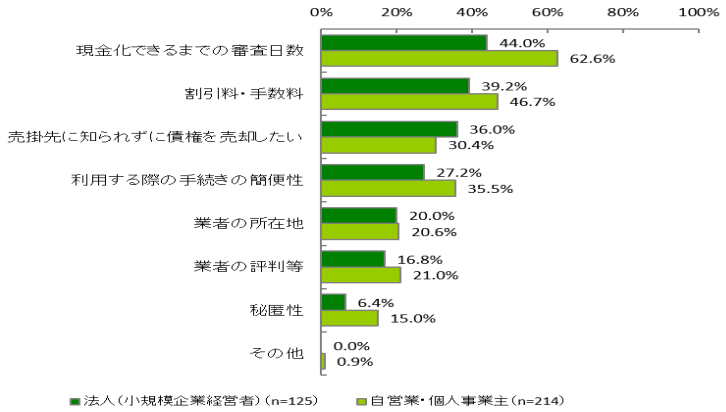
- 現金化する際に重視するポイントについては、「現金化できるまでの審査日数」55.8%が最も高く、「割引料・手数料」44.0%、「売掛先に知られずに債権を売却したい」32.4%、「利用する際の手続きの簡便性」32.4%が続いた。また、自営業・個人事業主では「現金化できるまでの審査日数」62.6%が特に高い結果となった。
- 現金化に望むことについては、「売掛先の信用力をもとに審査するので、短い期間で現金化できる」46.6%が最も高く、「売掛先や預金取扱金融機関との信用を維持できる」45.1%、「赤字や税金滞納などの状況でも利用できる」38.1%が続く結果となった。

現金化する際に重視するポイント

■ (複数回答　n=339)

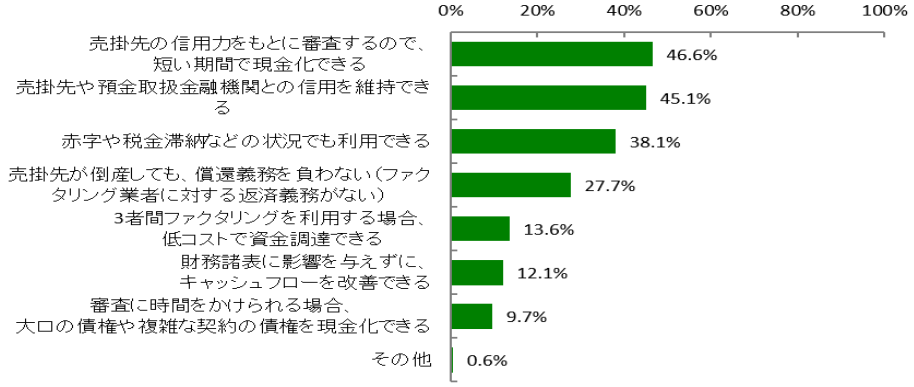


■ 法人個人事業主別（n=339）

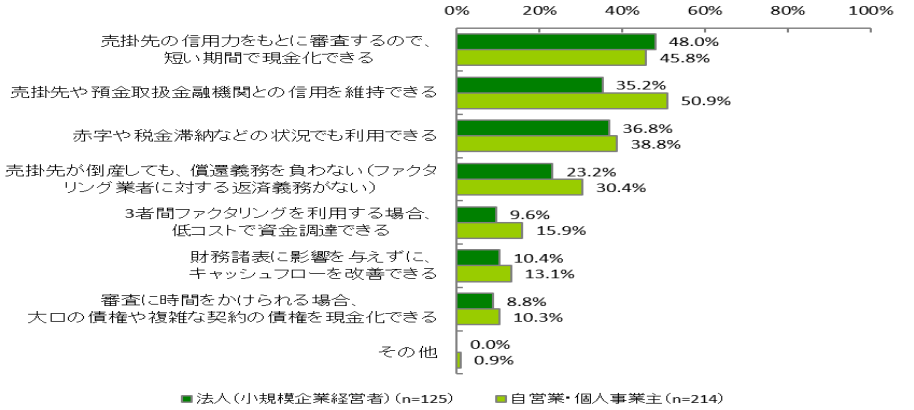


現金化する際に望むこと

■ (複数回答　n=339)



■ 法人個人事業主別（n=339）



Copyright © 2026 Japan Financial Services Association. All Rights Reserved

本調査結果に関するお問い合わせにつきましては、

業務企画部・調査課 までお願い致します。

Tel:03-5739-3013

E-mail:chousa@j-fsa.jp

Copyright © 2026 Japan Financial Services Association. All Rights Reserved